



## STAND-ALONE EDITION

と共に使用するための

## インストールガイド

Websense Enterprise<sup>®</sup>

Websense<sup>®</sup> Web Security Suite<sup>™</sup>

-Corporate Edition を含む

**v6.3**

©1996–2006, Websense Inc.

10240 Sorrento Valley Rd., San Diego, CA 92121, USA

All rights reserved.

2006年11月5日

発行アメリカ合衆国およびアイルランドにて印刷

本マニュアルに記載されている製品および使用方法は、米国 特許番号 6,606,659 および 6,947,985 およびその他の申請中の特許で保護されています。

本書の一部または全部を Websense, Inc. からの書面による事前の同意なく、いかなる電子メディアまたはコンピュータに複製、複製、転載、翻訳することを禁じます。

本ガイドの内容の正確性については万全を期しています。しかしながら、Websense, Inc. は、これを一切保証するものではなく、本製品の商品性および特定の用途に対する適合性についても同じく一切保証していません。Websense, Inc. は、本ガイドまたはガイドに含まれる例の提供、性能、または使用にかかわる偶発的、副次的ないかなる損害に対しても、責任を負い兼ねます。本書の情報は、通知なしに変更されることがあります。

## 商標について

Websense および Websense Enterprise は、米国および特定の国際市場における Websense, Inc. の登録商標です。Websense は、米国において、および国際的に、多くの他の未登録商標を所有しています。すべての他の商標は、それぞれ該当する所有者の財産です。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Server および Active Directory は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Solaris、UltraSPARC、Sun Java System および すべての Sun Java System ベースの商標 および ロゴは Sun Microsystems, Inc., の米国 および その他の国における商標です。

Red Hat は Red Hat, Inc., の米国および他の国における登録商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Novell、Novell Directory Services、eDirectory、および ZENworks は Novell, Inc., の米国および他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国および他の国における登録商標です。

本製品には Apache Software Foundation ([www.apache.org](http://www.apache.org)) により開発されたソフトウェアが含まれています。

Copyright (c) 2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

本マニュアルに記載されているその他の製品名はそれぞれの企業の登録商標であり、各メーカーにのみ所有権があります。

## WinPcap

Copyright (c) 1999 – 2006 NetGroup, Politecnico di Torino (Italy).

Copyright (c) 2006 CACE Technologies, Davis (California).

All rights reserved.

以下の条件が満たされている場合は、変更の有無にかかわらず、ソースフォームおよびバイナリーフォームにより再配布および使用を許可します：

- ・ ソースコードの再配布には、上記の著作権、一連の条件および次の免責事項が適用されなければなりません。
- ・ バイナリーフォームによる再配布は、上記の著作権、初回の配布に記載されたマニュアルまたはその他の製品およびその双方における一連の条件および次の免責事項が適用されなければなりません。
- ・ Politecnico di Torino, CACE Technologies の名称またはその関係者の名称も、特に書面による事前の承認なく、本ソフトウェアから生じた製品を確認または販売促進するために使用することはできません。

本ソフトウェアは著作権所有者であり関係者により“このままの状態”提供されており、販売および特定の目的に対する適合性を暗示する保証を含め、明示的または暗示的保証は一切認められません。いかなる場合でも、著作権所有者または関係者はいかなる形においても本ソフトウェアの使用以外から生じた直接的、間接的および偶発的損害、特殊な損害、典型的または必然的損害（代替製品またはサービスの調達、使用権、データ、利益の損失、または事業の中断など）、および契約書における記載の有無にかかわらず、どのような考え方における責任、厳格な責任または不法行為（過失、他を含む）においても、そのような損害が生じる可能性を通告されたとしても、一切責任を負いません。

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>7</b>
	このガイドについて.....	7
	Websense のコンポーネント.....	8
	Websense の機能について.....	11
	配備作業 .....	12
<b>第 2 章</b>	<b>Network の設定</b> .....	<b>15</b>
	Websense Enterprise と Web Security Suite のコンポーネント ...	15
	Websense コンポーネントの配備.....	25
	スタンドアロン版のインストール .....	25
	Websense レポートング・コンポーネント .....	28
	ディレクトリ・サービス.....	29
	Citrix® Server ユーザを含むネットワークでのフィルタリング.....	31
	システム要件 .....	32
	ユーザ・ワークステーション .....	33
	外部リソース.....	33
<b>第 3 章</b>	<b>Websense Enterprise または Web Security Suite のアップグレード</b> 35	
	サポートされるバージョン.....	36
	アップグレードせずに設定データを転送する .....	37
	アップグレードの前に.....	38
	Windows でのアップグレード .....	40
	Solaris または Linux でのアップグレード .....	48
	Remote Filtering コンポーネントのアップグレード.....	54
	Remote Filtering Server .....	54
	Remote Filtering Client Pack .....	54
	Remote Filtering Client.....	55
	Websense Enterprise から Web Security Suite にアップグレードする ...	59

---

	初期設定 .....	60
	Stand-Alone システムを統合システムへ変換する .....	60
	インストールされたコンポーネントの IP アドレスを変更する ..	60
<b>第 4 章</b>	<b>Websense Enterprise または Web Security Suite のインストール</b> ..	<b>61</b>
	Websense インストーラ .....	61
	英語以外の言語バージョン .....	62
	インストールの前に .....	64
	Websense の通常インストール .....	67
	Windows の場合 .....	67
	Solaris または Linux .....	87
	Websense コンポーネントを個別にインストールする .....	98
	Windows の手順 .....	101
	Solaris および Linux の手順 .....	149
	インストールの修復 .....	175
	コンポーネントの追加 .....	176
	コンポーネントの削除 .....	188
	インストールの修正 .....	195
	Policy Server を修正する .....	201
	Websense Service の停止と起動 .....	203
	サービスの手動停止 .....	203
	Windows の場合 .....	204
	Solaris および Linux .....	206
<b>第 5 章</b>	<b>初期設定</b> .....	<b>209</b>
	ライセンスキーと Master Database のダウンロード .....	210
	ブロック・ページ URL のために Filtering Service を指定する ..	215
	プロトコル・ブロック・メッセージの表示 .....	217
	Logon Agent のスクリプトを作成および実行する .....	218
	ログオン・スクリプトを実行するための必要条件 .....	218
	ファイルの位置 .....	218
	配備作業 .....	219
	ログオン・スクリプトを準備する .....	219
	ログオン・スクリプトの実行を設定する .....	222
	Network Agent を複数の NIC を使用するように設定する .....	226

---

	Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト.....	227
	Websense トラフィック検証ツールの実行 .....	227
	ドメイン管理者権限を設定する.....	230
	ファイアウォールまたはルータを設定する.....	231
	Websense Web Protection Services™ の有効化.....	231
	SiteWatcher™ .....	232
	BrandWatcher™.....	232
	ThreatWatcher™.....	232
	Remote Filtering のファイアウォールの設定.....	232
	Remote Filtering Server と Remote User Workstation 間の通信を有効にする .....	233
	Remote Filtering Server と Filtering Service 間の通信を有効にする..	233
	Remote Filtering が利用できないとき、リモート・ユーザのインターネット・アクセスをブロックする .....	234
	Remote Filtering Client Log の設定 .....	236
<b>付録 A</b>	<b>ステルスモード.....</b>	<b>239</b>
	ステルスモードの設定.....	239
	Windows.....	240
	Solaris または Linux.....	241
<b>付録 B</b>	<b>トラブルシューティング.....</b>	<b>243</b>
<b>付録 C</b>	<b>テクニカル・サポート.....</b>	<b>261</b>
	Websense テクニカル・サービス・サポート・センター .....	261
	プレミアム・サポート .....	261
	サポート・オプション.....	262
	ウェブ・ポータル.....	262
	電話によるお問い合わせ .....	262
	カスタマ・ケア .....	263
	マニュアルの改善 .....	263
<b>索引</b> .....		<b>265</b>



# はじめに

Websense® ウェブ・フィルタリングおよびウェブ・セキュリティ・ソフトウェアをお買い上げいただきありがとうございます。このガイドは、Websense Enterprise® または Websense® Web Security Suite™ のスタンドアロン版のインストールと初期設定をカバーしています。

Websense, Inc. は、インターネット・アクセスに関する組織のポリシーをユーザに通知すること、および Websense ソフトウェアを利用状況のモニタおよびインターネット使用ポリシーを徹底するためのツールとしてインストールしている事実を通知することを強くお勧めします。

## このガイドについて

---

このガイドは次の Websense 製品で使用することができます：

- ◆ Websense Enterprise®
- ◆ Websense Enterprise® – Corporate Edition
- ◆ Websense® Web Security Suite™
- ◆ Websense® Web Security Suite™ – Corporate Edition
- ◆ Websense® Web Security Suite – Lockdown Edition™
- ◆ Websense® Web Security Suite™ Lockdown – Corporate Edition

このガイドで提供されるインストールと初期設定についての情報は、これらの製品の Websense Enterprise および Websense Web Security Suite コンポーネントに適用されます。一般に、これらのコンポーネントは Web フィルタリングに関連しています。

また、Web フィルタリングのレポート・ツールはリストされた製品のすべてで、利用可能です。これらの Websense コンポーネントをインストールし、使用するための情報は、Websense Enterprise および Web Security Suite のレポート・マニュアルを参照してください。

Web Security Suite – Lockdown Edition および Web Security Suite Lockdown – Corporate Edition は、Web フィルタリングおよび Web フィルタリング・レポーティング・コンポーネントに加えて、デスクトップ・フィルタリング・コンポーネントおよびデスクトップ・フィルタリング・レポーティング・コンポーネントを含みます。詳細は、Client Policy Manager™ (CPM) のマニュアルを参照してください。

特に明記されていない場合、“Websense ソフトウェア” に関するリファレンスは、Websense Enterprise および Websense Web Security Suite の両方に適用されます。特に明記されていない場合、このガイドで示されるサンプルの Websense インストーラ画面は、Websense Enterprise インストーラのもので、Web Security Suite の画面の内容が、示された Websense Enterprise の画面と特に違う場合は、テキストに注記されています。

## Websense のコンポーネント

---

次は、Websense Enterprise および Web Security Suite のコンポーネントの一覧です。各コンポーネントの使用および設定の詳細は、Websense Enterprise および Web Security Suite の管理者用ガイドを参照してください：

- ◆ **Policy Server** : フィルタリング・ポリシーを含む全ての Websense 設定情報を保存し、そのデータをその他の Websense Service に送信します。
- ◆ **Filtering Service** : Network Agent と相互に動作し、インターネット要求をフィルタリングします。Filtering Service は、インターネット要求を許可するか、または適切なブロック・メッセージをユーザに送信します。
- ◆ **Websense Manager** : Policy Server を介して Websense の機能を設定・管理する管理インタフェースです。Websense Manager はインターネット・アクセス・ポリシーを定義し、カスタマイズし、クライアントを追加または削除し、Policy Server を設定するなどのために使用されます。
- ◆ **User Service** : ネットワークのディレクトリ・サービスと通信し、ユーザ、グループ、ドメインおよび組織単位に基づいたフィルタリング・ポリシーを適用します。
- ◆ **Network Agent** : すべてのインターネット・アクティビティを検出し、Filtering Service と共に HTTP およびその他のプロトコル要求

の両方をチェックします。スタンドアロン版のフィルタリング・エージェントとしての役割に加え、Network Agent は帯域幅データをキャプチャします。転送されるバイト数を計算し、Filtering Service に対して、この情報を記録するよう要求を送信します。

- ◆ **Usage Monitor** : ユーザのインターネット利用状況を監視し、設定されたしきい値に達したとき Websense 管理者に警告を送ります。
- ◆ **DC Agent** : Windows® ディレクトリ・サービスを介して認証するユーザを透過的に識別するオプションのコンポーネントです。DC Agent は、特定のユーザまたはグループに割り当てられたポリシーに応じてインターネット要求をフィルタリングできるようにします。
- ◆ **RADIUS Agent** : RADIUS Server を介して動作し、ダイヤルアップ、Virtual Private Network (VPN)、Digital Subscriber Line (DSL) またはその他のリモート接続を使用してネットワークに接続するユーザおよびグループを透過的に識別するオプションのコンポーネントです。
- ◆ **eDirectory Agent** : Novell eDirectory と共に動作し、ユーザまたはグループに割り当てられた特定のポリシーに応じて Websense がフィルタリングできるようユーザを透過的に識別するオプションのコンポーネントです。
- ◆ **Logon Agent** : Websense クライアント・アプリケーション (LogonApp.exe) と共に動作し、ユーザがクライアント・コンピュータから Windows ドメインにログオンする際に透過的に識別するオプションのコンポーネントです。Logon Agent は、LDAP ベースの Windows NT® ベース・ディレクトリ・サービスまたは Active Directory® で使用できます。Logon Agent は、ネットワークでログオン・スクリプトによって実行される LogonApp.exe と呼ばれるログオン・アプリケーションから、ユーザ情報を受け取ります。
- ◆ **Real-Time Analyzer (RTA)** : Websense Enterprise または Web Security Suite でフィルタリングされたすべてのトラフィックのリアルタイムな状態を表示します。RTA は帯域幅情報をグラフィカルに表示し、カテゴリ別、またはプロトコル別に要求を表示します。
- ◆ **Remote Filtering Server** : 組織のネットワーク・ファイアウォールまたはインターネット・ゲートウェイの外側に位置するコンピュータにウェブ・フィルタリングを提供するオプション・コンポーネントです。Remote Filtering Server を通してフィルタされるためには、リモート・ワークステーションで Remote Filtering Client を実行している必要があります。リモート・フィルタリング・サービスのライセンスがある場合にのみ、Remote Filtering Server が有効になります。

- ◆ **Remote Filtering Client** : ノートブック・コンピュータなどの組織のネットワーク・ファイアウォールまたはインターネット・ゲートウェイの外側で使用される、クライアント・コンピュータ上にインストールされるオプションのコンポーネントです。リモート・ワークステーションでウェブ・フィルタリングを可能にするために、このコンポーネントはネットワーク・ファイアウォールの内側の Remote Filtering Server と接続します。リモート・フィルタリング・サービスのライセンスがある場合のみ、Remote Filtering Client が有効になります。



### ご注意

Remote Filtering Client は、Websense Client Policy Manager™ (CPM) のクライアント・エージェントの一部としても利用できます。詳細は、Websense Client Policy Manager のマニュアルを参照してください。

---

- ◆ **Websense Master Database** : それぞれの内容によって分類された、数百万ものインターネット・サイトを含みます。さらに、Master Database にはストリーミング・メディア、ピア・ツー・ピア・ファイル共有 および インスタント・メッセージなどのプロトコルが含まれます。
- ◆ **Websense Enterprise Reporter** : Websense Enterprise および Web Security Suite に無償で提供される別個のプログラムです。Log Server コンポーネントは、ネットワークのインターネット・アクティビティを記録します。このログ情報を使用して、Reporter はネットワークのインターネットの使用動向を示すさまざまなレポートおよびグラフを作成することができます。これらのレポートを使用して、インターネットのフィルタリング方針を修正したり、ネットワークのリソースの活用や従業員の生産性を向上させたりすることができます。インストール手順は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『Reporting インストールガイド』を参照してください。
- ◆ **Websense Enterprise Explorer** : Websense Enterprise および Web Security Suite に無償で提供される Web ベースのレポートング・アプリケーションです。Explorer は Log Database の内容をカスタマイズして表示します。ユーザのインターネット利用状況に関する特定の詳細と要約情報を表示します。インストール手順は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『Reporting インストールガイド』を参照してください。

- ◆ **Websense Enterprise Explorer for Unix** : Websense Enterprise および Web Security Suite に無償で提供される Web ベースのレポートインク・アプリケーションです。Explorer for Unix は、UNIX ベースのオペレーティングシステム用であること以外は、Websense Enterprise Explorer と同じ機能を提供します。インストール手順は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『Explorer for Unix 管理者用ガイド』を参照してください。

## Websense の機能について

Websense Filtering Service は、インターネット・コンテンツ・フィルタリングを実行するエンジンです。Websense のフレキシブルなポリシー・ベースのフィルタリングにより、Websense ソフトウェアは、異なるクライアント（ユーザ、グループ、ドメイン / 組織単位、ワークステーションまたはネットワーク）に異なるフィルタリング・ポリシーを適用できます。

Network Agent がクライアントからのインターネット要求を検出すると、Websense Filtering Service にクエリを送信して、要求されたサイトがブロックされるかどうかを確認します。この決定を行うために、Websense Filtering Service はクライアントに割り当てられたポリシーを調べます。各ポリシーでは、1 週間で特定の期間に区切り、その期間に有効なカテゴリセットがリストされます。ブロックされるカテゴリを決定したら、Filtering Service はインターネット・アドレス (URL) の総合データベースを検索します。サイトがブロックされるカテゴリに割り当てられている場合は、要求されたサイトがインターネットから返される前に、Filtering Service は要求されるワークステーションへブロック・ページを送ります。Network Agent は、要求されたサイトがインターネットから返される際に、そのサイトを許可しないようワークステーション・ブラウザに指示します。同時に、要求されたインターネット・サイトで、サーバにこれ以上情報を送信しないように指示します。

Websense Enterprise および Web Security Suite は、TCP ベースのプロトコルを使用するネットワーク・アプリケーションをフィルタリングするほかに、UDP ベースのメッセージの帯域幅使用量を測定します。初期のインターネット要求が TCP で作成され、Websense ソフトウェアがその要求をブロックする場合は、後続のすべての UDP トラフィックもブロックされます。RTSP および RTP などの UDP プロトコルは、モニタされ、ログ記録されます。

割り当て機能は、完全ブロックの代わりに使用できます。この機能は、適切であると見なされたカテゴリ内のサイトを訪問する時間を従業員に毎日提供します。割り当て機能は、インターネット・アクセス管理のパワフルなツールです。割り当て機能を使用すると、従業員が私用のネットサーフィンに費やす時間、および従業員がアクセスできるサイトの種類を制御できます。詳細は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

Protocol Management 機能は、Websense ソフトウェアが HTTP 以外のインターネット・プロトコルをフィルタリングすることを可能にします。この中には、プロトコル・アプリケーションのほか、インスタント・メッセージ、ストリーミング・メディア、ファイル共有、ファイル送信、インターネット・メール、および様々なネットワークまたはデータベース操作に使用されるデータ転送方法が含まれます。

Bandwidth Optimizer を含むライセンスがある場合、Websense ソフトウェアは使用可能な帯域幅に基づいてインターネット・サイト、プロトコル、またはアプリケーションをフィルタリングできます。帯域幅使用方法に基づいて、サイト、プロトコル、またはアプリケーションへのユーザ・アクセスを制限するようフィルタリングを設定できます。

Instant Messaging (IM) Attachment Manager を含むライセンスがある場合、ファイルのアップロード送信と IM クライアントとのファイル共有を制限するよう Websense ソフトウェアを設定することができます。この機能は、IM クライアントによるアップロード転送をブロックしている間、ある特定の IM トラフィックを許可できるように Websense Enterprise および Web Security Suite のデフォルトの IM 制御機能を拡張します。

## 配備作業

---

次の手順は、Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールし、Network Agent でインターネット・トラフィックをフィルタリングするよう設定する場合に推奨されます。

1. **Websense の配備を計画する** : Websense コンポーネントは、ネットワークのサイズや構造によって、さまざまな組み合わせで配備できます。まず、インストールする Websense コンポーネントを選択し、それをどこに保存するか決定します。この決定に必要な情

報は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『配備ガイド』にあります。小規模なネットワーク (< 500 ユーザ) での基本的な配備の概要は、[第 2 章 : Network の設定](#) を参照してください。

2. **Websense をインストールする** : Websense ソフトウェアをネットワークでどのように配備するか決定したら、選択されたコンポーネントをインストールします。インストールの手順については、[第 4 章 : Websense Enterprise または Web Security Suite のインストール](#) を参照してください。
3. **初期設定の作業を行います** : [第 5 章 : 初期設定](#) のインストール後の設定作業を行います。

デフォルトのグローバル Web フィルタリングのセットアップ作業を完了したら、フィルタリング・ポリシーをカスタマイズし、ユーザおよびグループ・ベースのフィルタリングを設定することができます。また、Websense Enterprise および Web Security Suite の『管理者用ガイド』の解説に従い、より進歩した Websense 機能の使用方法を学ぶこともできます。



# Network の設定

Websense コンポーネントは、ネットワークの性質やフィルタリング要件に応じて多くの構成にインストールすることができます。ネットワークに適切に配備する方法とシステム要件の完全なリストは、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

本章の情報は、Websense コンポーネントの相互関係を判断する際に役立つ Websense コンポーネントのインストール場所についての概要を提供します。

## Websense Enterprise と Web Security Suite のコンポーネント

Websense Enterprise と Web Security Suite コンポーネントをネットワークに配備する方法を決定する場合、以下のインストールの依存関係を考慮してください：

- ◆ **Filtering Service** : 通常は Policy Server と同じコンピュータにインストールされますが、Websense Manager と同じコンピュータにインストールされることもあります。Filtering Service は、Policy Server と異なるオペレーティングシステムにインストールできますが、その場合は互いに通信できるよう適切に設定する必要があります。これは通常の配備とは異なります。Filtering Service は、Windows、Solaris™ および Linux® 上にインストールします。高品質のネットワーク接続にしたい場合は、各 Policy Server に最大 10 個の Filtering Service をインストールすることができます。詳細は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。
- ◆ **Policy Server** : 通常は Filtering Service と同じコンピュータにインストールされますが、ネットワークの構成によっては別のコンピュータにインストールされることがあります。各論理インストールにインストールされる Policy Server は 1 台のみです。その一例は、1 つのサブネットの各コンピュータに同じポリシーとカテ

ゴリを与える Policy Server です。Policy Server は、Windows、Solaris および Linux 上にインストールします。

- ◆ **Websense Manager** : Policy Server と同じコンピュータにインストールされるか またはネットワーク内の異なるコンピュータにインストールされます。Websense Manager のコンピュータは、ネットワーク上で Policy Server のコンピュータにアクセスする必要がありますが、2つのコンピュータは同じオペレーティングシステムである必要はありません。Websense Manager は、Windows および Solaris にインストールします。
- ◆ **User Service** : 認証を行うためのディレクトリ・サービスを使用するネットワークにインストールされます。クライアント・ワークステーションの IP アドレスに基づいてのみインターネット要求をフィルタリングし、ログを残す場合 User Service は必要ありません。User Service は、Policy Server がサポートするオペレーティングシステムにインストールでき、通常は同じコンピュータにインストールされます。ただし、User Service を Policy Server と異なるオペレーティングシステムにインストールすることも可能です。例えば、Policy Server を Linux にインストールする場合、User Service を Windows コンピュータに別にインストールできません。User Service は、Windows、Solaris および Linux 上にインストールします。



### 重要

ネットワーク内で、各 Policy Server にインストールできる User Service は 1 つだけです。

---

多言語サポートを提供するシステムでは、User Service は正しい結果を 1 つのロケールにのみ返します。Policy Server で設定されるロケールは、ディレクトリ・サービスでサポートされる言語を決定します。多言語サポートを必要とする組織は、その言語に設定されたコンピュータに、それぞれサポートされる言語の製品群 (User Service、Policy Server および Filtering Service) をインストールする必要があります。

- ◆ **Network Agent** : スタンドアロン版で必要とされるコンポーネントです。HTTP トラフィックおよびその他のプロトコルを管理します。ニーズとネットワークの構成によって、Filtering Service 上にインストールするか、個別にインストールできます。Network Agent は、Windows、Solaris および Linux にインストールします。Network Agent の配備を計画する場合、次の点を考慮してください :

- Network Agent は、効果的にフィルタリングおよびログを行うために、内部ネットワークから両方向のインターネット・トラフィックを直接確認することができる必要があります。ネットワーク設定が、ワークステーションからのインターネット要求、およびワークステーションへ戻されるインターネットからの応答の両方が Network Agent を通過するよう設定されていることを確認してください。最適なパフォーマンスのためには、Network Agent を外部ルータとネットワーク間に設置されたアンマネージド、アンスイッチド・ハブに接続された専用のコンピュータにインストールしてください。スイッチを使用するネットワークに Network Agent をインストールしている場合、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』で「Network Agent の配備」の章の「スイッチの設定」の項を参照してください。
- 中小規模の組織では、サーバが最小限のシステム要件を満たしていることを前提に、Network Agent をその他の Websense フィルタリング・コンポーネントと同じコンピュータにインストールすることができます。大規模組織では、Network Agent を専用のサーバにインストールすると、管理できるトラフィック量が増加します。
- 大規模なネットワークでは、複数の Network Agent をインストールし、ネットワーク内のあらゆる IP アドレス範囲をモニタするようそれらを割り当てなければならない場合があります。Network Agent の各インスタンスの IP アドレス範囲が重複しないよう注意してください。二重ロギングを引き起こす原因になります。ネットワーク全体をフィルタリングできるよう、Network Agent を配備してください。一部しか配備されていない場合、Network Agent によって監視されていないネットワーク・セグメントからのログ・データが損失し、プロトコルおよび帯域幅、および基本的な HTTP フィルタリングによるフィルタリングが不完全になります。複数の Network Agent のための IP アドレス範囲については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者ガイド』の「Network Agent」の章を参照してください。
- Network Agent を異なる LAN を介して配備しないでください。例えば、Network Agent のインスタンスを 192.x.x.x にインストールし、それを様々なスイッチおよびルータを介して

10.x.x.x で Filtering Service と通信するように設定する場合、Network Agent がインターネット要求を時間内にブロックできないほど通信が遅くなることがあります。

- Network Agent を、ファイアウォールを実行しているコンピュータにインストールしないでください。Network Agent は、パケット・キャプチャ・ユーティリティを使用しており、ファイアウォール・コンピュータにインストールされると適切に動作しません。唯一の例外は、Network Agent とファイアウォールソフトウェアの両方を配置できるよう、別々のプロセッサまたは仮想プロセッサを持つブレード・サーバまたはアプライアンスです。
- ◆ **Usage Monitor** : 通常は、Policy Server と同じコンピュータにインストールしますが、Policy Server にアクセスできるネットワーク上の別のコンピュータにインストールすることもできます。Usage Monitor は、Windows、Solaris、および Linux にインストールします。



### 重要

ネットワーク内で、各 Policy Server に対して Usage Monitor は 1 つだけインストールできます。

---

- ◆ **Real-Time Analyzer (RTA)** : Filtering Service と同じコンピュータにインストールするか、別のコンピュータにインストールできます。Real-Time Analyzer は、Windows にのみインストールします。Real-Time Analyzer (RTA) は希望するシステム設定とネットワークの負荷条件に依存してメモリおよび CPU 要求が厳しくなるので、リアルタイム性が重要なコンピュータにインストールするべきではありません。詳細は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。



### 重要

ネットワーク内で各 Policy Server に対し、RTA は 1 つしかインストールできません。

---

RTA をインストールするコンピュータに次のウェブ・サーバの 1 つがインストールされていなくてはなりません。

- Apache HTTP Server

- Microsoft IIS

**ご注意**

サポートされるウェブ・サーバがひとつもシステムにインストールされていない場合、Websense インストーラは、Apache HTTP Server のインストール・オプションを提供します。

これらの Web サーバのサポートされるバージョンの情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『**配備ガイド**』を参照してください。

- ◆ **Websense 透過的識別エージェント** : ユーザとグループ・ベースのフィルタリング・ポリシーを適用したい場合、Websense ソフトウェアは、要求を行ったユーザを識別することができなければなりません。Websense 透過的識別エージェントをインストールすると、ユーザにブラウザにログオンするよう促すことなく、Websense ソフトウェアがディレクトリ・サービス内のユーザからのインターネット要求をフィルタすることができるようになります。

Websense 透過的識別エージェントとして、DC Agent、eDirectory Agent、Logon Agent および RADIUS Agent が利用できます。次の説明は、ネットワークでユーザを識別するために適切なエージェントを選択し、インストールするための情報を提供しています。

- **DC Agent** : Windows ディレクトリ・サービス (NTLM ベースまたは Active Directory) を使用してネットワークにインストールされます。DC Agent は、ネットワーク上の任意の Windows または Linux コンピュータにインストールでき、他の Websense コンポーネントと同じサーバにも異なるサーバにもインストールできます。
  - ・ Websense, Inc. は、中小規模のネットワークでは、各ドメインに 1 つの DC Agent をインストールすることを推奨します。大規模で、同ドメインに多数のドメイン・コントローラを持つ分散ネットワークでは、複数の DC Agent をインストールすることができます。DC Agent をドメイン・コントローラ・コンピュータにインストールすることは、推奨しません。NetBIOS が、DC Agent とドメイン・コント

ローラ間で許可されている場合、DC Agent を任意のネットワーク・セグメントにインストールすることができます。DMZ に DC Agent を設定することは推奨されません。

- ・ DC Agent および RADIUS Agent は、ネットワーク内の同一コンピュータまたは別のコンピュータへインストールすることができます。
- ・ DC Agent と eDirectory Agent は、同じネットワーク内にインストールすることができます。しかし、Websense ソフトウェアは、同時に Windows と Novell ディレクトリ・サービス両方と通信することをサポートしていませんから、同時にアクティブにすることはできません。同じコンピュータ上に DC Agent と eDirectory Agent をインストールしないでください。
- ・ DC Agent が、予定どおりにすべてのユーザを識別しない場合は、Logon Agent をインストールし、ネットワークでのユーザ認証を改善した方が良いでしょう。例えば、これは Windows 98 を使用するネットワークで必要になります。DC Agent は、ワークステーション・ポーリングを使用して、ユーザがインターネット要求を行うワークステーションから情報を入手します。しかし、ポーリングで、Windows 98 ワークステーションからユーザ情報を取り込むことはできません。
- ・ DC Agent をインストールする場合、ネットワークの Windows 9x ワークステーションのコンピュータ名にスペースが含まれていないことを確認してください。コンピュータ名にスペースが含まれていると、そのワークステーションからインターネット要求が出される際に、DC Agent がユーザ名を受け取れなくなります。

設定情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。配備に関する詳細情報は、[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation) で公開されているホワイト・ペーパー、「Transparent Identification of Users in Websense Enterprise」を参照してください。

- **eDirectory Agent** : その他の Websense フィルタリング・ソフトウェアと同一のコンピュータまたはネットワーク内の別のコンピュータへインストールすることができます。同一ネットワーク内で、それぞれ Filtering Service と通信するように設定された複数の eDirectory Agent をインストールすることができます。

eDirectory Agent と RADIUS Agent をネットワーク上の同じコンピュータにも別のコンピュータにもインストールすることができます。eDirectory Agent は、DC Agent または Logon Agent と同じネットワーク内にインストールすることができます。しかし、Websense ソフトウェアは、同時に Windows と Novell ディレクトリ・サービスと通信することをサポートしていませんので、同時に有効にすることはできません。eDirectory Agent は DC Agent または Logon Agent と同じコンピュータにインストールしないでください。eDirectory Agent は、Windows、Solaris および Linux 上にインストールします。

設定情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』の「ユーザ識別」の章を参照してください。配備に関する詳細情報は、[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation) で公開されているホワイト・ペーパー、「Transparent Identification of Users in Websense Enterprise」を参照してください。

- **Logon Agent** : その他の Websense フィルタリング・ソフトウェアと同一のコンピュータまたはネットワーク内の別のコンピュータへインストールすることができます。Logon Agent は、ネットワークでのユーザ認証の正確さを改善するために、DC Agent と共にインストールされます。Logon Agent は Windows、Linux または Solaris 上にインストールされ、User Service と Filtering Service と共に動作します。Logon Agent は LDAP ベースの Windows NT ベース・ディレクトリ・サービスまたは Active Directory で使用できます。LogonApp.exe は、Logon Agent にユーザ・ログオン情報を渡すクライアント・アプリケーションで、Windows クライアント・コンピュータ上でのみ動作します。ネットワークで LogonApp.exe を実行するためにログオン・スクリプトを作成する必要があります。手順は、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページ](#) を参照してください。Logon Agent と eDirectory Agent は、同じネットワーク内にインストールすることができます。しかし、Websense ソフトウェアは、同時に Windows と Novell ディレクトリ・サービス両方と通信することをサポートしていませんから、同時にアクティブにすることはできません。同じコンピュータ上に Logon Agent と eDirectory Agent をインストールしないでください。

設定情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。配備に関する詳細情報は、[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation) で公開されているホワイト・ペーパー、「Transparent Identification of Users in Websense Enterprise」を参照してください。

- **RADIUS Agent** : その他の Websense フィルタリング・ソフトウェアと同一のコンピュータまたはネットワーク内の別のコンピュータへインストールすることができます。それぞれ Filtering Service と通信するよう設定された複数の RADIUS Agent を、同じネットワーク内にインストールすることができます。RADIUS Agent は、Windows または LDAP ベースのディレクトリ・サービスと共に使用することができます。RADIUS Agent および eDirectory Agent は、ネットワーク内の同一コンピュータ、または別のコンピュータへインストールできます。RADIUS Agent は、Windows、Solaris および Linux 上にインストールします。

設定情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。配備に関する詳細情報は、[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation) で公開されているホワイト・ペーパー、「Transparent Identification of Users in Websense Enterprise」を参照してください。

#### ◆ Remote Filtering コンポーネント

組織のネットワーク・ファイアウォールまたはインターネット・ゲートウェイの外側に位置するユーザ・ワークステーション上でウェブ・フィルタリングを行う場合にのみ、Remote Filtering コンポーネントが必要になります。これは [カスタム] インストールのみでインストールされます。



#### ご注意

Remote Filtering コンポーネントを有効にするためには、リモート・フィルタリング・サービスのライセンスが必要です。

---

- **Remote Filtering Server** : 別の専用のコンピュータ上にインストールします。このコンピュータは、Filtering Service とネットワーク・ファイアウォールの外側および内側両方に位置す

るユーザ・ワークステーション上の Remote Filtering Client と通信できる必要があります。Remote Filtering Server は、Windows、Linux および Solaris にインストールします。

Remote Filtering Server は自動的にクライアントがネットワーク・ファイアウォールの外側または内側に位置するかを検出します。クライアントがファイアウォールの内側にあると決定した場合、ユーザは他の内部クライアントとまったく同じようにフィルタされます。クライアントがファイアウォールの外側にある場合にのみ、Remote Filtering がアクティブになります。

第 1 の Remote Filtering Server にフェイルオーバー保護を提供するために第 2、第 3 の Remote Filtering Server をインストールすることができます。リモート・ワークステーション上の Remote Filtering Client が第 1 の Remote Filtering Server と接続できない場合、第 2、第 3 そして再び第 1 の順序で接続を試みます。

- ・ ネットワーク内のそれぞれの Filtering Service に対して、第 1 の Remote Filtering Server を 1 つだけインストールしてください。
- ・ Filtering Service および Network Agent と同じコンピュータに Remote Filtering Server をインストールしないでください。
- ・ Remote Filtering Server のコンピュータは、ドメイン内にいる必要はありません。

本章で提供されている配備図には、Remote Filtering コンポーネントは含まれていません。配備に関する情報の詳細とネットワーク図は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』で「Remote Filtering」の項を参照してください。

- **Remote Filtering Client** : ネットワーク・ファイアウォールの外側のユーザ・コンピュータでフィルタすることを希望する場合にインストールされます。クライアント・アプリケーションを配備するために、**Remote Filtering Client Pack** と呼ばれるインストーラおよびサードパーティ配備ツールを使用することができます。リモート・ワークステーション上でウェブ・フィルタリングを可能にするためには、Remote Filtering Client がネットワーク・ファイアウォールの内側の Remote Filtering

Server と通信する必要があります。Remote Filtering Client Pack と Remote Filtering Client は Windows にのみインストールします。

---

 **ご注意**

Remote Filtering Client は、Websense Client Policy Manager™ (CPM) の一部としても利用できます。従業員のデスクトップでアプリケーション・フィルタリングを管理するために CPM を使用している場合、Remote Filtering Client は CPM Client Agent の一部として提供されます。詳細は、Websense Client Policy Manager のマニュアルを参照してください。

---

本章で提供されている配備図には、Remote Filtering コンポーネントは含まれていません。配備に関する詳細情報とネットワーク図は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』で「Remote Filtering」の項を参照してください。

---

 **重要**

Remote Filtering Server コンピュータに Remote Filtering Client をインストールしないでください。

---

- ◆ **Websense レポートング・コンポーネント** : Websense ソフトウェアを評価する場合を除いて、Websense Enterprise または Web Security Suite のフィルタリング・コンポーネントとは別のコンピュータ上にインストールする必要があります。Log Server は、Websense Enterprise でフィルタリングされたインターネット要求に関する情報を受信し、保存します。Reporter および Explorer は、この情報を利用してユーザのインターネット利用状況のレポートを作成します。インストールと管理の情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の Reporting マニュアルを参照してください。

---

 **ご注意**

レポートを正常に作成するために、Websense Enterprise または Web Security Suite ソフトウェアと Websense Reporting Tool のバージョンを揃えてください。

---

## Websense コンポーネントの配備

インストールを開始する前に、システム要件と Websense Enterprise と Web Security Suite のコンポーネントとレポーティング・コンポーネントの最良の配備方法を理解するために、『配備ガイド』をお読みください。

Websense コンポーネントは、専用サーバにインストールするか、様々なオペレーティングシステム上のネットワークを介して広範に分散することができます。推奨される配備は、企業のネットワークのサイズや複雑さ、処理されるトラフィックの量、および利用できるハードウェアの種類などの多くの要因に依存します。Websense コンポーネントを配備する場合、インストール先のコンピュータが予想されるトラフィック負荷に対処できることを確認してください。

本章の情報は、使用できる配備オプションについての包括的な内容を意図したものではありません。この章に示されるネットワーク構造は、小規模ネットワーク (500 ユーザ以下) の場合を表します。この章に示されるネットワーク構造は、小規模ネットワーク (500 ユーザ以下) の標準インストールの場合を表します。すべてのネットワーク・サイズで個々の Websense コンポーネントを配備するための詳細情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

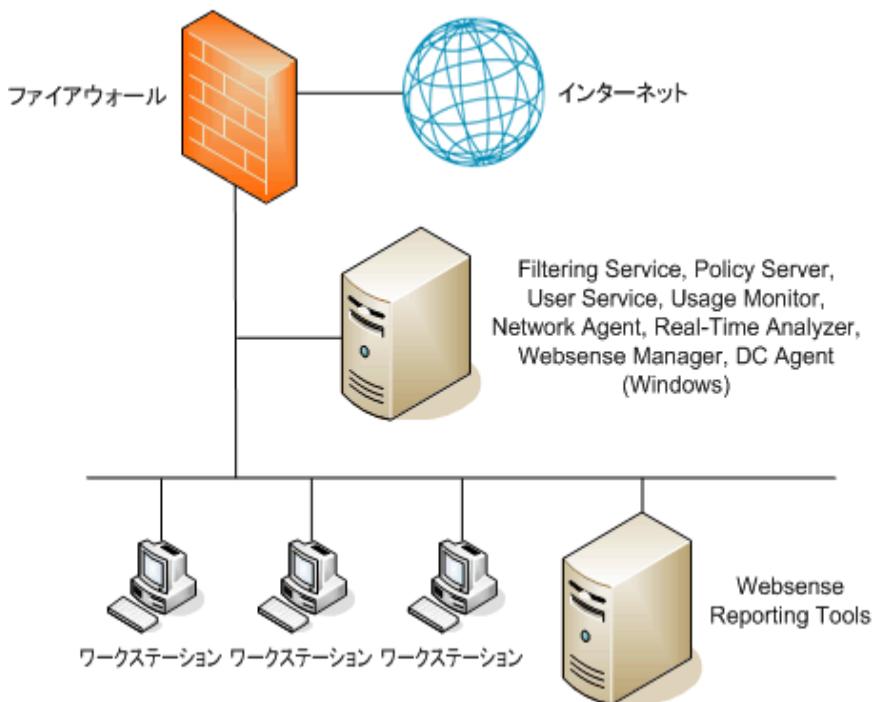
## スタンドアロン版のインストール

スタンドアロン版のインストールでは、同じコンピュータ上に Websense フィルタリング・コンポーネントをインストールするか、またはネットワークでこれらのコンポーネントを分散させることができます。同じコンピュータ上にすべてのサポートされる Websense Enterprise または Web Security Suite のフィルタリング・コンポーネントを配備する場合、標準インストール・パスを使用することができます。コンピュータに負荷を処理できる十分なリソースがあることを確認してください。Network Agent がインストールされるコンピュータは、ユーザ・ワークステーションからインターネットへのすべての要求およびインターネットから要求したワークステーションまでのすべての応答を監視できるネットワーク内の位置に配置してください。

システム要件およびすべてのネットワーク・サイズの詳細な配備情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

## Windows

次の図は、Windows コンピュータに標準スタンドアロン版インストールで、自動的にインストールされる Websense フィルタリング・コンポーネントを示しています。同じ Windows コンピュータ上に、または別のコンピュータ上に Websense 透過的識別エージェントをインストールすることができます。ここで、DC Agent は、Windows ベース・ディレクトリ・サービスを使用するネットワークで、選択可能な 1 つであることを示しています。

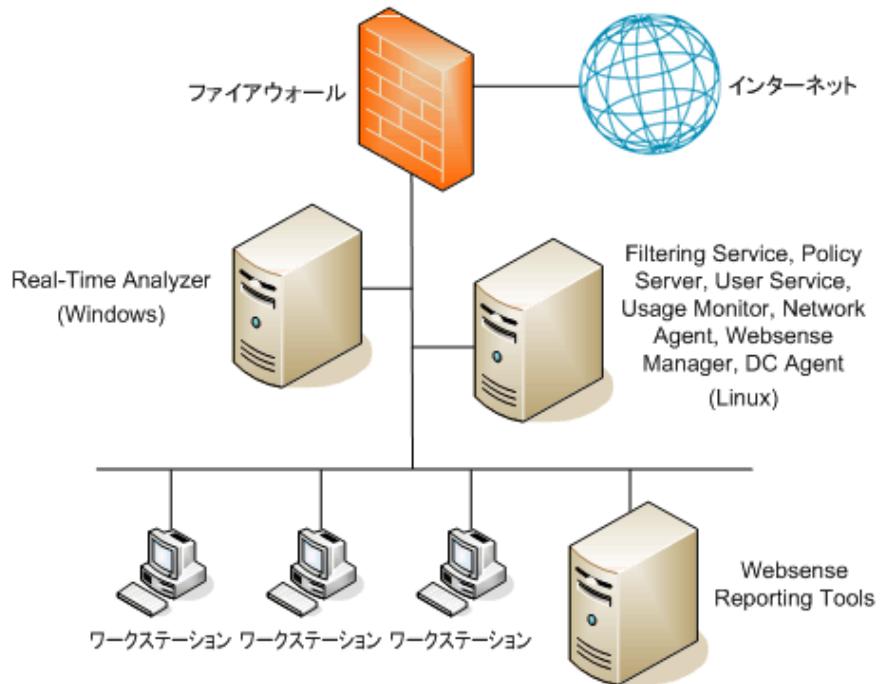


Windows 環境での Stand-Alone の配備

## Linux

次の図は、Linux コンピュータに標準スタンドアロン版インストールで、自動的にインストールされる Websense フィルタリング・コンポーネントを示しています。同じ Linux コンピュータ上に、または別のコンピュータ上に Websense 透過的識別エージェントをインストールすることができます。ここで、DC Agent は、Windows ベース・ディレクトリ・サービスを使用するネットワークで、選択できる 1 つであ

ることを示しています。Novell ディレクトリ・サービスを使用するネットワークでは、代わりに eDirectory Agent をインストールすることができます。オプションの Real-Time Analyzer は、Windows コンピュータ上にインストールする必要があります。

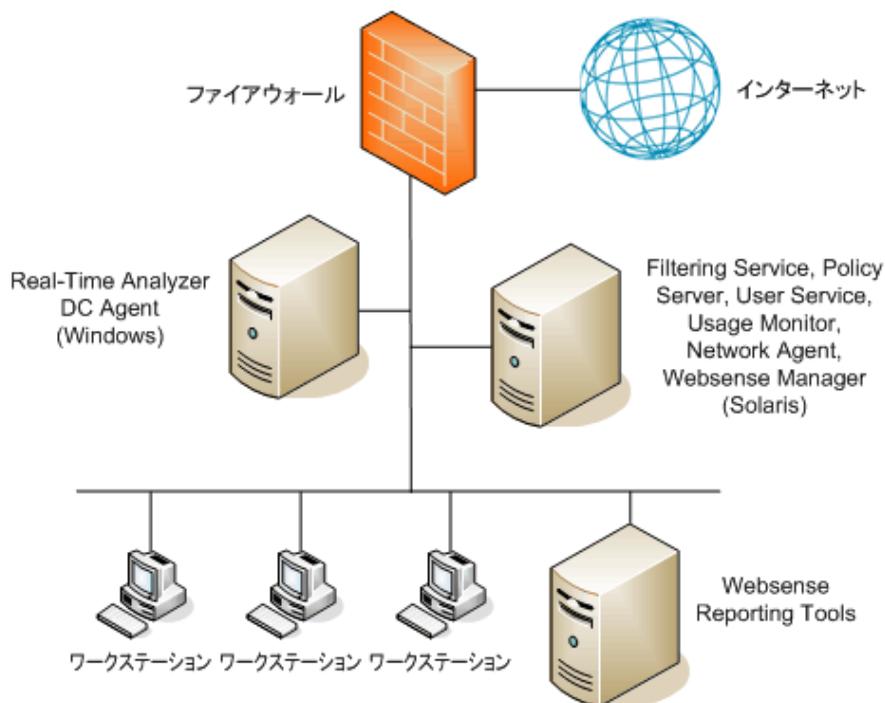


Linux 環境での Stand-Alone の配備

## Solaris

次の図は、Solaris コンピュータに標準スタンドアロン版インストールで、自動的にインストールされる Websense フィルタリング・コンポーネントを示しています。同じ Solaris コンピュータ上に、または別のコンピュータ上に Websense 透過的識別エージェントをインストールすることができます。ここで、DC Agent は、Windows ベース・ディレクトリ・サービスを使用するネットワークで、選択できる 1 つであることを示しています。Novell ディレクトリ・サービスを使用するネットワークでは、代わりに eDirectory Agent をインストールする

ことができます。オプションの Real - Time Analyzer は、Windows コンピュータ上にインストールする必要があります。



Solaris 環境での Stand-Alone の配備

## Websense レポートینگ・コンポーネント

Websense, Inc. は、Websense Enterprise または Web Security Suite と同じコンピュータ上に Websense レポートینگ・コンポーネントをインストールすることを推奨していません。フィルタリングおよびロギング機能は CPU 負荷が大きいいため、オペレーティングシステム・エラーを引き起こす可能性があります。Websense Enterprise または Web Security Suite と Websense Enterprise Reporting コンポーネントをネットワーク内の別のコンピュータにインストールし、リソースを奪い合う必要のないようにしてください。小規模なネットワークまたはより大規模なネットワークのセグメントで Websense Enterprise または Web Security Suite を評価する場合は例外です。

ネットワークで Websense レポートینگ・コンポーネントを配備するための詳細情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の

『配備ガイド』、および Websense Enterprise と Web Security Suite のレポートリング・マニュアルを参照してください。

## ディレクトリ・サービス

組織の環境にディレクトリ・サービスが含まれている場合、Websense ソフトウェアはディレクトリ・オブジェクトに割り当てられた個々のポリシーに基づいてインターネット要求をフィルタすることを許可します。ディレクトリ・サービスで識別されたディレクトリ・オブジェクトは、Websense Manager で追加され、特定のポリシーを割り当てることができます。

Websense ソフトウェアは次のディレクトリ・サービスと通信することができます：

- ◆ Windows® NTLM ベース・ディレクトリ
- ◆ Windows® Active Directory®
- ◆ Sun Java™ System Directory Server
- ◆ Novell Directory Services®/Novell® eDirectory®

これらのディレクトリ・サービスのサポートされるバージョンの情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。ディレクトリ・サービスのアクセスを設定する方法については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。



### ご注意

ディレクトリ・サービスが Websense コンポーネントと同じオペレーティングシステムで実行されていても、異なるシステムで実行されていても、Websense ソフトウェアはディレクトリ・サービスと通信することができます。

Websense ソフトウェアがインターネット要求を送信するユーザを識別できる場合に、個々のユーザ、グループ、およびドメイン/組織単位のポリシーに基づきフィルタリングを実行することができます。お客様が設定する認証方式で、Filtering Service が Windows または LDAP ディレクトリからディレクトリ・オブジェクトを取得できるよう設定しなければなりません。LDAP および Windows ディレクトリにアクセ

スする方法については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。



### ご注意

どのような環境でも、Websense ソフトウェアはワークステーションまたはネットワーク・ポリシーに基づいてフィルタリングを実行できます。ワークステーションは IP アドレスによって Websense ソフトウェア内で識別され、ネットワークは IP アドレス範囲として識別されます。

インターネット要求は、以下の作業の完了後、個々のディレクトリ・オブジェクトに割り当てられたポリシーに基づいてフィルタリングされます。

- ◆ Sun Java System Directory Server または Novell ディレクトリ・サービス (eDirectory) を使用している場合：
  1. Websense Manager で適切なディレクトリ・サービスを有効にします。
  2. Websense eDirectory Agent をインストール、設定し、Novell でユーザを透過的に識別できるように Websense ソフトウェアを有効にします。
  3. Websense がユーザを透過的に識別できない場合、ユーザに手動認証を求めるよう、Websense ソフトウェアで手動認証を有効にします。

これらの作業の詳細は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。

- ◆ Windows NTLM ベース・ディレクトリまたは Active Directory を使用している場合：
  1. Websense Manager で Windows ディレクトリ・サービスを設定します。
  2. Websense DC Agent または Logon Agent をインストール、設定して、Websense ソフトウェアがユーザを透過的に識別できるようにします。

3. Websense がユーザを透過的に識別できない場合、ユーザに手動認証を求めるよう、Websense ソフトウェアで手動認証を有効にします。

これらの作業の詳細は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』の「ユーザ識別」の章を参照してください。

Websense 透過的識別機能では、ユーザに手動認証を求めることなく、Windows または Novell ディレクトリ・サービスで識別されたユーザからのインターネット要求をフィルタリングするよう Websense ソフトウェアを設定できます。DC Agent または Logon Agent がインストールされる場合は、Websense ソフトウェアは Windows ドメインで透過的にユーザを識別できます。Novell ディレクトリ・サービスを使用するネットワークでは、Websense eDirectory Agent をインストールしてユーザを透過的に識別することができます。ユーザが RADIUS サーバを介してネットワークにアクセスする場合、RADIUS Agent を透過的識別に使用します。RADIUS Agent は、Windows または LDAP ベースのディレクトリ・サービスと共に使用することができます。

Websense Filtering Service が透過的識別エージェント (DC Agent、Logon Agent、eDirectory Agent、または RADIUS Agent) と通信できるよう設定されると、エージェントはディレクトリ・サービスからユーザ情報を取得し、その情報を Filtering Service に送信します。Filtering Service がインターネット要求を実行しているコンピュータの IP アドレスを受信すると、Filtering Service はそのアドレスと透過的識別エージェントが提供した対応するユーザ名を照合します。これにより、インターネット要求を送信するブラウザを開くたびに、Websense ソフトウェアはユーザを透過的に識別できます。

DC Agent、Logon Agent、eDirectory Agent および RADIUS Agent を使用した透過的識別についての情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。配備に関する詳細情報は、[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation) で公開されているホワイト・ペーパー、「Transparent Identification of Users in Websense Enterprise」を参照してください。

## Citrix® Server ユーザを含むネットワークでのフィルタリング

ネットワークが Citrix® サーバを経由してインターネットにアクセスするユーザを含み、他のゲートウェイ (ファイアウォール、キャッシング・アプライアンスまたはプロキシ・サーバ) を介してインターネッ

トにアクセスする他のユーザも含む場合は、Websense ソフトウェアの完全な 2 つのインスタンスをインストールする必要があります :

- ◆ Citrix ユーザをフィルタするために、Citrix 統合を選択した Websense ソフトウェアの 1 つのインスタンス。『Citrix® Server 統合製品と共に使用するためのインストールガイド』を参照してください。
- ◆ 非 Citrix ユーザをフィルタするための、もう 1 つの Websense ソフトウェアの別のインスタンス。Websense ソフトウェアのこのインスタンスは、他のゲートウェイ (キャッシング・アプライアンス、ファイアウォールまたはプロキシ・サーバ) と統合することができます。または Websense スタンドアロン版でもありえます。この Websense インスタンスをインストールするには、ご使用の統合製品の Websense Enterprise と Web Security Suite の『インストールガイド』またはスタンドアロン版の『インストールガイド』の説明に従ってください。

## システム要件

---

Websense ソフトウェアは、Windows、Solaris および Linux オペレーティングシステムのコンピュータ上にインストールすることができます (サポートされるバージョンは、『配備ガイド』を参照してください)。すべての Websense コンポーネントが 3 タイプすべてのオペレーティングシステムでサポートされるわけではありません。しかし、異なるオペレーティングシステムのコンピュータ上に Websense コンポーネントをインストールすることができます。そして、互いに通信することができます。例えば、Windows コンピュータ上にインストールされた Websense Manager のインスタンスが、Windows、Solaris または Linux コンピュータ上にインストールされた Policy Server を設定することができます。Websense Enterprise と Web Security Suite の各コンポーネントのサポートするオペレーティングシステムの一覧は、『配備ガイド』を参照してください。

ネットワーク・サイズ、ネットワーク構成、およびインターネット・トラフィック量などの要因は、Websense ソフトウェアがインターネット要求をフィルタリングする際に影響を及ぼします。ネットワークのハードウェア推奨条件は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

Websense Enterprise と Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なシステム要件の完全な一覧は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

## ユーザ・ワークステーション

Websense は、フィルタされるユーザ・ワークステーションのオペレーティングシステムではなく、プロトコルに基づいてフィルタリングします。

Websense ソフトウェアでフィルタリングするには、ユーザ・ワークステーションからのインターネット・トラフィックを Network Agent で直接監視してください。

## 外部リソース

Websense ソフトウェアがネットワーク内で適切に機能するためには、特定の外部リソースが必要です。以下のネットワーク要素が、Websense Enterprise または Web Security Suite のフィルタリング動作を十分にサポートできることを確認してください。

- ◆ **TCP/IP** : Websense フィルタリング・ソフトウェアは、TCP/IP ベースのネットワークのみをサポートします。ネットワークが TCP/IP および非 TCP プロトコルの両方を使用する場合、ネットワークの TCP/IP 部分のユーザのみが Websense Enterprise または Web Security Suite によってフィルタリングされます。
- ◆ **DNS サーバ** : IP アドレスが URL 要求とともに Websense Filtering Service へ送られない場合、DNS サーバを使用して、URL を IP アドレスへ変換することができます。Websense ソフトウェアまたはお使いの統合製品（使用できる場合）には、有効な DNS パフォーマンスが必要です。お使いの DNS サーバが十分に速く、過負荷にならずに Websense フィルタリングをサポートできることを確認してください。
- ◆ **ディレクトリ・サービス** : Websense Filtering Service は、ユーザおよびグループ名に基づくポリシーで設定されます。Filtering Service は、ポリシーで指定されたユーザおよび関連付けられたグループを識別するためにディレクトリ・サービスへのクエリを実行します。これらのユーザおよびグループの関係は Websense ソフトウェアによってキャッシュされますが、ディレクトリ・サービスコンピュータには、Websense Filtering Service がユーザ情報を

要求する際に、迅速にキャッシュを再構築するためのリソースが必要です。

- ◆ **ネットワーク効率** : DNS およびディレクトリ・サービスのようなリソースへの接続性は、Websense Filtering Service にとって極めて重要です。Filtering Service を効果的に実行するためには、ネットワーク・レイテンシーを最小限に抑えなければなりません。負荷の大きい状況下での過度の遅延は、Filtering Service のパフォーマンスに影響を及ぼし、フィルタリング・ミスを引き起こす可能性があります。Websense ソフトウェアとその外部リソースが効果的な通信を行えるようネットワークが設定されていることを確認してください。

# Websense Enterprise または Web Security Suite のアップグレード

本章には、Websense Enterprise または Web Security Suite の前のバージョンをバージョン 6.3 にアップグレードするための手順が含まれます。

アップグレードする前に、システムが Websense Enterprise または Websense Web Security Suite の『[配備ガイド](#)』のシステム要件を満たしていることを確認してください。

Websense Enterprise インストーラは、Remote Filtering Client 以外のインストール先のコンピュータで検出された Websense Enterprise コンポーネントをすべてアップグレードします。Websense Web Security Suite インストーラは、Remote Filtering Client 以外のコンピュータで検出された Web Security Suite コンポーネントをすべてアップグレードします。



### ご注意

ネットワークのユーザ・ワークステーション上にオプションの Remote Filtering Client アプリケーションがインストールされている場合、アップグレードの手順は、[Remote Filtering Client](#)、[55 ページ](#) を参照してください。

また、Websense Enterprise システムを Web Security Suite にアップグレードするために、Websense Web Security Suite インストーラを使用することができます。詳細は、[Websense Enterprise から Web Security Suite にアップグレードする](#)、[59 ページ](#) を参照してください。

バージョン 6.1 以上は、直接のアップグレードがサポートされます。Websense Enterprise または Web Security Suite “バージョン 6.1 以上” は以下のバージョンです：

- ◆ 6.1.x
- ◆ 6.2.x

アップグレードの間に、インストーラは、Websense 通信および Network Agent に旧バージョンと同じネットワーク・インタフェース・カード (NIC) を使用するよう v6.3 のコンポーネントを設定します。インストーラは、既存の Websense コンポーネントが使用するポート番号を自動的に Websense v6.3 コンポーネントへ割り当てます。

Websense Master Database はアップグレードの間に削除されます。Filtering Service のアップグレードの間に新しい Master Database をダウンロードするか、または、Websense Manager を使用して、アップグレードが完了した後、それをダウンロードすることができます。アップグレードする時、サービスが再起動され、新しい Master Database が正常にロードされるまでは、ユーザがフィルタされないことに注意してください。

## サポートされるバージョン

---

Websense Enterprise または Web Security Suite の Stand-Alone Edition のバージョン 6.1 以上で、直接のアップグレードがサポートされません。Stand-Alone Edition v5.2 または v5.5 を実行している場合、v6.3 へのアップグレードは 2 つのステップを必要とします：最初に v6.1 にアップグレードし、次に v6.3 にアップグレードします。

v6.1 に中間アップグレードを行うためには、ご使用の製品およびオペレーティングシステムの v6.1 インストーラを必要とします。適切なインストーラをダウンロードします：

- ◆ **Websense Enterprise v6.1 インストーラ：**
  - **Windows:** [www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSense61Setup.exe](http://www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSense61Setup.exe)
  - **Solaris:** [www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSense61Setup\\_Slr.tar.gz](http://www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSense61Setup_Slr.tar.gz)
  - **Linux:** [www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSense61Setup\\_Lnx.tar.gz](http://www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSense61Setup_Lnx.tar.gz)
- ◆ **Websense Web Security Suite v6.1 インストーラ：**
  - **Windows:** [www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSecurity61\\_Setup.exe](http://www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSecurity61_Setup.exe)
  - **Solaris:** [www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSecurity61\\_Setup\\_Slr.tar.gz](http://www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSecurity61_Setup_Slr.tar.gz)

- **Linux:** [www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSecurity61\\_Setup\\_Lnx.tar.gz](http://www.websense.com/Downloads/files/v6.1/full/WebSecurity61_Setup_Lnx.tar.gz)

次のバージョンより以前のスタンドアロン版の 1 つを実行している場合、Websense, Inc. はアップグレードするより v6.3 の新規インストールを行うことを推奨します :

- ◆ Websense Enterprise v5.1 Stand-Alone Edition
- ◆ Websense for Small and Medium Businesses v5.0 以上
- ◆ Stand-Alone EIM Evaluation v5.0 以上

これらの Websense スタンドアロン版のバージョンの 1 つから v6.3 までアップグレードする場合、3 ステップが必要です : 最初に v5.5.2 にアップグレードし、次に v6.1 にアップグレードし、最終的に v6.3 にアップグレードします。

ご使用のオペレーティングシステムの Websense Enterprise v5.5.2 インストーラは、下記からダウンロードできます :

- ◆ **Windows:** [www.websense.com/Downloads/files/v5.5.2/full/WebSense552Setup.exe](http://www.websense.com/Downloads/files/v5.5.2/full/WebSense552Setup.exe)
- ◆ **Solaris:** [www.websense.com/Downloads/files/v5.5.2/full/WebSense552Setup\\_Slr.tar.gz](http://www.websense.com/Downloads/files/v5.5.2/full/WebSense552Setup_Slr.tar.gz)
- ◆ **Linux:** [www.websense.com/Downloads/files/v5.5.2/full/WebSense552Setup\\_Lnx.tar.gz](http://www.websense.com/Downloads/files/v5.5.2/full/WebSense552Setup_Lnx.tar.gz)

## アップグレードせずに設定データを転送する

---

Websense Enterprise または Web Security Suite をアップグレードするために推奨されるパスは、通常のアップグレード・プロセスを経由し、このプロセスでは旧バージョンからのすべての設定データが保存されます。しかし、システムのアップグレードは好ましくないと判断する場合があります。会社のネットワーク・ポリシーがシステムへのアップグレードを許可しない場合もありますし、または Websense ソフトウェアをより大きなコンピュータに移動させて増大するネットワーク・トラフィックに対応したいと考える場合もあります。

通常のアップグレードを実行しない場合、設定データを、製品システムから新たにインストールした Websense Enterprise または Web Security Suite へ転送する 2 つの手順のうちいずれかを使用できます。

これらの手順にはテスト環境が必要であり、インストールおよびアップグレードを何度か繰り返す必要があります。



### 警告

Websense Enterprise または Web Security Suite の旧バージョンをアップグレードする場合、`config.xml` ファイルを v6.3 システムにコピーしないでください。旧バージョンからの設定ファイルは、v6.3 との互換性はありません。

---

アップグレードせずに v6.3 へ変換する方法については、次のサイトに掲載されている、「Transferring Configuration Settings to a v6.2 System Without Upgrading (アップグレードせずに設定データを v6.2 システムへ転送する)」というタイトルのテクニカル・ペーパーに記述されています：[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/ProductDocumentation)

## アップグレードの前に

---

- ◆ **ファイルのバックアップ** : Websense Enterprise または Web Security Suite の新しいバージョンにアップグレードする前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。アップグレード時にどんな問題に遭遇しても、これで、最小限の停止時間で現在のシステムを復元することができます。最小限、最新の Websense コンフィギュレーション・ファイルと初期設定ファイルのバックアップをとってください。これらのファイルをバックアップするためには、Policy Server を停止し、`Websense\bin` フォルダから `config.xml` ファイル、`websense.ini` ファイルおよび `eimserver.ini` ファイルを安全な場所にコピーします。
- ◆ **英語以外のバージョン** : v6.3 では、Websense インストーラは、英語と 9 つの他のすべての言語バージョンが利用可能です ([英語以外の言語バージョン](#)、[62 ページ](#) を参照してください)。アップグレードするときに、現在の Websense インストール言語の v6.3 インストーラを選択してください。英語以外の v6.3 インストーラでシステムをアップグレードすると、最初にシステムを英語に変換します。アップグレード・プロセスの終わりに、アップグレード

された Websense コンポーネントをお客様の言語に変換するために、v6.3 言語パック・インストーラが自動的に実行されます。



#### ご注意

Websense インストールでは、全ての Websense コンポーネントが同じ言語でインストールされなければなりません。

- ◆ **分散コンポーネントのアップグレード** : システムをアップグレードするには、Websense コンポーネントが属する各コンピュータで Websense インストーラを実行する必要があります。



#### 警告

必ず、最初に **Policy Server** コンピュータ上でインストーラを実行してください。ネットワークに他の Websense コンポーネントをアップグレードまたはインストールする前に、Policy Server がアップグレードされ、正常に実行されている必要があります。

- ◆ **リモート・コントロール・ユーティリティ** : ターミナル・サービスのようなリモート・コントロール・ユーティリティを使用する Websense のアップグレードは、サポートされません。
- ◆ **Reporting** : レポートを正常に作成するために、Websense フィルタリング・ソフトウェアと Websense Reporting Tool のバージョンを揃えてください。



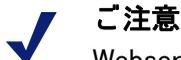
#### 重要

Websense Enterprise Reporting または Web Security Suite Reporting コンポーネントをアップグレードする前に、すべての Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントをアップグレードしておいてください。

Reporting コンポーネントをアップグレードするための情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『Reporting インストールガイド』を参照してください。

- ◆ **Websense サービス** : アップグレード・プロセスを開始する時、Websense サービスを実行している必要があります。アップグレー

ドの間、インストーラは必要に応じてこれらのサービスを起動および停止します。しかし、これらのサービスが数ヶ月間継続的に実行されていた場合、インストーラがそれらを停止できず、アップグレード・プロセスがタイムアウトになることがあります。アップグレードを確実に行うには、アップグレードを開始する前に、すべての Websense Service を手動で停止し再起動してください。



#### ご注意

Websense サービスのいずれかの【回復】プロパティをエラーでサービスを再起動するように設定している場合、アップグレードする前にこの設定を【何もしない】に変更しなくてはなりません。

- ◆ **ロケールのマッチ** : Websense Manager とは異なるコンピュータにインストールされた Filtering Service をアップグレードする場合、Websense Manager と同じロケール環境（言語と文字セット）で Filtering Service を v6.3 へアップグレードする必要があります。
  - Filtering Service を Windows でアップグレードするには、[コントロールパネル]>[地域オプション]を開き、アップグレードを開始する前に Websense Manager コンピュータに適したロケールに変更します。
  - Solaris または Linux でアップグレードする場合、Websense Manager に適したロケールで Filtering Service コンピュータにログオンします。

アップグレードが完了すると、任意のロケール設定で Websense Service を再起動できます。



#### ご注意

アップグレード・プロセスは、適切に機能している Websense システム上で使用されます。アップグレードは、機能していないシステムを修復しません。

---

## Windows でのアップグレード

---

Websense Enterprise または Web Security Suite の新しいバージョンにアップグレードする前に、万が一の場合に備えて 完全なシステム・

バックアップを実行することを推奨します。アップグレード時にどんな問題に遭遇しても、これで、最小限の停止時間で現在のシステムを復元することができます。

最低限、以下のファイルがバックアップされていることを確認してください：

- ◆ websense.ini
- ◆ eimserver.ini
- ◆ config.xml



### 重要

Websense Service が数ヶ月間継続的に実行されていた場合、インストーラがそれらを停止することが困難になることがあります。アップグレード処理のタイムアウトおよび失敗を避けるには、アップグレードを開始する前にサービスを手動で停止・再起動してください。手順は、[Websense Service の停止と起動](#)、[203 ページ](#) を参照してください。

---

Websense Enterprise または Web Security Suite v6.1 以上のシステムを v6.3 にアップグレードするためには、次の手順に従います：

1. アップグレードする Policy Server に接続するネットワーク内のすべての Websense Manager を閉じます。
2. ドメインおよびローカル管理者権限でインストール先のコンピュータへログオンします。

User Service および DC Agent をアップグレードする場合、これは、そのドメインで管理者権限を有することを保証します。



### 重要

ドメイン・コントローラからユーザログイン情報を取得するには、User Service および DC Agent は管理者権限をもつ必要があります。この情報がなければ、Websense ソフトウェアはユーザおよびグループによるフィルタリングを実行できません。これらのコンポーネントを管理者権限でインストールできない場合、インストール後に、これらのサービスにドメイン管理者権限を設定することができます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#)を参照してください。

3. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。



### 警告

必ず Windows イベントビューア を閉じてください。そうでないとアップグレードが失敗する場合があります。

4. Websense Enterprise または Web Security Suite のためのインストーラ・パッケージを取得してください:
  - **Web ダウンロード**: インストーラ・パッケージをダウンロードするには、[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進んでください。

- a. お客様のご希望に合わせて、製品、ダイナミック（オンライン）・インストーラ・パッケージかフル（オフライン）・インストーラ・パッケージ、オペレーティングシステム、言語を選択してください。



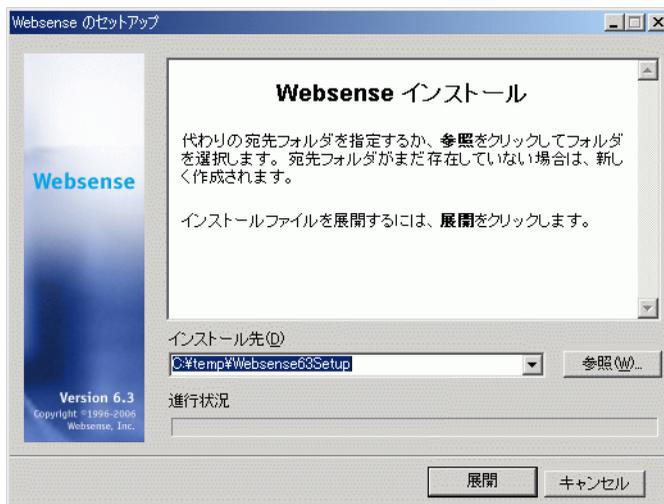
#### ご注意

ダイナミック・インストーラは、インストール間にウェブ・アクセスを必要とするオンライン・インストーラです。これは、製品選択を行った後、必要な製品ファイルを必要に応じてウェブサイトからダウンロードします。

フル・インストーラは、完全なオフライン・インストーラです。これは、ダイナミック・インストーラ・パッケージよりも大きく、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。オンライン・インストーラで問題がある場合は、このパッケージを使用してください。

- b. 選択したインストーラ・パッケージをインストール先コンピュータのフォルダへダウンロードし、ダブルクリックしてインストーラ・ファイルを展開します。
- **製品 CD** : Websense Enterprise と Web Security Suite のための、個別の製品 CD が使用可能です。製品 CD には、製品コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。
    - a. Websense Enterprise v6.3 の製品 CD から `Websense63.exe` を実行するか、Websense Web Security Suite v6.3 の製品 CD から `WebSecurity63.exe` を実行してください。（`autorun` が有効の場合、ファイルは自動的に実行されます。）
    - b. 開始するために、スタート画面上で [インストール] を選択します。

画面には、セットアッププログラムの展開手順が表示されます。



#### Websense Enterprise インストーラ・ファイルの展開

Web Security Suite インストーラを使用している場合、デフォルト・インストール先フォルダは WebSecuritySuite63Setup になります。

5. デフォルト以外の場所へインストールする場合、[参照]をクリックしてフォルダを選択するか、パスを入力します。

入力したパスが存在しない場合、インストーラはそのパスを作成します。



#### 重要

デスクトップにあるフォルダにはインストーラ・ファイルを展開しないでください。Real-Time Analyzer が Policy Server コンピュータの IP アドレスを受け取れなくなる場合があります。C:\temp のデフォルト位置を選択するか、別の適切なフォルダを選択してください。

6. ファイルの展開を開始するために [展開] をクリックします。
  - その位置にすでに Websense インストールファイルが存在する場合、既存のファイルの上書きを選択することができます。

- プログレスバーが展開のステータスを表示し、ファイルが展開される際に、ビューペインはそれらのファイルのリストをスクロールします。
- ファイルが展開された後、Setup.exe が自動的に実行されます。

7. 画面の指示に従い、[次へ]をクリックし、ウェルカム画面およびライセンス契約に進みます。

インストーラは、以前のバージョンから Websense コンポーネントを検出し、どのように処理するかを尋ねます。現在のシステムをアップグレードするか、インストーラを終了することができます。

8. [アップグレードする]を選択し、[次へ]をクリックします。

古いバージョンの現在実行中の Websense サービスのリストを表示します。メッセージが、アップグレードを進める前にインストーラはこれらのサービスを停止しなければならないことを説明します。

9. [次へ]をクリックし続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、ファイル・サイズおよびアップグレードされるコンポーネントをリストする要約画面が表示されます。

10. [次へ]をクリックし、アップグレードを開始します。

- オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをコピーします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。
- Apache HTTP サーバを使用している場合、アップグレードされたシステムで Real-Time Analyzer を使用する前に、Apache ウェブ・サーバを再起動してください。インストーラは

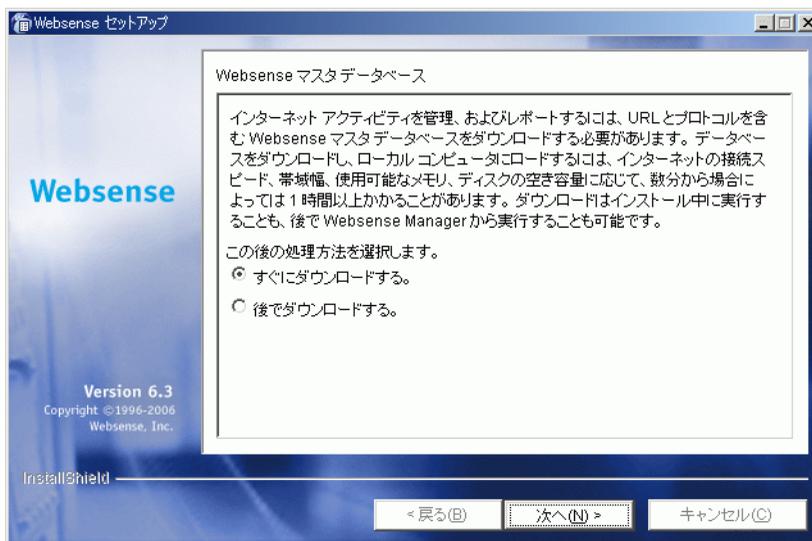
Apache を今すぐ再起動するか、後で再起動するかを尋ねます。[はい]または[いいえ]を選択し、[次へ]をクリックし続行します。

インストーラは、Websense Manager を使用してすぐに Websense Master Database をダウンロードするか、後でダウンロードするかを尋ねます。



### 警告

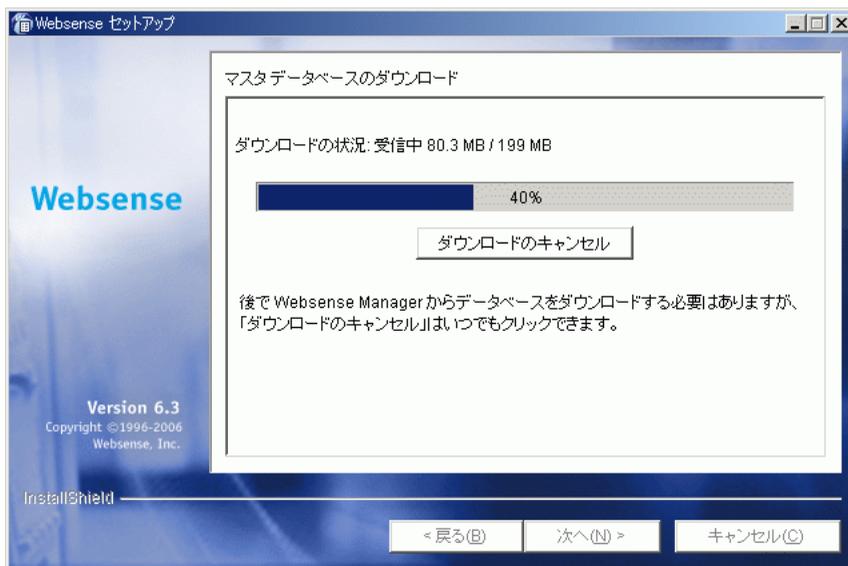
アップグレードの間に、インストーラは既存の Master Database を削除します。新しい Master Database が正常にダウンロードされ、展開され、ロードされるまで、Websense フィルタリングを再開することができません。インターネット接続性、帯域幅、使用可能なメモリ、空き容量などによって、これには数分から 60 分以上かかることがあります。



### Master Database ダウンロード選択画面

11. データベース・ダウンロード・オプションを選択し、[次へ]をクリックします。

今すぐ Master Database をダウンロードすることを選択した場合、プログレスバーが表示されます。データベースは、最初にインターネットを通してダウンロードされ、展開された後にローカルメモリへロードされなければなりません。データベースのダウンロードには数分から30分以上かかることがあります。インターネット接続性、帯域幅、時間帯、ダウンロード・サーバとの位置関係などによります。データベースの展開とロードには数分から30分以上かかることがあります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバーの稼働率などによります。



### Master Database ダウンロードのプログレス

データベースのダウンロードが完了すると、ダウンロードのステータスが表示されます。[次へ]をクリックして続行します。

12. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示されたら次の手順に従います：
  - 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、[次へ]をクリックして続行します。Websense Language Pack インストーラが起動します。画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
  - 英語のインストーラを選択した場合：

- ・ Websense Manager がアップグレードされなかった場合、これ以上の処理は必要ありません。[終了]をクリックして、インストーラを終了します。
  - ・ Websense Manager がアップグレードされた場合は、[次へ]をクリックしてください。インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねる画面を表示します。Manager を開始したくない場合は、チェックボックスをオフにしてください。[終了]をクリックし、インストーラを終了します。
13. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。



### 重要

アップグレードしたシステムに依存するその他の Websense コンポーネントまたは製品を必ずアップグレードしてください。これは、互換性のないバージョンによって起こる矛盾を避けるためです。

例えば、Websense Reporting Tool を使用している場合、レポートを適切に作成するために Websense フィルタリング・ソフトウェアと同バージョンにアップグレードしてください。

---

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、コンポーネントの追加またはコンポーネントを修正する場合は、修正したいコンピュータで再度 Websense インストーラを実行し、適切なオプションを選択してください。インストーラは Websense コンポーネントの有無を検出し、インストールを修正するためのオプションを提示します。

## Solaris または Linux でのアップグレード

---

Websense Enterprise または Web Security Suite の新しいバージョンにアップグレードする前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。アップグレード時にどんな問題に遭遇しても、これで、最小限の停止時間で現在のシステムを復元することができます。

最低限、以下のファイルがバックアップされていることを確認してください:

- ◆ config.xml
- ◆ eimserver.ini
- ◆ websense.ini



### 重要

Websense Service が数ヶ月間継続的に実行されていた場合、インストーラがそれらを停止することが困難になることがあります。アップグレード処理のタイムアウトおよび失敗を避けるには、アップグレードを開始する前にサービスを手動で停止・再起動してください。

---

Websense Enterprise または Web Security Suite v6.1 以上を v6.3 にアップグレードするためには、次の手順に従います:

1. アップグレードする Policy Server に接続するネットワーク内のすべての Websense Manager を閉じます。
2. ルート・ユーザとしてインストール先のコンピュータにログオンします。
3. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
4. インストーラ・ファイル用のセットアップ・ディレクトリを作成します。

例: /root/Websense\_setup

5. Websense Enterprise または Web Security Suite のためのインストーラ・パッケージを取得してください:
  - **Web ダウンロード**: インストーラ・パッケージをダウンロードするには、[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進んでください。

- a. お客様のご希望に合わせて、製品、ダイナミック（オンライン）・インストーラ・パッケージかフル（オフライン）・インストーラ・パッケージ、オペレーティングシステム、言語を選択してください。



#### ご注意

ダイナミック・インストーラは、インストール間にウェブ・アクセスを必要とするオンライン・インストーラです。これは、製品選択を行った後、必要な製品ファイルを必要に応じてウェブサイトからダウンロードします。

フル・インストーラは、完全なオフライン・インストーラです。これは、ダイナミック・インストーラ・パッケージよりも大きく、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。オンライン・インストーラで問題がある場合は、このパッケージを使用してください。

- b. インストール先のコンピュータのセットアップ・ディレクトリに、選択したインストーラ・パッケージを保存してください。
  - **製品 CD** : Websense Enterprise と Web Security Suite のための、個別の製品 CD が使用可能です。製品 CD には、製品コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。お使いのオペレーティングシステムと言語に適したインストーラ・パッケージをコピーし、インストール先のコンピュータのセットアップ・ディレクトリに、保存してください。
6. セットアップ・ディレクトリで次のコマンドを使用して、ファイルを展開します：

```
gunzip <download file name>
```

```
例 : gunzip Websense63Setup_Slr.tar.gz
```

7. 次のコマンドを使用して、ファイルをコンポーネントに展開します：

```
tar xvf <unzipped file name>
```

```
例 : tar xvf Websense63Setup_Slr.tar
```

これで、次のファイルがセットアップ・ディレクトリに置かれます：

ファイル	説明
install.sh	インストール・プログラム
Setup	インストール関連ファイルおよびドキュメントを含むアーカイブ・ファイル
マニュアル	リリースノート：リリースノートと Websense ソフトウェアに関する最新の情報を含む HTML ファイルです。このファイルは、サポートされるブラウザでご覧ください。

8. 以下のコマンドで、セットアップ・ディレクトリからインストール・プログラムを実行します：

```
./install.sh
```

GUI 版のインストーラを実行するには、次のコマンドを使用します：

```
./install.sh -g
```

英語以外のベースのシステムを使用している場合、インストーラはエラー・メッセージを表示し、GUI 版がサポートされていないことを知らせます。

9. ライセンス契約へ進み、画面上の指示に従います。
10. アップグレード手順に従います。
- **Websense アップグレード**：インストーラは、旧バージョンの Websense コンポーネントを検出し、既存の Setup をアップグレードするか、インストーラを終了するかのオプションを提供します。続行する前に、アップグレードされる Policy Server に接続された Websense Manager をすべて閉じてください。[ **アップグレードする** ] を選択し続行します。
  - **Websense サービスの停止**：古いバージョンの現在実行中の Websense サービスのリストを表示します。メッセージが、アップグレードを進める前にインストーラはこれらのサービスを停止しなければならないことを説明します。[ **次へ** ] をクリックし続行します。
  - **システム要件チェック**：インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- ・ インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
  - ・ インストール先のコンピュータが推奨されるメモリ容量より少ない場合、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。
- **インストール・サマリ** : インストール・パス、インストール・サイズ、およびアップグレードされるコンポーネントを示すサマリ・リストが表示されます。
11. **[次へ]** をクリックして、アップグレードを開始します。
- オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをコピーします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。
  - **Master Database のダウンロード** : インストーラは、Websense Manager を使用してすぐに Websense Master Database をダウンロードするか、後でダウンロードするかを尋ねます。データベース・ダウンロード・オプションを選択し、**[次へ]** を押し、続行します。



#### 警告

アップグレードの間に、インストーラは既存の Master Database を削除します。新しい Master Database が正常にダウンロードされ、展開され、ロードされるまで、Websense フィルタリングを再開することができません。インターネット接続性、帯域幅、使用可能なメモリ、空き容量などによって、これには数分から 60 分以上かかることがあります。

---

今すぐ Master Database をダウンロードすることを選択した場合、ダウンロードが開始されます。データベースは、最初にインターネットを通してダウンロードされ、展開された後にローカルメモリへロードされなければなりません。データベースのダウンロードには数分から 30 分以上かかることがあります。インターネット接続性、帯域幅、時間帯、ダウンロードサーバーとの位置関係などによります。データベース

の展開とロードには数分から 30 分以上かかることがあります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバの稼働率などによります。

データベースのダウンロードが完了すると、ダウンロードのステータスが表示されます。[次へ]をクリックし続行します。

12. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示された場合：
  - 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、[次へ]をクリックして続行します。Websense Language Pack インストーラが起動します。画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
  - 英語のインストーラを選択した場合：
    - ・ GUI モードでインストールしていて、Websense Manager をアップグレードしていた場合、[次へ]を選択して続行します。インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねます。選択を行い、[終了]を選択し、インストーラを終了します。
    - ・ [終了]をクリックし、インストーラを終了します。
13. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。



### 重要

アップグレードしたシステムに依存するその他の Websense コンポーネントまたは製品を必ずアップグレードしてください。これは、互換性のないバージョンによって起こる矛盾を避けるためです。

例えば、Websense Reporting Tool を使用している場合、レポートを適切に作成するために Websense フィルタリング・コンポーネントと同バージョンにアップグレードしてください。

---

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、コンポーネントの追加またはコンポーネントを修正する場合は、修正したいコンピュータで再度 Websense インストーラを実行し、適切なオプションを選択

してください。インストーラは Websense コンポーネントの有無を検出し、インストールを修正するためのオプションを提示します。

## Remote Filtering コンポーネントのアップグレード

---

オプションの Remote Filtering コンポーネントがネットワークにインストールされている場合、残りの Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントとともにそれらをアップグレードする必要があります。



### 重要

Websense コンポーネントの他と同じバージョンに Remote Filtering Server をアップグレードする必要があります。

Remote Filtering Server 6.3 は Remote Filtering Client 6.2 と後方互換です。Remote Filtering Clients v6.2 を v6.3 にアップグレードしなくてもかまいませんが、v6.3 で追加されたリモート・フィルタリング機能にアクセスすることができないことに注意してください。この機能の情報は、Websense Enterprise および Websense Web Security Suite v6.3 の『リリースノート』を参照してください。

---

## Remote Filtering Server

Remote Filtering Server がインストールされているコンピュータ上で v6.3 Websense インストーラを実行することによって、Remote Filtering Server は 残りの Websense コンポーネントと同じ方法でアップグレードされます。詳細な手順は、この章の前の項を参照してください。

## Remote Filtering Client Pack

Remote Filtering Client Pack がインストールされているコンピュータ上で v6.3 Websense インストーラを実行することによって、Remote Filtering Client Pack は 残りの Websense コンポーネントと同じ方法でアップグレードされます。詳細な手順は、この章の前の項を参照してください。

## Remote Filtering Client

ネットワーク内の Remote Filtering Client は 2 つの方法でアップグレードすることができます :

- ◆ **手動アップグレード** : 個々のワークステーション上の Remote Filtering Client の既存のバージョンを手動でアンインストールするために v6.2 Remote Filtering Client Pack インストーラ・パッケージを使用し、その後、新しいバージョンをインストールしてください。情報は、[Remote Filtering Client の手動アップグレード、56 ページ](#) を参照してください。このアップグレード方法は、既存の Remote Filtering Client の設定情報を保持しません。Remote Filtering Server のための通信情報を再度入力する必要があります。
- ◆ **サードパーティ・ツールによる自動アップグレード** : 従業員のワークステーション上の Remote Filtering Client の既存のバージョンを自動的にアンインストールするために v6.2 Remote Filtering Client Pack とサードパーティー配備ツールを使用し、そしてそれを新しいバージョンに置き換えます。情報は、[サードパーティ配備ツールによる Remote Filtering Client のアップグレード、58 ページ](#) を参照してください。



### ご注意

Websense Client Policy Manager™ を含む Websense Web Security Suite 製品 (Websense Web Security Suite™ – Lockdown Edition™ または Websense Web Security Suite Lockdown – Corporate Edition) にアップグレードしている場合、または、アップグレードするときにネットワークに Client Policy Manager (CPM) を追加することを計画している場合、この項で記述される Remote Filtering Client のアップグレードは必要ありません。Remote Filtering Client は CPM Client Agent の一部として包含されるので、適切なりモート・フィルタリング設定で CPM Client Agent を簡単に配備することができます。詳細は、Websense Client Policy Manager のマニュアルを参照してください。

---

## Remote Filtering Client の手動アップグレード

単独の Windows ワークステーション上で Remote Filtering Client のインスタンスを v6.3 に手動でアップグレードするには、次の手順に従います：



### ご注意

このアップグレード方法は、既存の Remote Filtering Client の設定情報を保持しません。Remote Filtering Server のための通信情報を再度入力する必要があります。

1. Remote Filtering Client Pack をアップグレードまたはインストールするためには、v6.3 Websense インストーラを Remote Filtering Client ワークステーション上で実行します：

- Remote Filtering Client Pack の前のバージョンがコンピュータ上にインストールされている場合、Websense インストーラはそれを検出します。それを v6.3 にアップグレードするために、画面上の指示に従います。
- Remote Filtering Client Pack の前のバージョンがコンピュータに存在しない場合、[Remote Filtering Client Pack](#)、[136 ページ](#) のインストールの説明に従ってください。

2. 次のデフォルト・インストール位置に移動します。

```
C:\Program Files\Websense\bin\  
RemoteFilteringAgentPack\NO_MSI\CPMClient.msi
```

そして、新しい Remote Filtering Client インストーラを実行するために、CPMClient.msi ファイルをダブルクリックします。

3. アプリケーションが Remote Filtering Client の既存のインストールを検出した場合、それを削除するか尋ねます。[次へ] をクリックし続行します。
4. プログラムの削除ダイアログボックスが表示された時、[削除] をクリックします。
5. [InstallShield ウィザード] の完了ダイアログボックスが開いた時、既存の Remote Filtering Client の削除を完了するために [終了] をクリックします。
6. コンピュータを再起動します。

7. 再び、新しい Remote Filtering Client インストーラを実行するために、CPMClient.msi ファイルをダブルクリックします。
8. [次へ] をクリックし続行します。
9. このクライアントがウェブ・フィルタリングのために使用する第 1 の Remote Filtering Server のための接続情報を再度入力します。この値に確信がない場合、Remote Filtering Server コンピュータの Websense ファイルの中でそれを見つけることができます:
  - a. Remote Filtering Server 上の Websense インストール・ディレクトリの /bin サブディレクトリに位置する securewisproxy.ini ファイルに移動します。
  - b. 次の Remote Filtering Server のパラメータの値を見るために、テキストエディタで securewisproxy.ini ファイルを開きます:
    - ・ 外部 IP アドレスまたはホスト名: ProxyPublicAddress
    - ・ 外部通信ポート: ProxyPort
    - ・ 内部 IP アドレスまたはホスト名: ProxyIP
    - ・ 内部通信ポート: HeartBeatPort
  - c. Remote Filtering Server をインストールした時に定義したパスフレーズを覚えていない場合、代わりに暗号化キーを入力します。定義したパスフレーズを未公開の Websense キーと組み合わせることで、Websense ソフトウェアは自動的にこのキーを作成します。暗号化キーを知らない場合には、Remote Filtering Server コンピュータ上で管理者権限がある場合にそれを調べることができます:
    - ・ Remote Filtering Server コンピュータ上の Websense インストール・ディレクトリの /bin サブディレクトリにある WSSEK.DAT ファイルに移動し、暗号化キーを見るためにテキストエディタでそれを開きます。
10. 第 2、第 3 の Remote Filtering Server が使用されている場合、同様にこれらのサーバの通信パラメータを再度入力します。
11. [次へ] をクリックし続行します。
12. インストールを始めるために [インストール] をクリックします。インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

13. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
14. コンピュータを再起動する必要があることを示すメッセージが表示された場合、今すぐ再起動するために [はい] をクリックします。コンピュータが再起動されるまで、リモート・フィルタリングは適切に機能しません。  
メッセージが表示されない場合、コンピュータを再起動する必要はありません。

## サードパーティ配備ツールによる Remote Filtering Client のアップグレード

このアップグレード方法では、既存の構成設定を維持しながら、ユーザ・ワークステーションに Remote Filtering Client バージョン 6.3 を配備することができます。

Remote Filtering Client のバージョン 6.3 のインストーラを入手するには、次のようにします：

- ◆ Remote Filtering Client Pack の既存のバージョンをバージョン 6.3 にアップグレードします（手順は、[Remote Filtering Client Pack](#)、54 ページを参照してください）。

– または –

- ◆ Windows コンピュータ上に Remote Filtering Client Pack のバージョン 6.3 をインストールします（手順は、[Remote Filtering Client Pack](#)、136 ページを参照してください）。

C:\Program Files\Websense のデフォルト・インストール・パスを選択した場合、インストーラは次の場所にあります：

```
C:\Program Files\Websense\bin\  
RemoteFilteringAgentPack\NO_MSI\CPMClient.msi
```

Windows ワークステーションに Remote Filtering Client の新しいバージョンを配備するために、Microsoft<sup>®</sup> Systems Management Server (SMS) または Novell<sup>®</sup> ZENworks<sup>®</sup> のようなサードパーティ配備ツールとともにこのインストーラを使用してください。

### アップグレードの書式

次は、サードパーティ配備ツールを使用して Remote Filtering Client をアップグレードする書式の例です。このコマンドは、改行のない単一行でタイプする必要があります。

```
msiexec /i cpmclient.msi REINSTALL=ALL  
REINSTALLMODE=voums /qn
```

インストーラが Remote Filtering Client のインストールをアップグレードする場合、現在の設定が使用されます。リモート・フィルタリング設定を変更していない場合、追加パラメータは必要ありません。しかし、設定を変更した場合、コマンドに適切なパラメータと新しい値を含める必要があります。コマンドライン・パラメータの完全な一覧は、[サードパーティ配備ツールによる Remote Filtering Client のインストール、143 ページ](#) を参照してください。

## Websense Enterprise から Web Security Suite にアップグレードする

---

既存の Websense Enterprise システム、バージョン 6.1 以上は Web Security Suite に直接アップグレードできます。Websense コンポーネントがインストールされている各コンピュータ上で、Web Security Suite インストーラを実行する必要があります。インストーラはそのコンピュータ上でバージョン 6.1 以上のすべての Websense コンポーネントを検出し、それに応じてアップグレードします。

Websense Enterprise システムを Websense Web Security Suite システムにアップグレードするとき、次の手順を確実に守ってください：

- ◆ 最初に、Websense Enterprise コンポーネントを Web Security Suite コンポーネントにアップグレードします。本章の前項で説明されている、既存の Web Security Suite インストールを v6.3 にアップグレードする同じアップグレード手順を使用します。
- ◆ 次に、Websense Enterprise Reporting コンポーネントを Web Security Suite Reporting コンポーネントにアップグレードします。手順については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『Reporting インストールガイド』を参照してください。
- ◆ 最後に、Websense Client Policy Manager コンポーネントがインストールされている場合、これらのコンポーネントを Web Security Suite – Lockdown Edition コンポーネントにアップグレードしてください。手順については、Websense Client Policy Manager と Web Security Suite – Lockdown Edition の『インストールガイド』を参照してください。

v6.1 以前の Websense Enterprise のバージョンを実行している場合、Websense Enterprise バージョン・レベルを v6.1 にアップグレードする

ために、最初に中間アップグレードを実行する必要があります。詳細情報は、[サポートされるバージョン](#)、[36 ページ](#)を参照してください。

## 初期設定

お客様が既存の Websense Enterprise を Websense Web Security Suite にアップグレードしている場合、インストール後にいくつかの追加設定が必要となります。

既存のポリシーの Websense Security PG™(Websense Security Filtering) のサイトと Security Protocol Groups のプロトコルへのアクセスをブロックするように、これらを設定する必要があります。詳細については、『Websense Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

他の初期設定手順は、Web Security Suite の新規インストールと同じです。この手順は [第 5 章 : 初期設定](#) で説明されています。

## Stand-Alone システムを統合システムへ変換する

---

既存の Stand-Alone Edition を、設定内容を失わずに統合製品を使用する Websense システムへ変換することができます。変換プロセスでは、ポート番号および IP アドレス等の設定は保存されます。手順は、使用する統合製品の Websense インストールガイドを参照してください。

## インストールされたコンポーネントの IP アドレスを変更する

---

Websense フィルタリング・ソフトウェアは、インターネットのフィルタリングを中断することなく、ほとんどの IP アドレスの変更を自動的に処理します。Policy Server を実行中のコンピュータの IP アドレスを変更すると、別のコンピュータ上の Websense コンポーネントへ変更通知が送信されます。場合によっては、サービスの再起動または IP アドレスの変更後、設定の更新が必要になります。IP アドレスの変更プロセスについての詳細な解説は、Websense Enterprise または Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

## 第 4 章

# Websense Enterprise または Web Security Suite のインストール

本章には、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントの、新規インストールのための解説が含まれます。インストール手順に加え、コンポーネントの追加、削除および修正を含むインストールの修正手順の解説が提供されています。

## Websense インストーラ

---

Windows、Solaris および Linux オペレーティングシステムのための、個別の Websense インストーラがあります。各オペレーティングシステム用に、2 種類の Websense 製品インストーラがあります：

- ◆ **Websense Enterprise** : このインストーラは次の製品に使用します：
  - Websense Enterprise®
  - Websense Enterprise® – Corporate Edition
- ◆ **Web Security Suite** : このインストーラは次の製品に使用します：
  - Websense® Web Security Suite™
  - Websense® Web Security Suite™ – Corporate Edition
  - Websense® Web Security Suite – Lockdown Edition™
  - Websense® Web Security Suite™ – Corporate Edition

各 Websense 製品の Corporate Edition と非 Corporate Edition には、同じソフトウェアがインストールされますが、Corporate Edition のライセンスのキーを入力した場合に限り、Corporate Edition 機能が使用可能になります。インストール後に Corporate Edition 機能を使用するための情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

全ての Websense インストーラは、英語と他の 9 言語で利用可能です。英語以外の言語環境で Websense ソフトウェアを使用される場合は、[英語以外の言語バージョン](#)、[62 ページ](#)を参照してください。

## 英語以外の言語バージョン

Websense Enterprise と Web Security Suite v6.3 の個別のインストーラ・パッケージは、以下の言語で利用可能です。

言語	コード
中国語（簡体字）	zh_CN
中国語（繁体字）	zh_TW
英語	en
フランス語	fr
ドイツ語	de
イタリア語	it
日本語	ja
韓国 / 朝鮮語	ko
ポルトガル語（ブラジル）	pt_BR
スペイン語	es

[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進み、お望みの言語のインストーラ・パッケージを選択してください。



### 重要

Websense インストールでは、全ての Websense コンポーネントが同じ言語でインストールされなければなりません。

---

英語以外の各インストーラ・パッケージは、お客様の Websense システムを当該言語に変換する Language Pack を含んでいます。Websense メイン・インストーラが完了すると、Language Pack インストーラは

自動的に起動します。画面上の指示に従って、Language Pack のインストールを完了します。



#### ご注意

**インストーラの言語** : 日本語版の Websense インストーラと Language Pack インストーラは日本語で表示されます。他の全ての言語の Websense インストーラと Language Pack インストーラは英語で表示されます。

---

Language Pack は、Websense Enterprise または Web Security Suite のシステムに以下の変更を行います :

- ◆ ローカル化されたブロックページのファイルは、インストール先コンピュータに新しく作成される、該当言語用のディレクトリへコピーされます。ディレクトリ名は、前出の表で示された言語コードです。
- ◆ Websense 構成ファイル (config.xml) は、警告やエラー・メッセージなどの特定データ文字列をローカル化するため編集されます。
- ◆ Websense カテゴリ名はローカル化されたバージョンで更新されます。
- ◆ Websense 管理者向けのアラートメッセージはローカル化されたバージョンで更新されます。
- ◆ Reporting Tools ポータルと Real-Time Analyzer はローカル化されたバージョンで更新されます。
- ◆ 日本語のみ : Websense Manager のユーザ インターフェイスは日本語に変換されます。



#### ご注意

Language Pack が Websense Reporting コンポーネントに行う変更については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『Reporting インストールガイド』を参照してください。

Language Pack が Client Policy Manager コンポーネントに行う変更については、Websense Client Policy Manager と Web Security Suite – Lockdown Edition の『インストールガイド』を参照してください。

---

## インストールの前に

---

Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールする前に、次の情報をお読みください。

- ◆ **Reporting** : レポートを正常に作成するために、Websense フィルタリングソフトウェアと Websense Reporting Tool のバージョンを揃えてください。



### 重要

すべての Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントを、Websense Enterprise Reporting または Web Security Suite Reporting コンポーネントをインストールする前にインストールしておいてください。

---

Reporting コンポーネントをインストールするための情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『Reporting インストールガイド』を参照してください。

- ◆ **配備** : Websense フィルタリングの主要なコンポーネントは、使用可能なオペレーティングシステムおよびネットワークのサイズによって、同一コンピュータまたは異なるコンピュータに分散してインストールできます。ネットワーク上の異なるコンピュータに Websense コンポーネントを分散する場合は、各コンピュータでインストーラを実行し、[カスタム]インストール・オプションを選択します。手順は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする](#)、[98 ページ](#) を参照してください。

同じオペレーティングシステムでない別のコンピュータ上に、Websense コンポーネントをインストールすることができます。例えば、Websense Manager を Windows コンピュータにインストールし、Policy Server を Linux コンピュータで実行するように設定できます。インストールされるコンピュータのオペレーティングシステムでそれぞれの Websense コンポーネントがサポートされている限り、コンポーネントは一緒に動作します。各 Websense コンポーネントのシステム要件は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』にあります。

インストールを始める前に、お使いのネットワークに最適の Websense コンポーネントの配備を決定するために、必ず Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』をお読みください。『配備ガイド』には、各 Websense コンポーネントをサポートするオペレーティングシステムを含む、システム要件も示されています。

- ◆ **コンピュータの時計合わせ** : ネットワークで Websense コンポーネントを分散する場合、Websense コンポーネントがインストールされるコンピュータの時計の時間を合わせてください。
- ◆ **リモート・フィルタリング** : ネットワーク・ファイアウォールの外側に位置するワークステーションをフィルタするためにオプションの Remote Filtering コンポーネントをインストールする場合、Websense インストーラを実行して、**カスタム・インストール**を選択する必要があります。詳細情報は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする](#)、98 ページを参照してください。
- ◆ **Network Agent** : Network Agent は、標準インストールの一部として含まれます。Network Agent がインストールされるコンピュータは、適切に機能するよう両方向の従業員インターネット・トラフィックをモニタできなければなりません。加えて、Network Agent はファイアウォールと同一のコンピュータにインストールすることはできません。(唯一の例外は、Network Agent とファイアウォールソフトウェアの両方を配置できるよう、別々のプロセッサまたは仮想プロセッサを持つブレード・サーバまたはアプライアンスです。)
- ◆ **ネットワーク・インタフェース・カード (NIC)** : インストール中に指定する Network Agent 用のネットワーク・インタフェース・カード (NIC) は無差別モードをサポートする必要があります。無差別モードでは、NIC が自分以外の IP アドレスを受信待ちすることができます。(無差別モードをサポートするかカードの製造者に問い合わせてください。) カードが無差別モードをサポートす

る場合、インストールの間に Websense インストーラによってそのモードにセットされます。

### **ご注意**

Network Agent が複数の NIC をもつコンピュータにインストールされている場合、インストール後に Network Agent を 1 つ以上の NIC を使うように設定することができます。詳細は、[Network Agent を複数の NIC を使用するように設定する](#)、226 ページを参照してください。

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。

[Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト](#)、227 ページを参照してください。

- ◆ **ウェブ・サーバ** : Real-Time Analyzer (RTA) をインストールするには、Microsoft IIS または Apache HTTP Server のいずれかがインストールされている必要があります。サポートされるウェブ・サーバのいずれも検出されない場合、インストーラは Apache HTTP Server をインストールするか、RTA をインストールせずにインストールを続行するかを尋ねます。
- ◆ **インターネット接続** : インストールの間に Websense Master Database のダウンロードが発生するため、Websense Filtering Service を実行しているコンピュータは、次の URL のダウンロード・サーバにインターネット接続する必要があります。
  - [download.websense.com](http://download.websense.com)
  - [ddsdom.websense.com](http://ddsdom.websense.com)
  - [ddsint.websense.com](http://ddsint.websense.com)
  - [portal.websense.com](http://portal.websense.com)
  - [my.websense.com](http://my.websense.com)これらのアドレスが、Filtering Service コンピュータがアクセスできる URL を管理するファイアウォール、プロキシ・サーバ、ルータまたはホスト・ファイルによって許可されていることを確認してください。
- ◆ **リモートコントロール・ユーティリティ** : ターミナル・サービスのようなリモート・コントロール・ユーティリティを使用して

Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールすることは、サポートされません。

- ◆ **Java インタフェースの許可** : Windows 2000 Server に Websense コンポーネントをインストールしている場合、Java ベースの GUI インストーラを起動するために DirectX をインストールする必要があります。DirectX が存在していない場合は、コンソール・モードで Websense コンポーネントのみをインストールできます。Windows 2000 でコンソール・インストールを行うには、トラブルシューティングのトピックス [Websense のスプラッシュ画面が表示されるが、Windows 2000 でインストーラが起動しない、251 ページ](#) の手順を参照してください。

DirectX が存在しない Windows 2000 Server コンピュータにコンソール・インストールを行った場合、Solaris コンピュータに、または Java インタフェースを表示することができる Windows または Linux コンピュータに Websense Manager をインストールする必要があります。

## Websense の通常インストール

---

この項では、各オペレーティングシステムに Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントをインストールする方法をそれぞれ説明します。

### Windows の場合

Windows コンピュータ上に Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールするためには、この項の手順に従ってください。この手順は、主要な Websense フィルタリング・コンポーネントを同一コンピュータ上にインストールする **通常インストール** の手順です。

主要な Websense コンポーネントをネットワーク上の個別のコンピュータに分散する場合は、まず Policy Server をインストールしてください。正常に Policy Server がインストールされる以前は、Websense Manager のみがインストールできます。個別にコンポーネントをインストールする場合、Websense インストーラをそれぞれのコンピュータで実行し、**カスタム・インストール** を選択してください。Websense Enterprise をインストールするための手順は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする、98 ページ](#) を参照してください。

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、コンポーネントの追加またはコンポーネントを修正する場合は、修正したいコンピュータで再度 Websense インストーラを実行し、適切なオプションを選択してください。インストーラは Websense コンポーネントの有無を検出し、インストールを修正するためのオプションを提示します。Websense コンポーネントの追加と削除の詳細については、[コンポーネントの追加](#)、[176 ページ](#)および[コンポーネントの削除](#)、[188 ページ](#)を参照してください。

Windows コンピュータに Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールするためには：

1. **ドメインおよびローカル管理者権限**でインストール先のコンピュータへログオンします。

これは、User Service および DC Agent をインストールする場合に、それらがそのドメインで**管理者権限**をもつことを保証します。



### 重要

ドメイン・コントローラからユーザログイン情報を取得するには、User Service および DC Agent は**管理者権限**をもつ必要があります。この情報がなければ、Websense ソフトウェアはユーザおよびグループによるフィルタリングを実行できません。これらのコンポーネントを**管理者権限**でインストールできない場合、インストール後に、これらのサービスに**ドメイン管理者権限**を設定することができます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#)を参照してください。

---

2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. Websense Enterprise または Web Security Suite のためのインストーラ・パッケージを入手します：
  - **Web ダウンロード**：インストーラ・パッケージをダウンロードするには、[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進んでください。

- a. お客様のご希望に合わせて、製品、ダイナミック（オンライン）・インストーラ・パッケージかフル（オフライン）・インストーラ・パッケージ、オペレーティングシステム、言語を選択します。



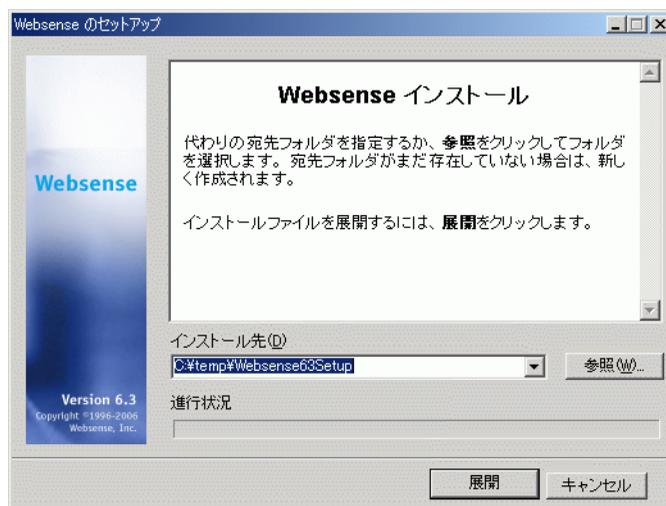
#### ご注意

ダイナミック・インストーラは、インストール間にウェブ・アクセスを必要とするオンライン・インストーラです。これは、製品選択を行った後、必要な製品ファイルを必要に応じてウェブサイトからダウンロードします。

フル・インストーラは、完全なオフライン・インストーラです。これは、ダイナミック・インストーラ・パッケージよりも大きく、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。オンライン・インストーラで問題がある場合は、このパッケージを使用してください。

- b. 選択したインストーラ・パッケージをインストール先コンピュータのフォルダへダウンロードし、ダブルクリックしてインストーラ・ファイルを展開します。
- **製品 CD** : Websense Enterprise と Web Security Suite のための、個別の製品 CD が使用可能です。製品 CD には、製品コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。
    - a. Websense Enterprise v6.3 の製品 CD から `Websense63.exe` を実行するか、Websense Web Security Suite v6.3 の製品 CD から `WebSecurity63.exe` を実行してください。（`autorun` が有効の場合、ファイルは自動的に実行されます。）
    - b. 開始するために、スタート画面上で [インストール] を選択します。

画面には、セットアッププログラムの展開手順が表示されます。



#### Websense Enterprise インストーラ・ファイル展開

Web Security Suite をインストールする場合、デフォルトのインストール先フォルダは WebSecuritySuite63Setup です。

4. デフォルト以外の場所へインストールする場合、[参照]をクリックしてフォルダを選択するか、パスを入力します。

入力したパスが存在しない場合、インストーラはそのパスを作成します。

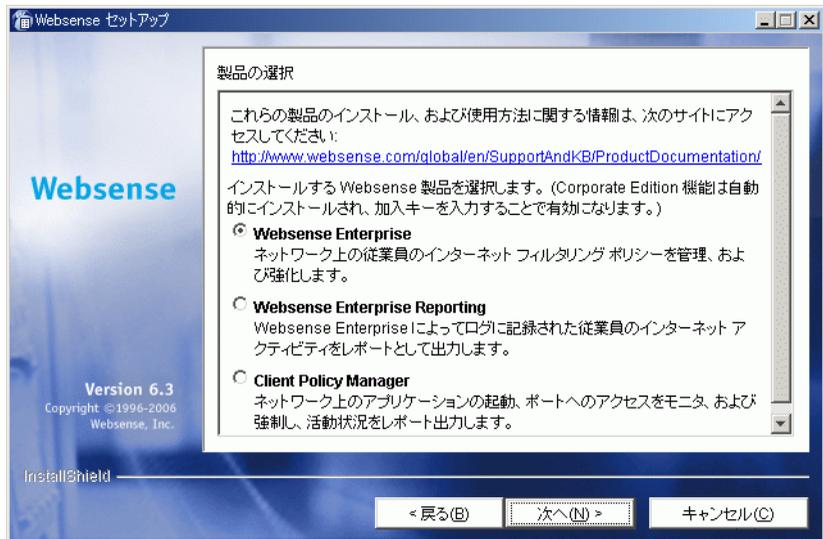


#### 重要

デスクトップにあるフォルダにはインストーラ・ファイルを展開しないでください。Real-Time Analyzer が Policy Server コンピュータの IP アドレスを受け取れなくなる場合があります。C:\temp のデフォルト位置を選択するか、別の適切なフォルダを選択してください。

5. ファイルの展開を開始するために [展開] をクリックします。
  - その位置にすでに Websense インストール・ファイルが存在する場合、既存のファイルの上書きを選択することができます。

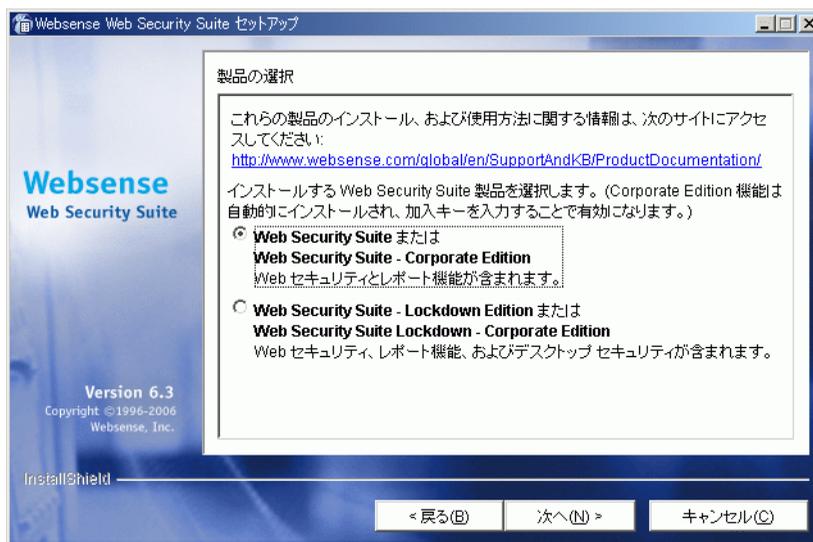
- プログレスバーが展開のステータスを表示し、ファイルが展開される際に、ビューペインはそれらのファイルのリストをスクロールします。
  - ファイルが展開された後、Setup.exe が自動的に実行されます。
6. ウェルカム画面で [次へ] をクリックして、ライセンス契約へ進み、画面上の指示に従います。
  7. インストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。
    - Websense Enterprise インストーラ : [Websense Enterprise] を選択します。



#### WebsenseEnterprise 製品選択

- Websense Web Security Suite インストーラ : インストールしたい Web Security Suite エディションを選択します。
  - ・ [Web Security Suite または Web Security Suite – Corporate Edition] : Web セキュリティとレポート機能を提供します。

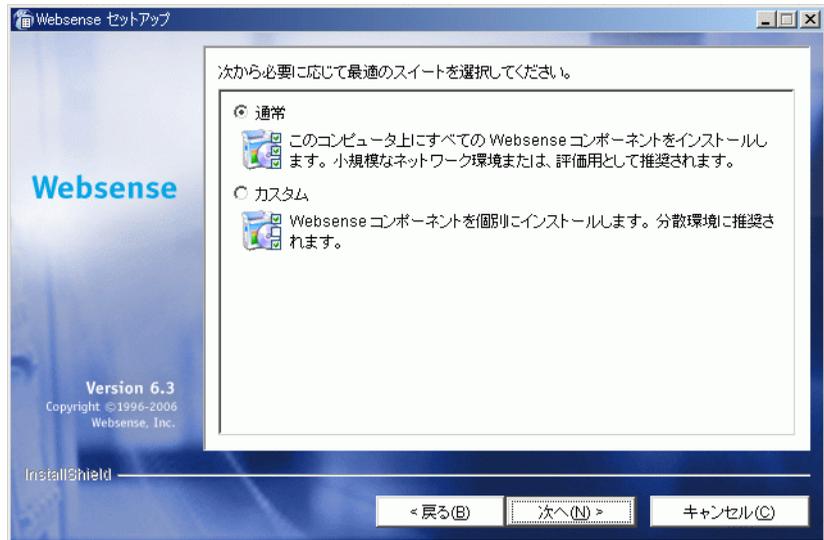
- ・ **[Web Security Suite – Lockdown Edition または Web Security Suite Lockdown – Corporate Edition]** : Web セキュリティ、レポート 機能およびデスクトップセキュリティを提供します。



#### Web Security Suite 製品選択

8. (Web Security Suite のみ) 情報画面が現れ、Web Security Suite のモジュールがインストールされるべき順序で表示されます。共有コンポーネントのため、適切な順番でインストールすることが重要です。[次へ]をクリックし続行します。
9. (Web Security Suite のみ) コンポーネントの選択画面が現れ、選択したエディションの Web Security Suite モジュールが、インストールされるべき順序で表示されます。[Web Security Suite コンポーネント]を選択し、[次へ]をクリックして続行します。

## 10. セットアップ・タイプの 2 つの選択肢が提示されます :



## セットアップ・タイプ

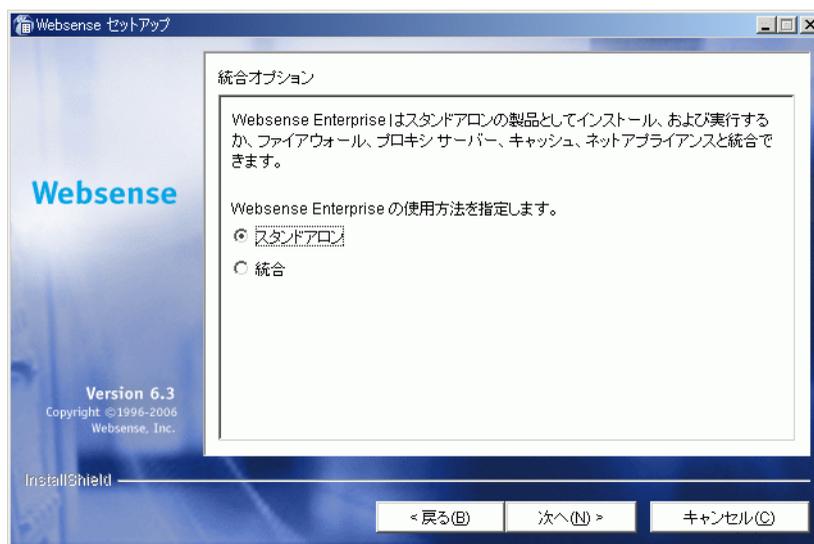
- **[通常]**: このオプションを選択すると、Filtering Service、Policy Server、Real-Time Analyzer、Websense Manager、User Service、Usage Monitor および Network Agent を同じコンピュータにインストールします。インストーラは、以下の透過的識別エージェントをインストールするオプションを提供します :DC Agent、eDirectory Agent、Logon Agent および RADIUS Agent。
- **[カスタム]**: インストールする Websense コンポーネントをそれぞれ選択できます。ネットワーク上の異なるコンピュータに Websense コンポーネントをインストールする場合、このオプションを選択します。詳細情報は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする](#)、98 ページを参照してください。

11. **[通常]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。

12. Websense Enterprise の通信に使用するカードを選択し、**[次へ]** をクリックします。

Websense ソフトウェアをスタンドアロン・フィルタリング・モードで実行するか、ファイアウォール、プロキシ・サーバ、キャッシュまたはネットワーク・アプライアンスと統合するかを、インストーラが尋ねます。



### 統合オプション

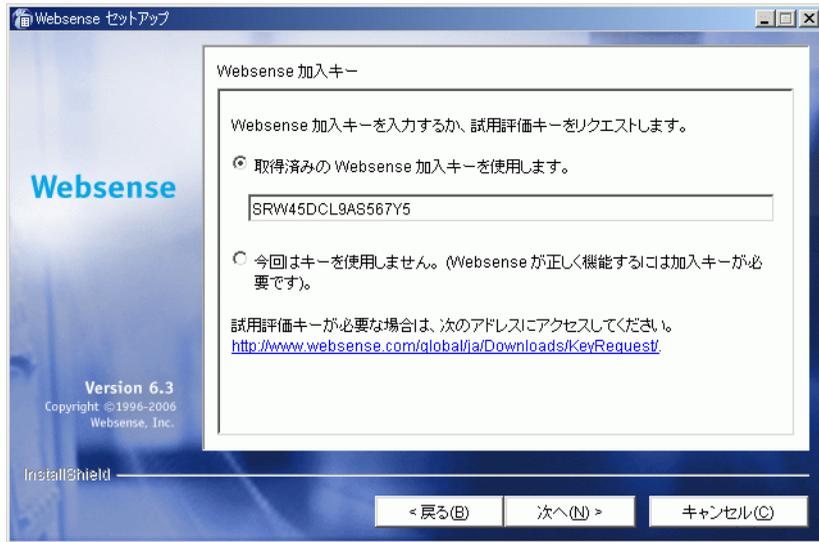
13. [スタンドアロン]を選択し、[次へ]をクリックします。
14. インストーラは自動的にデフォルトのポート番号を Policy Server(55806) および Filtering Service (15868) に割り当てます。いずれのデフォルト・ポートでもすでに使用されている場合は、代わりのポートを選択するよう要求されます。1024 から 65535 までの間で未使用のポート番号を入力し、[次へ]をクリックして続行します。



### ご注意

デフォルト以外のポート番号を使用する場合は、そのポート番号を記録してください。他の Websense コンポーネントをインストールする時に必要です。

インストーラが **Websense 加入キー** のダイアログボックスを表示します。



#### ライセンスキーのオプション

15. 以下の加入キーのオプションから選択してください：

- **[取得済みの Websense 加入キーを使用します]** : 有効なライセンスキーを持っている場合、このオプションを選択し、キーを入力します。インストール中に Websense Master Database をダウンロードすることができます。これにより、Websense ソフトウェアは直ちにフィルタリングを開始することができます。
- **[今回はキーを使用しません]** : キーを入力しないで、インストールを継続する場合、このオプションを選択します。インストール中に Websense Master Database をダウンロードすることはできません。インストールの後に有効なキーを Websense Manager に登録することによって、Master Database をダウンロードすることができます。手順は、[ライセンスキーと Master Database のダウンロード、210 ページ](#) を参照してください。

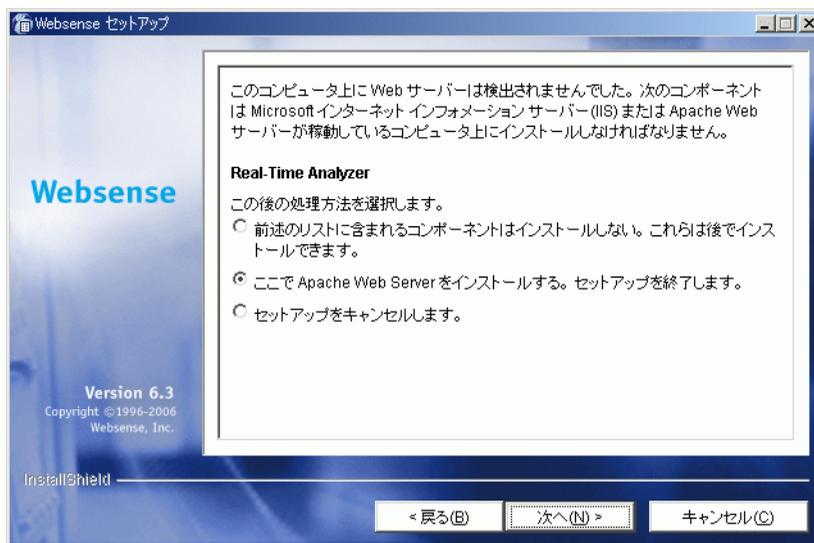
次のサイトで、いつでも 30 日間の試用評価キーを要求することができます：

<http://www.websense.com/global/en/Downloads/KeyRequest>

16. [次へ] をクリックし続行します。

インストーラは、Real-Time Analyzer 用にサポートされるウェブ・サーバ (Apache HTTP Server または IIS) についてシステムをチェックし、以下の処理を行います：

- サポートされるウェブ・サーバの両方が検出される場合、ダイアログボックスが表示され、RTA インスタンス用にサーバを 1 つ選択するよう求められます。
- サポートされるサーバの 1 つが検出される場合、インストーラは続行します。通知はありません。
- サポートされるウェブ・サーバのいずれも検出されない場合、インストーラは Apache HTTP Server をインストールするか、RTA をインストールせずにインストールを続行するかを尋ねます。



Real-Time Analyzer 用の Web サーバー

Apache HTTP Server のインストール・オプションを選択した場合、Websense インストーラは Apache インストーラを開始し、Websense コンポーネントをインストールせずに終了しま

す。Apache HTTP Server のインストール後、コンピュータを再起動し、Websense インストーラを再度実行して Websense をインストールします。

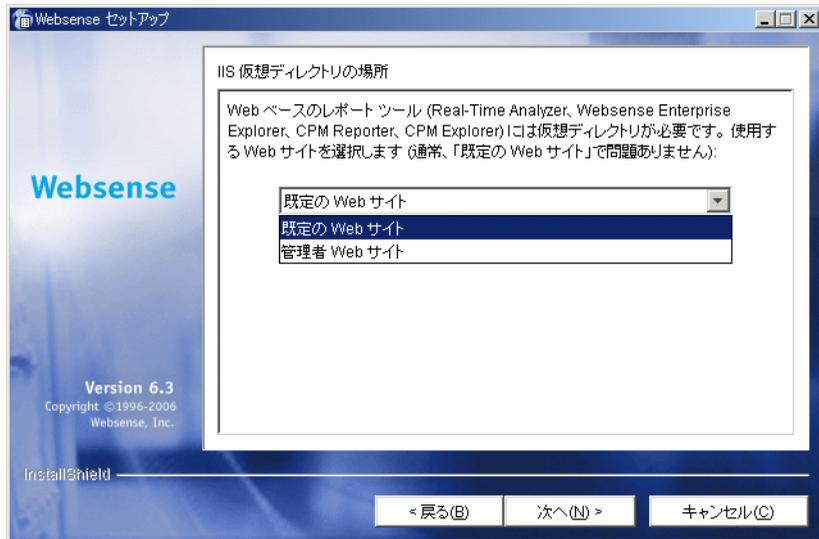


### ご注意

Apache HTTP Server マニュアルは、docs/manual/ ディレクトリに HTML 形式でインストールされます。最新のバージョンは次にあります : <http://httpd.apache.org/docs/2.0/>

17. ウェブ・サーバのインストール・オプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

Real-Time Analyzer をインストールし、ウェブ・サーバとして IIS を使用する場合、IIS Manager 内のウェブサイト名を求められます。インストーラはその下に仮想ディレクトリを作成します。デフォルト値は [既定の Web サイト] で、ほとんどのインスタンスに使用可能です。



仮想ディレクトリの選択

18. IIS Manager 内で既定の Web サイトの名前を変更した場合、または英語以外の言語の Windows を使用している場合は、ドロップダウンリストの名前から適切なウェブサイトを選択し、[次へ]をクリックして続行します。
19. [次へ] をクリックし続行します。

Network Agent で使用する、トラフィックを取り込むネットワーク・インタフェース・カード (NIC) を選択するように求める画面が表示されます。コンピュータ内で有効なすべてのネットワーク・インタフェース・カードがリストに表示されます。
20. コンピュータに複数の NIC がある場合、Network Agent がフィルタすることを希望するインターネット・トラフィックのビジビリティを持つものを選択してください。



#### ご注意

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。[Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト](#)、[227 ページ](#) を参照してください。

---

21. [次へ] をクリックし続行します。

Websense 定義プロトコルの使用についての情報を Websense が収集することを許可するかを尋ねる画面が表示します。情報は、プロトコル・フィルタリングの開発に使用されます。



#### ご注意

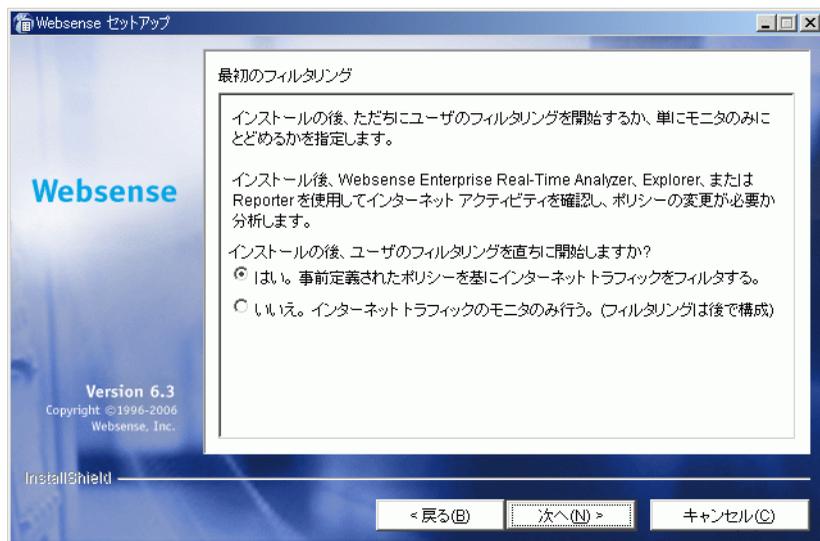
Network Agent フィードバック・オプションが選択されているかどうかに関わらず、Network Agent は Websense に特定のユーザを識別するどんな情報も送信しません。

---

22. Network Agent フィードバック・オプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、初期フィルタリング・オプションを選択するよう求めます。

- **[はい]**: 定義済みのデフォルト・ポリシーに基づいたインストーラが完了したら、直ちにインターネット・トラフィックをフィルタリングするよう Websense ソフトウェアを設定します。
- **[いいえ]**: すべてのインターネット 要求が許可されている間に、インターネット・トラフィックのみを監視するよう Websense ソフトウェアを設定します。インターネット・フィルタリングを適用する前にネットワーク・トラフィックを評価することを希望する場合、このオプションを選択してください。



### 初期フィルタリング・オプション

23. 初期フィルタリング・オプションを選択し、**[次へ]**をクリックして続行します。

インストーラは、Websense ソフトウェアのユーザ識別方法を選択する **[透過的ユーザ識別]** 画面を表示します：

- **[eDirectory Agent]**: Novell eDirectory Service で透過的にユーザを認証するには、このオプションを選択し、eDirectory Agent をインストールします。

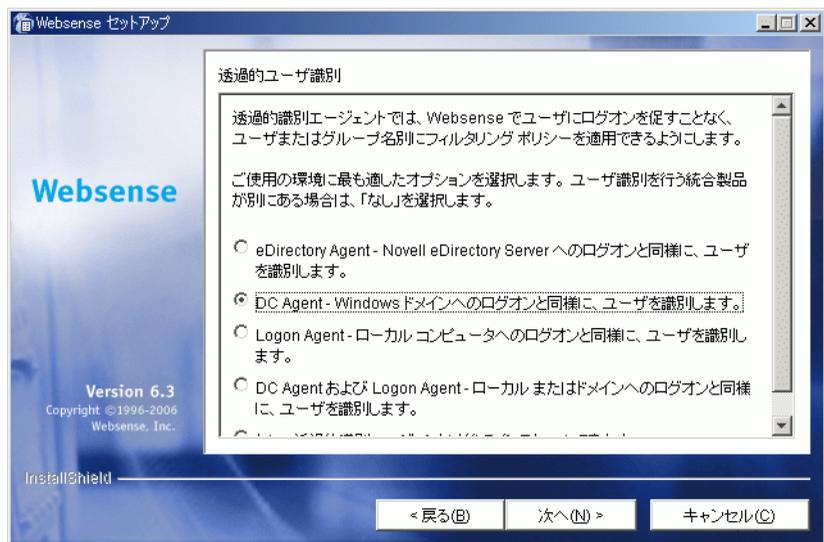
- **[DC Agent]** : Windows ベース・ディレクトリ・サービスを使用してユーザを透過的に認証するには、このオプションを選択し、DC Agent をインストールします。
- **[Logon Agent]** : ユーザがドメインにログオンする際に透過的に認証するには、このオプションを選択し、Logon Agent をインストールします。Logon Agent は、ネットワークでログオン・スクリプトによって実行される `LogonApp.exe` と呼ばれるアプリケーションから、ユーザ情報を受け取ります。手順は、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページ](#)を参照してください。
- **[DC AgentおよびLogon Agent]** : DC Agent と Logon Agent の両方をインストールし、透過的にユーザを認証するには、このオプションを選択します。これは、ネットワークでのユーザ認証の精度を上げることができます。

- [なし]: このオプションはWebsense透過的識別エージェントをインストールしません。



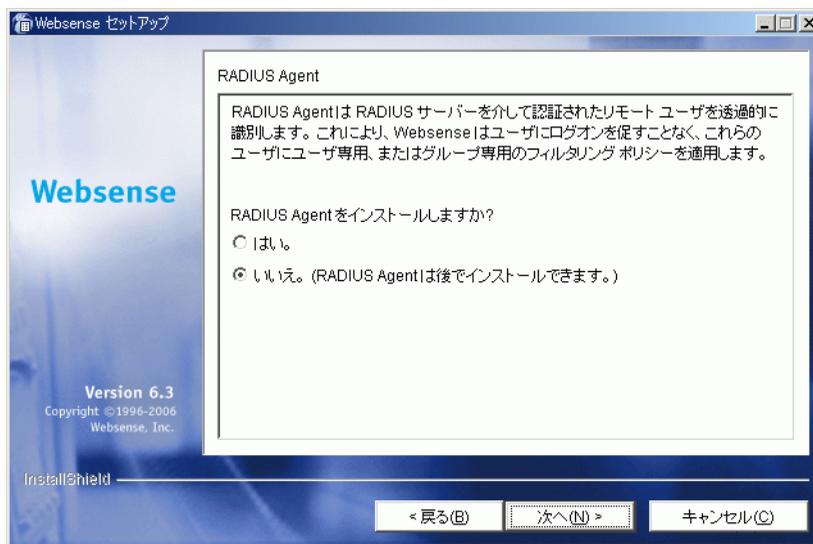
### ご注意

インストール後、Websense Manager で手動認証を設定することもできます。手順については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。



### 透過的ユーザ識別のオプション

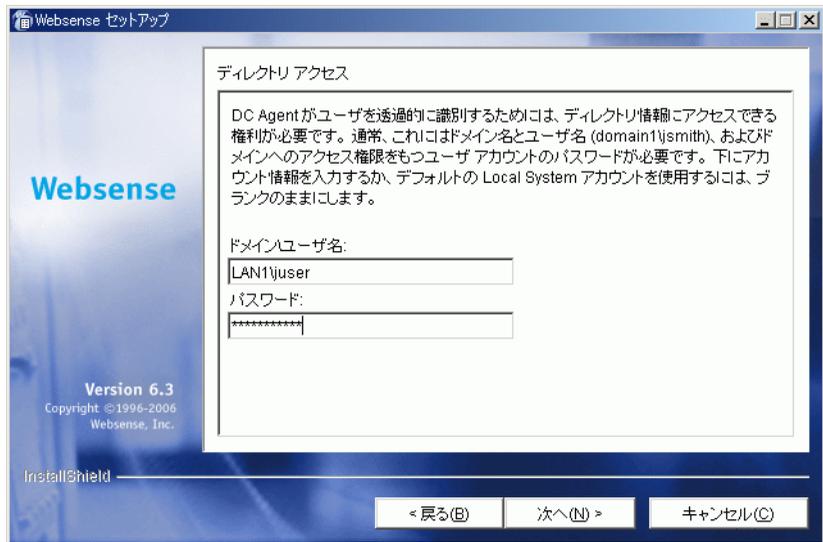
24. 透過的識別の方法を選択し、[次へ] をクリックして続行します。インストーラは、[RADIUS Agent] の画面を表示します。



#### RADIUS Agent のインストール

25. RADIUS サーバによって認証されるリモート・ユーザがいる場合、オプションの Websense RADIUS Agent をインストールするために [はい] を選択することができます。RADIUS Agent は Websense ソフトウェアがこれらのユーザを透過的に識別することができるようにします。
26. [次へ] をクリックし続行します。

DC Agent のインストールを選択した場合、ドメインで管理者権限を持つユーザ名およびパスワードを求められます。ユーザを透過的に識別するために、DC Agent はディレクトリ情報へのアクセスを必要とします。



#### DC Agent のディレクトリ・アクセス

27. ドメインおよびユーザ名、次にドメイン管理者権限を有するアカウントのネットワーク・パスワードを入力して、[次へ]をクリックして続行します。



#### ご注意

DC Agent を管理者権限でインストールできない場合、インストール後に、ドメイン管理者権限を設定することができます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#) を参照してください。

Websense コンポーネント用のインストール・フォルダを選択するよう求めるダイアログボックスが表示されます。

28. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照]をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ]をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

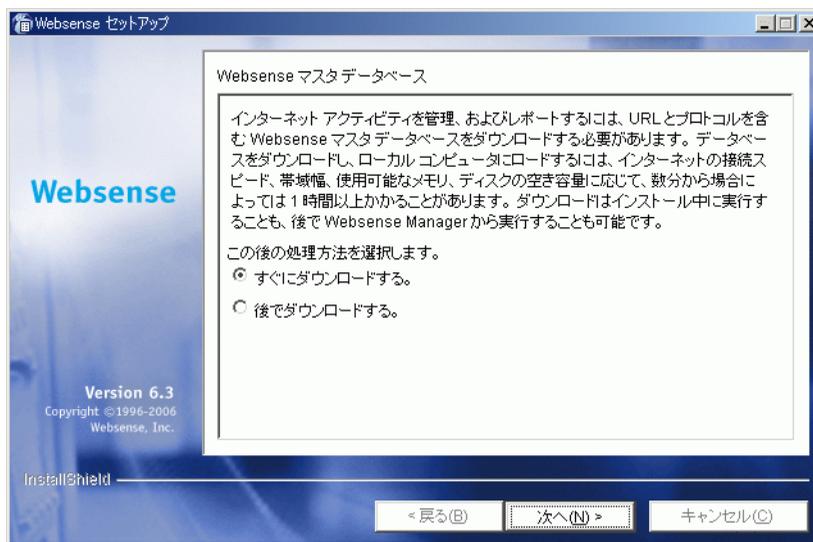
- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

29. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

- オンライン・インストーラを使用している場合、Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

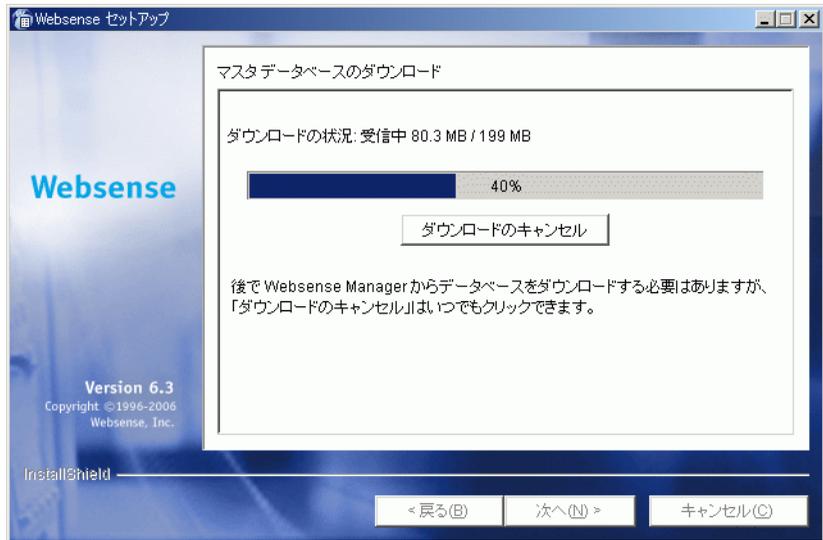
要求された際に有効なライセンスキーを入力すると、Websense Manager を使用してすぐに Websense Master Database をダウンロードするか、後でダウンロードするかを尋ねられます。



Master Database ダウンロードの選択

30. データベース・ダウンロード・オプションを選択し、[次へ]をクリックします。

今すぐ Master Database をダウンロードすることを選択した場合、プログレスバーが表示されます。データベースは、最初にインターネットを通してダウンロードされ、展開された後にローカルメモリへロードされなければなりません。データベースのダウンロードには数分から30分以上かかることがあります。インターネット接続性、帯域幅、時間帯、ダウンロードサーバーとの位置関係などによります。データベースの展開とロードには数分から30分以上かかることがあります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバーの稼働率などによります。



#### Master Database ダウンロードのプログレス

データベースのダウンロードが完了すると、ダウンロードのステータスが表示されます。

31. [次へ]をクリックし続行します。  
インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示されます。
32. [次へ]をクリックし続行します。

- 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、Websense Language Pack インストーラが起動します。ウェルカム画面で[次へ]をクリックして、画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新します。テキストは選択した言語で表示されます。
- 英語バージョンのインストーラを選択した場合は、Websense Manager を開始するかどうかをたずねる画面が表示されます。Manager を開始したくない場合は、チェックボックスをオフにしてください。[終了]をクリックし、インストーラを終了します。

---

 **ご注意**

Real - Time Analyzer および他の Websense Reporting Tool にアクセスする前に、まず Websense Manager にログオンし、ユーザのパーミッションを設定しなくてはなりません。詳細情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者ガイド』を参照してください。

---

33. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。
34. インストール後の作業については、[第 5 章 : 初期設定](#)を参照してください。

---

 **ご注意**

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、コンポーネントの追加またはコンポーネントを修正する場合は、修正したいコンピュータで再度 Websense インストーラを実行し、適切なオプションを選択してください。インストーラは Websense コンポーネントの有無を検出し、インストールを修正するためのオプションを提示します。手順は、[インストールの修復、175 ページ](#)を参照してください。

---

## Solaris または Linux

Solaris または Linux コンピュータ上に Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールするためには、この項の手順に従ってください。この手順は、主要な Websense フィルタリング・コンポーネントを同一コンピュータ上にインストールする**通常**インストールの手順です。

主要な Websense コンポーネントをネットワーク上の個別のコンピュータに分散する場合は、まず Policy Server をインストールしてください。正常に Policy Server がインストールされる以前は、Websense Manager のみがインストールできます。個別にコンポーネントをインストールする場合、Websense インストーラをそれぞれのコンピュータで実行し、**カスタム・インストール**を選択してください。Websense Enterprise をインストールするための手順は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする](#)、[98 ページ](#)を参照してください。

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、コンポーネントの追加またはコンポーネントを修正する場合は、修正したいコンピュータで再度 Websense インストーラを実行し、適切なオプションを選択してください。インストーラは Websense コンポーネントの有無を検出し、インストールを修正するためのオプションを提示します。Websense コンポーネントの追加と削除の詳細については、[コンポーネントの追加](#)、[176 ページ](#)および[コンポーネントの削除](#)、[188 ページ](#)を参照してください。

**通常**インストールでは、以下の Websense Enterprise コンポーネントを、同一の Solaris または Linux コンピュータ上にインストールできます：

- ◆ Filtering Service
- ◆ Policy Server
- ◆ User Service
- ◆ Websense Manager
- ◆ Network Agent
- ◆ eDirectory Agent
- ◆ Logon Agent
- ◆ DC Agent (Solaris ではサポートされません)
- ◆ RADIUS Agent
- ◆ Usage Monitor

eDirectory Agent は DC Agent または Logon Agent と同じコンピュータにインストールしないでください。競合を起こす可能性があります。

DC Agent は Solaris ではサポートされません。お客様の Solaris ネットワークが Windows ディレクトリ・リサービスを使用している場合、Solaris コンピュータで通常の Websense インストールを行った後、DC Agent を Windows または Linux コンピュータにインストールできます。個別の Websense コンポーネントのインストールについての説明は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする、98 ページ](#) を参照してください。

Solaris または Linux コンピュータに Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールする場合：

1. ルート・ユーザとしてインストール先のコンピュータにログオンします。
2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. インストーラ・ファイル用のセットアップ・ディレクトリを作成します。

例： `/root/Websense_setup`

4. Websense Enterprise または Web Security Suite のためのインストーラ・パッケージを取得してください：
  - **Web ダウンロード**：インストーラ・パッケージをダウンロードするには、[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進んでください。

- a. お客様のご希望に合わせて、製品、ダイナミック（オンライン）・インストーラ・パッケージかフル（オフライン）・インストーラ・パッケージ、オペレーティングシステム、言語を選択してください。



#### ご注意

ダイナミック・インストーラは、インストール間にウェブ・アクセスを必要とするオンライン・インストーラです。これは、製品選択を行った後、必要な製品ファイルを必要に応じてウェブサイトからダウンロードします。

フル・インストーラは、完全なオフライン・インストーラです。これは、ダイナミック・インストーラ・パッケージよりも大きく、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。オンライン・インストーラで問題がある場合は、このパッケージを使用してください。

- b. インストール先のコンピュータのセットアップ・ディレクトリに、選択したインストーラ・パッケージを保存してください。
  - **製品 CD** : Websense Enterprise と Web Security Suite のための、個別の製品 CD が使用可能です。製品 CD には、製品コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。お使いのオペレーティングシステムと言語に適したインストーラ・パッケージをコピーし、インストール先のコンピュータのセットアップ・ディレクトリに、保存してください。
5. セットアップ・ディレクトリで次のコマンドを使用して、ファイルを展開します：

```
gunzip <download file name>
```

例 : `gunzip Websense63Setup_Slr.tar.gz`
6. 次のコマンドを使用して、ファイルをコンポーネントに展開します：

```
tar xvf <unzipped file name>
```

例 : `tar xvf Websense63Setup_Slr.tar`

これで、次のファイルがセットアップ・ディレクトリに置かれます：

ファイル	説明
install.sh	インストール・プログラム
Setup	インストール関連ファイルおよびドキュメントを含むアーカイブ・ファイル
マニュアル	リリースノート：リリースノートと Websense ソフトウェアに関する最新の情報を含む HTML ファイルです。このファイルは、サポートされるブラウザでご覧ください。

7. 以下のコマンドで、セットアップ・ディレクトリからインストール・プログラムを実行します：

```
./install.sh
```

GUI 版のインストーラを実行するには、次のコマンドを使用します：

```
./install.sh -g
```

英語以外のベースのシステムを使用している場合、インストーラはエラー・メッセージを表示し、GUI 版がサポートされていないことを知らせます。

8. ライセンス契約へ進み、画面上の指示に従います。
9. 次の情報をインストーラに提供してください。
- **製品の選択** (Web Security Suite のみ)：インストールしたい Web Security Suite のエディションを選択してください：
    - ・ **[Web Security Suite または Web Security Suite – Corporate Edition]**：Web セキュリティとレポート機能を提供します。
    - ・ **[Web Security Suite – Lockdown Edition または Web Security Suite Lockdown – Corporate Edition]**：Web セキュリティ、レポート機能およびデスクトップセキュリティを提供します。
 インストーラは、お客様のオペレーティングシステム上で該当製品のコンポーネントをインストールする際の、インストール順序に関する情報を表示します。共有コンポーネントのため、適切な順番でインストールすることが重要です。
  - **インストール・タイプ**：インストール・タイプを選択するように求められます。

- ・ **[通常]**: このオプションを選択すると、Filtering Service、Policy Server、Websense Manager、User Service、Usage Monitor および Network Agent を同じコンピュータにインストールします。インストーラは、以下の透過的識別エージェントをインストールするオプションを提供します :DC Agent、eDirectory Agent、Logon Agent、DC Agent (Solaris ではサポートされません)、および RADIUS Agent。
- ・ **[カスタム]**: Websense コンポーネントを個別にインストールすることができます。ネットワークの個別のコンピュータにコンポーネントをインストールする場合、このオプションを選択できます。詳細情報は、[Websense コンポーネントを個別にインストールする](#)、98 ページ を参照してください。

リストされた Websense コンポーネントをインストールするために、**通常**を選択してください。

- **複数の IP アドレス**: インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、すべての利用可能なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。Websense 通信に使用するカードの IP アドレスを選択してください。



#### 重要

ノーマルモードの NIC (IP アドレスを持つカード) を選択してください。ステルスモードに設定されたインタフェース・カードも、このリストに表示されません。Websense 通信にステルスモード NIC を選択すると、Websense Service は動作しません。

---

- **統合オプション**: **[スタンドアロン]** を選択し、Websense Enterprise または Web Security Suite のインターネット・フィルタリング・コンポーネントとして Network Agent をインストールします。
- **ポート番号**: インストーラは自動的にデフォルトのポート番号を Policy Server(55806) および Filtering Service (15868) に割り当てます。いずれかのデフォルト・ポートでもすでに使用さ

れている場合は、代替りのポートを選択するよう要求され  
ます。1024 から 65535 までの間で未使用のポート番号を入力  
してください。



### ご注意

デフォルト以外のポート番号を使用する場合は、そ  
のポート番号を記録してください。他の Websense  
コンポーネントをインストールする時に必要です。

- **加入キー** : 有効な加入キーまたは試用評価キーがある場合、イ  
ンストール中に Websense Master Database をダウンロードす  
ることができます。これにより、Websense ソフトウェアは直  
ちにフィルタリングを開始することができます。
  - ・ **[取得済みの Websense 加入キーを使用します]** : 有効なラ  
イセンスキーを持っている場合、このオプションを選択し、  
要求された時にキーを入力します。インストール中に  
Websense Master Database をダウンロードすることができます。
  - ・ **[今回は キーを使用しません]** : キーを入力しないで、イン  
ストールを継続する場合、このオプションを選択します。  
インストール中に Websense Master Database をダウンロー  
ドすることはできません。インストールの後にキーを  
Websense Manager に登録して、Master Database をダウン  
ロードすることができます。手順は、[ライセンスキーと  
Master Database のダウンロード](#)、[210 ページ](#) を参照して  
ください。
- 30 日間の試用評価キーを要求するには、次のサイトに行きます :  
[www.websense.com/global/en/Downloads/KeyRequest](http://www.websense.com/global/en/Downloads/KeyRequest)
- **ネットワーク・インタフェース・カード (NIC) の選択** : 有効に  
されたすべてのネットワーク・インタフェース・カード (NIC)  
がリストに表示されます。コンピュータに複数の NIC がある  
場合、Network Agent のために使用するカードを選択してくだ

さい。Network Agent がフィルタすることを希望するインターネット・トラフィックにこのカードがビジビリティを持っていることを確認してください。



#### ご注意

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト、227 ページを参照してください。

- **Network Agent フィードバック** : インストーラは、Websense 定義プロトコルの使用についての情報を Websense が収集することを許可するかを尋ねます。情報は、プロトコル・フィルタリングの開発に使用されます。Network Agent フィードバック・オプションを選択し、続行します。



#### ご注意

Network Agent フィードバック・オプションが選択されているかどうかに関わらず、Network Agent は Websense に特定のユーザを識別するどんな情報も送信しません。

- **初期フィルタリング・オプション** : インストール後、定義済みのデフォルト・ポリシーに基づきインターネット・トラフィックをフィルタリングするか、インターネット・トラフィックをモニタのみするよう Websense ソフトウェアを設定することができます。最初からトラフィックをフィルタリングする場合は [はい] を、フィルタリングの前にネットワーク・トラフィックの評価を行いたい場合は [いいえ] を選択します。ネットワーク・アクティビティをレポートするには、Websense Reporting Tool を 1 つ以上インストールしてください。
- **透過的ユーザ識別** : 次のオプションから 1 つを選択します :
  - ・ **[eDirectory Agent]** : Novell eDirectory Service で透過的にユーザを認証するには、このオプションを選択し、eDirectory Agent をインストールします。

- ・ **[DC Agent]** (Solaris ではサポートされません) : Windows ベース・ディレクトリ・サービスを使用してユーザを透過的に認証するには、このオプションを選択し、DC Agent をインストールします。
- ・ **[Logon Agent]** : ユーザがドメインにログオンする際に透過的に認証するには、このオプションを選択し、Logon Agent をインストールします。Logon Agent は、ネットワークでログオン・スクリプトによって実行される LogonApp.exe と呼ばれるアプリケーションから、ユーザ情報を受け取ります。手順は、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページ](#) を参照してください。
- ・ **[DC Agent および Logon Agent]** : (Solaris ではサポートされません) : DC Agent と Logon Agent の両方をインストールし、透過的にユーザを認証するには、このオプションを選択します。これは、ネットワークでのユーザ認証の精度を上げることができます。
- ・ **[なし]** : このオプションは Websense 透過的識別エージェントをインストールしません。



#### ご注意

インストール後、Websense Manager で手動認証を設定することもできます。手順については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

- **RADIUS Agent** : RADIUS サーバによって認証されるリモート・ユーザがいる場合、Websense RADIUS Agent をインストールし、透過的に識別することを選択することができます。
- **DC Agent のディレクトリアクセス** : DC Agent のインストールを選択した場合、ドメインで管理者権限を持つユーザ名およびパスワードを求められます。ユーザを透過的に識別するために、DC Agent はディレクトリ情報へのアクセスを必要とします。
- **Samba クライアント** : インストーラは、Windows ワークステーションでプロトコル・ブロック・メッセージおよび画面上の警告を表示するために、Samba クライアント (v2.2.8a 以上) を

インストールしなければならない旨を注意します。Websense のインストールを続行し、後で Samba クライアントをダウンロードすることができます。



### ご注意

Samba クライアントは、プロトコル・ブロック・メッセージと画面上の警告の表示のみを制御します：

- ◆ Windows ワークステーション上にプロトコル・ブロック・メッセージを表示するために、Linux と Solaris の User Service コンピュータ上に Samba クライアントをインストールする必要があります。ただし、それは、プロトコル・ブロックの発生には必要ありません。
- ◆ Windows ワークステーション上に画面上の警告を表示するために、Linux と Solaris の Policy Server コンピュータ上に Samba クライアントをインストールする必要があります。

Samba クライアントをダウンロードするには：

- ・ Solaris : 下記の Sun フリーウェア・ウェブサイトへ接続してください：  
[www.sunfreeware.com](http://www.sunfreeware.com)
- ・ Linux : <http://rpmfind.net/linux/RPM> へ接続してください
- **ウェブ・ブラウザ**：オンライン・ヘルプを表示する際に使用するウェブ・ブラウザへのフルパスを入力しなければなりません。この情報は、[通常]のインストールまたは Websense Manager の個別インストールを選択した場合にのみ要求されます。

- **インストール・ディレクトリ** : Websense コンポーネントをインストールしたいディレクトリのパスを入力します。または、デフォルトの位置を受け入れます。  
(`/opt/Websense`) このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

- **システム要件チェック** : インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。
  - ・ インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
  - ・ インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されません。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。
- **インストールの要約** : インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

## 10. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをコピーします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

インストーラは `/opt/Websense` ディレクトリを作成し、Websense Manager をインストールした場合は、`/opt/Websense/Manager` ディレクトリを作成します。また、システムを起動するたびに Filtering Service の自動起動に必要なファイル (`/etc/rc3.d/S11WebsenseAdmin` を含む) をセットアップします。

- **Master Database のダウンロード** : 要求された際に有効なライセンスキーを入力すると、Websense Manager を使用してすぐに Websense Master Database をダウンロードするか、後でダウンロードするかを尋ねられます。データベース・ダウンロード・オプションを選択し、[次へ] を押し、続行します。



### ご注意

Master Database のダウンロード、展開およびローカルメモリへのロードには、数分から 60 分以上かかる場合があります。

今すぐ Master Database をダウンロードすることを選択した場合、ダウンロードが開始されます。データベースは、最初にインターネットを通してダウンロードされ、展開された後にローカルメモリへロードされなければなりません。データベースのダウンロードには数分から 30 分以上かかる場合があります。インターネット接続性、帯域幅、時間帯、ダウンロードサーバとの位置関係などによります。データベースの展開とロードには数分から 30 分以上かかる場合があります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバの稼働率などによります。

データベースのダウンロードが完了すると、ダウンロードのステータスが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

11. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示された場合：
  - 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、[次へ] をクリックして続行します。Websense Language Pack インストーラが起動します。画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
  - 英語のインストーラを選択した場合：
    - ・ コマンドラインモードでインストールを行っている場合、[終了] を選択し、インストーラを終了します。
    - ・ GUI モードでインストールしている場合、[次へ] を選択して続行します。インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねます。選択を行い、[終了] を選択し、インストーラを終了します。
12. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

13. インストール後の作業については、[第 5 章 : 初期設定](#)を参照してください。



#### ご注意

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、機能を追加する場合、またはコンポーネントを修正する場合は、修正したいコンピュータで再度 Websense インストーラを実行し、適切なオプションを選択してください。インストーラは Websense コンポーネントの有無を検出し、インストールを修正するためのオプションを提示します。手順は、[インストールの修復](#)、[175 ページ](#)を参照してください。

---

## Websense コンポーネントを個別にインストールする

---

すべての Websense Enterprise と Web Security Suite コンポーネントは、Websense インストーラの [カスタム] 機能を使用して、個別にインストールすることができます。環境によっては、Websense Manager および (Websense Filtering Service は別として) オプションのコンポーネントのいくつかをインストールしなければなりません。これらのコンポーネントは、ネットワークのリモート・コンピュータに単独または一緒にインストールすることができます。この項では、ネットワークの個別のコンピュータへ以下の Websense コンポーネントをインストールする手順を説明します：



#### 重要

Websense コンポーネントを個別にインストールする場合、必ず Policy Server を最初にインストールします。Websense Manager のみ、Policy Server より前にインストールできます。

- ◆ **Websense Manager** : Websense Manager は、Windows および Solaris にインストールします。同一のオペレーティングシステムまたは異なるオペレーティングシステム上の Policy Server へ接続することができます。

- ◆ **Network Agent** : Network Agent は Windows、Solaris および Linux コンピュータへインストールすることができ、内向きおよび外向きの両方のインターネット・トラフィックを検出できる必要があります。
- ◆ **DC Agent** : DC Agent は Windows または Linux 上で動作し、Windows ディレクトリ・サービス (NTLM ベースまたは Active Directory) を使用してネットワークへインストールされます。ドメイン・コントローラからユーザ情報を取得するには、ネットワークでドメイン管理者権限を持つ DC Agent をインストールします。
- ◆ **Real-Time Analyzer (RTA)** : RTA は Windows 上にのみインストールします。ネットワーク内で各 Policy Server に対し、RTA は 1 つのインスタンスしかもてません。
- ◆ **Usage Monitor** : Usage Monitor は、Windows、Solaris、および Linux にインストールします。ネットワーク内で、各 Policy Server に対し Usage Monitor は 1 つのインスタンスしかもてません。
- ◆ **RADIUS Agent** : RADIUS Agent は、Windows、Solaris および Linux にインストールします。RADIUS Agent は、Windows または LDAP ベースのディレクトリ・サービスで使用されます。遠隔地からログオンするユーザを透過的に識別するために、RADIUS クライアントと RADIUS サーバが共に動作します。
- ◆ **eDirectory Agent** : eDirectory Agent は、Windows、Solaris および Linux へインストールし、Novell eDirectory を使用してユーザを識別するネットワークへインストールされます。
- ◆ **Logon Agent** : Logon Agent は、Windows、Solaris および Linux にインストールします。Logon Agent は、ログオン・スクリプトによって実行される LogonApp.exe と呼ばれるクライアント・アプリケーションから、ログオン時にユーザ情報を受け取ります。ネットワーク内でこのログオン・スクリプトを作成・実行するための手順については、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する](#)、

218 ページ を参照してください。LogonApp.exe は、Windows クライアント・コンピュータでのみ動作します。



#### ご注意

他の Websense コンポーネントが存在する場合、これらの Websense コンポーネントをインストールするためには、いくつかの処理が必要です。インストーラは既存の Websense 初期ファイルを検索し、ネットワーク内の Policy Server および Filtering Service の位置を確認するために自動的にこの設定情報を使用します。

#### ◆ Remote Filtering コンポーネント :

組織のネットワーク・ファイアウォールの外に位置しているユーザ・ワークステーションでウェブ・フィルタリングをする必要がある場合にのみ、Remote Filtering コンポーネント (Remote Filtering Server および Remote Filtering Client Pack) が必要になります。このオプションのコンポーネントは **カスタムインストール**でのみ利用可能です。



#### ご注意

Remote Filtering コンポーネントを有効にするためには、リモート・フィルタリング・サービスのライセンスが必要です。

- **Remote Filtering Server** : Remote Filtering Server は Windows、Solaris または Linux にインストールします。これは、Websense Filtering Service およびユーザ・ワークステーションにインストールする Remote Filtering Clients と通信することができなければなりません。
- **Remote Filtering Client Pack** : Remote Filtering Client Pack は、ネットワーク・ファイアウォールの外側で使用される Windows ワークステーションに **Remote Filtering Client** を配備するために使用されるインストーラです。Remote Filtering Client Pack は、Windows のみにインストールします。

分散環境に Websense Enterprise と Web Security Suite コア・コンポーネントを個別にインストールする場合は、Websense Enterprise と Web

Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。お使いの環境でコンポーネントの最良の実装方法を決定するのに役立ちます。

## Windows の手順

本項の手順は、Windows 上の Websense Enterprise と Web Security Suite コンポーネントのすべての個別インストールに共通です。Websense インストーラのダウンロードおよび実行はここから開始し、コンポーネント特有の手順については適切な項を参照してください。

コンポーネントを個別に Windows にインストールするには、以下の手順に従います：

1. ローカル管理者権限でインストール先のコンピュータへログオンします。



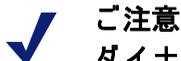
### 重要

User Service または DC Agent をインストールする場合は、ローカル管理者権限とともにドメイン管理者権限でログオンしてください。ドメイン・コントローラからユーザログイン情報を取得するには、User Service および DC Agent は管理者権限をもつ必要があります。この情報がなければ、Websense ソフトウェアはユーザおよびグループによるフィルタリングを実行できません。これらのコンポーネントを管理者権限でインストールできない場合、インストール後に、これらのサービスに管理者権限を設定することができません。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#) を参照してください。

---

2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. Websense Enterprise または Web Security Suite のためのインストーラ・パッケージを取得してください：
  - **Web ダウンロード** : インストーラ・パッケージをダウンロードするには、[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進んでください。

- a. お客様のご希望に合わせて、製品、ダイナミック（オンライン）・インストーラ・パッケージかフル（オフライン）・インストーラ・パッケージ、オペレーティングシステム、言語を選択してください。



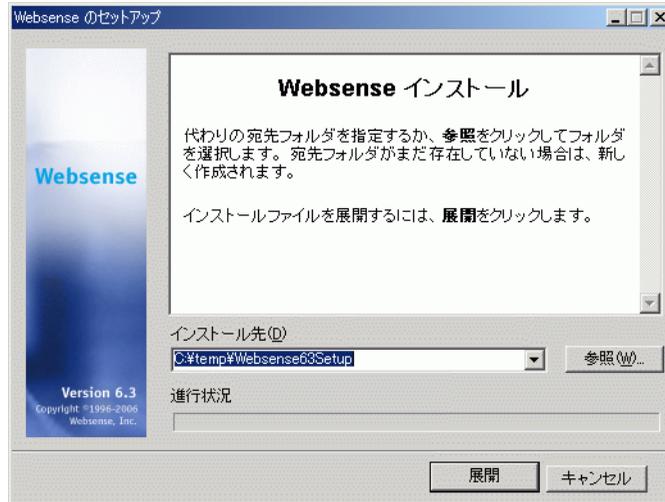
#### ご注意

ダイナミック・インストーラは、インストール間にウェブ・アクセスを必要とするオンライン・インストーラです。これは、製品選択を行った後、必要な製品ファイルを必要に応じてウェブサイトからダウンロードします。

フル・インストーラは、完全なオフライン・インストーラです。これは、ダイナミック・インストーラ・パッケージよりも大きく、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。オンライン・インストーラで問題がある場合は、このパッケージを使用してください。

- b. 選択したインストーラ・パッケージをインストール先コンピュータのフォルダへダウンロードし、ダブルクリックしてインストーラ・ファイルを展開します。
- **製品 CD** : Websense Enterprise と Web Security Suite のための、個別の製品 CD が使用可能です。製品 CD には、製品コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。
    - a. Websense Enterprise v6.3 の製品 CD から `Websense63.exe` を実行するか、Websense Web Security Suite v6.3 の製品 CD から `WebSecurity63.exe` を実行してください。（`autorun` が有効の場合、ファイルは自動的に実行されます。）
    - b. 開始するために、スタート画面上で [インストール] を選択します。

画面には、セットアッププログラムの展開手順が示されます。



#### Websense Enterprise インストーラ・ファイル展開

Web Security Suite をインストールする場合、デフォルトのインストール先フォルダは WebSecuritySuite63Setup です。

4. デフォルト以外の場所へインストールする場合、[参照]をクリックしてフォルダを選択するか、パスを入力します。

入力したパスが存在しない場合、インストーラはそのパスを作成します。

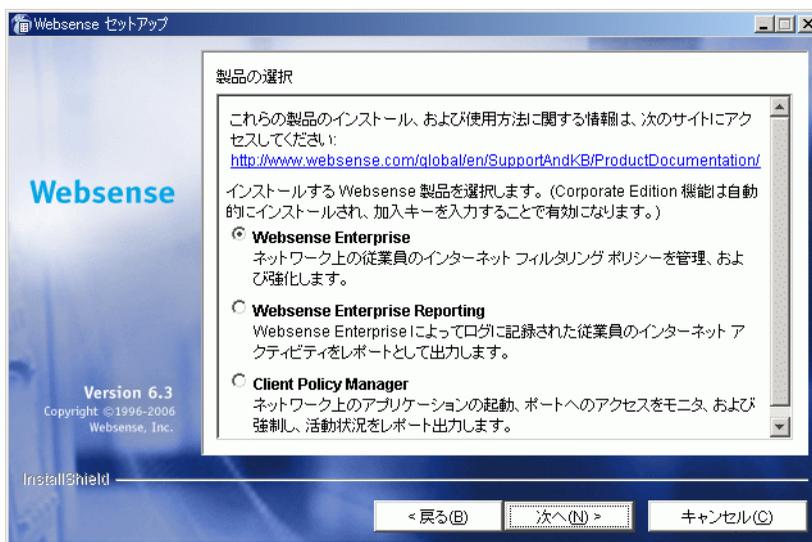


#### 重要

デスクトップにあるフォルダにはインストーラ・ファイルを展開しないでください。Real-Time Analyzer が Policy Server コンピュータの IP アドレスを受け取れなくなる場合があります。C:\temp のデフォルト位置を選択するか、別の適切なフォルダを選択してください。

5. ファイルの展開を開始するために [展開] をクリックします。
  - その位置にすでに Websense インストールファイルが存在する場合、既存のファイルの上書きを選択することができます。

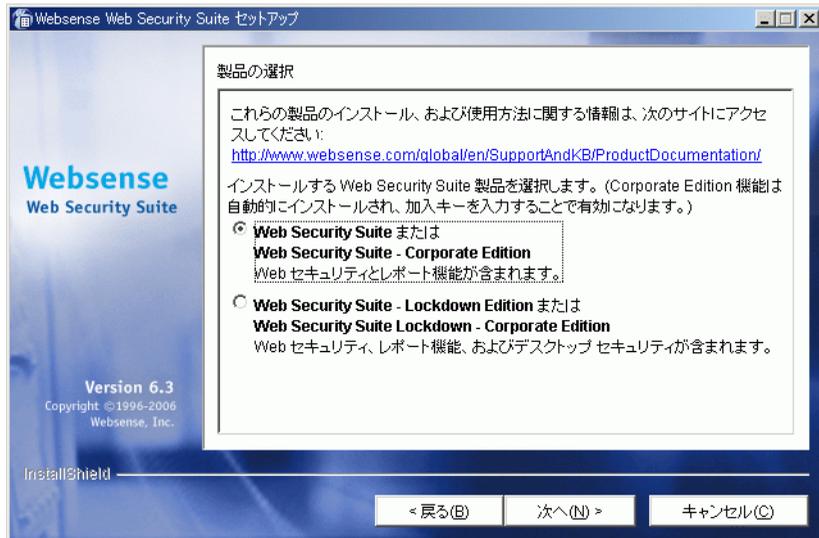
- プログレスバーが展開のステータスを表示し、ファイルが展開される際に、ビューペインはそれらのファイルのリストをスクロールします。
  - ファイルが展開された後、Setup.exe が自動的に実行されます。
6. ウェルカム画面で[次へ]をクリックして、ライセンス契約へ進み、画面上の指示に従います。
  7. インストールするコンポーネントを選択し、[次へ]をクリックします。
    - Websense Enterprise インストーラ : **[Websense Enterprise]** を選択します。



#### WebsenseEnterprise 製品選択

- Websense Web Security Suite インストーラ : お使いになる予定の Web Security Suite エディションを選択してください。
  - ・ **[Web Security Suite または Web Security Suite – Corporate Edition]** : Web セキュリティとレポート機能を提供します。

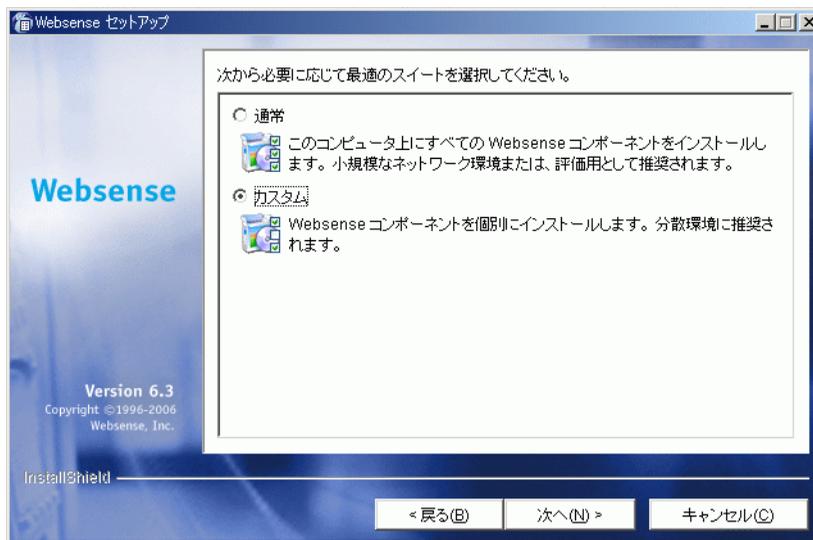
- ・ [Web Security Suite – Lockdown Edition または Web Security Suite Lockdown – Corporate Edition] : Web セキュリティ、レポート機能およびデスクトップセキュリティを提供します。



#### Web Security Suite 製品選択

8. (Web Security Suite のみ) 情報画面が現れ、Web Security Suite のモジュールがインストールされるべき順序で表示されます。[次へ] をクリックし続行します。
9. (Web Security Suite のみ) コンポーネントの選択画面が現れ、選択したエディションの Web Security Suite モジュールが、インストールされるべき順序で表示されます。**Web Security Suite** コンポーネントを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

セットアップ・タイプの 2 つの選択肢が提示されます。



### セットアップ・タイプ

10. [カスタム] を選択し、[次へ] をクリックします。
11. 次の適切なコンポーネントの項へ進み、続行します。

## Websense Manager

Websense Manager は Websense ソフトウェアのための管理インターフェースで、便利なアクセスのためにネットワーク内の複数の位置にインストールできます。Websense Manager のコンピュータは、ネットワーク上で Policy Server のコンピュータにアクセスする必要があります。

Websense Enterprise を Windows コンピュータへインストールする場合：

1. [Windows の手順](#)、[101 ページ](#) の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. カスタム・インストールを選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。[Websense Manager] を選択し、[次へ] をクリックします。

Websense Manager 用のインストール・ディレクトリを選択するよう求めるダイアログボックスが表示されます。

3. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照] をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

4. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストールが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

5. [次へ] をクリックし続行します。

インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねる画面を表示します。デフォルトでは、Manager の開始が選択されています。

6. 選択を行い、[終了] をクリックします。

7. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。

## Network Agent

Network Agent は、内部ネットワークから両方向のインターネット・トラフィックをモニタできなければなりません。Network Agent は、要求するワークステーションへのインターネット応答と同様、内部ネットワークからのインターネット要求を確認することができるコンピュータへインストールしてください。



### 重要

対象となるターゲットのトラフィックをモニタできないコンピュータに Network Agent をインストールすると、Protocol Management、Bandwidth Optimizer および IM Attachment Manager のような Network Agent の機能は正常に動作しません。

---

このインストールが、Network Agent の複数の配備の一部である場合は（負荷分散のために）、Network Agent の各インスタンスの IP アドレス範囲が重複しないよう注意してください。二重ロギングを引き起こす原因になります。ネットワーク全体をフィルタリングできるように、Network Agent を配備してください。一部しか配備されていない場合、Network Agent によって監視されていないネットワーク・セグメントからのログデータが損失し、プロトコルおよび帯域幅、および基本的な HTTP フィルタリングによるフィルタリングが不完全になります。一部しか配備されていない場合、Network Agent によって監視されていないネットワーク・セグメントからのログデータが損失し、プロトコルおよび帯域幅によるフィルタリングが不完全な結果に終わります。複数の Network Agent のための IP アドレス範囲については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。Network Agent の配備の詳細情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

Network Agent を、ファイアウォールを実行しているコンピュータにインストールしないでください。Network Agent は、パケット・キャプチャ・ユーティリティを使用しており、ファイアウォール・コンピュータにインストールされると適切に動作しないことがあります。

Network Agent を、Filtering Service および Policy Server がすでにインストールされているコンピュータへインストールする場合は、[コンポーネントの追加](#)、[176 ページ](#)の手順を参照してください。



### 重要

Network Agent をインストールする前に、Websense Filtering Service および Policy Server がインストールされ、実行されている必要があります。または、Network Agent と同時にインストールされなければなりません。インストーラは、これらのコンポーネントの IP アドレスおよびポート番号を求め、Policy Server および Filtering Service が見つからない場合は、Network Agent をインストールしません。

Network Agent を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Windows の手順](#)、[101 ページ](#)の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. カスタムインストールを選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[Network Agent]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

3. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、**[次へ]** をクリックします。

インストーラはこのコンピュータがファイアウォールを実行しているかどうか尋ねます。続行する前に、インストール先のコンピュータがファイアウォールとして使用されていないことを確認します。



### 重要

Network Agent はファイアウォールを実行しているコンピュータでは正常に動作しません。

唯一の例外は、Network Agent とファイアウォールソフトウェアの両方を配備できるように、別々のプロセッサまたは仮想プロセッサを持つブレードサーバーまたはアプライアンスです。

4. [はい] または [いいえ] を選択し、[次へ] をクリックし続行します。

- インストール先コンピュータがファイアウォールとして使用されていない場合は、[はい] を選択します。インストールが続行します。
- [いいえ] を選択し、ファイアウォール・コンピュータに Network Agent をインストールしようとする、Setup は終了します。ファイアウォールを実行していないコンピュータに Network Agent をインストールしてください。

Network Agent で使用する、トラフィックを取り込むネットワーク・インタフェース・カード (NIC) を選択するように求める画面が表示されます。コンピュータ内で有効なすべてのネットワーク・インタフェース・カードがリストに表示されます。

5. コンピュータに複数の NIC がある場合、Network Agent がフィルタすることを希望するインターネット・トラフィックのビジビリティを持つものを選択してください。



### ご注意

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト、227 ページ を参照してください。

6. [次へ] をクリックし続行します。

インストーラは、Websense Filtering Service がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



**ご注意**

このダイアログボックスに入力されている通信ポート (15868) は、Filtering Service をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Filtering Service をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

7. Filtering Service コンピュータの IP アドレスおよびポート番号 (デフォルトと異なる場合) を入力し、[次へ] をクリックします。

Websense 定義プロトコルの使用についての情報を Websense が収集することを許可するかを尋ねる画面が現れます。情報は、プロトコル・フィルタリングの開発に使用されます。



**ご注意**

Network Agent フィードバック・オプションが選択されているかどうかに関わらず、Network Agent は Websense に特定のユーザを識別するどんな情報も送信しません。

---

8. Network Agent フィードバック・オプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。

9. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照] をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

10. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

11. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
12. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
13. ネットワークで使用するために Network Agent を設定します。第 5 章 : 初期設定 の Network Agent の初期設定の手順、および Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』の「Network Agent」の章を参照してください。

## DC Agent

DC Agent は Websense 透過的識別エージェントで、Windows ディレクトリ・サービス (NTLM ベースまたは Active Directory) を使用してユーザを認証するネットワークで使用されます。Windows または Linux の通常インストールで、DC Agent のインストールを選択できます。その際にインストールしなかった場合、または Windows ベース・ディレクトリ・サービスを介して認証する必要がある場合は、以下の手順で Windows コンピュータに DC Agent をインストールすることができます。

ネットワークが大規模な場合は、DC Agent を複数のコンピュータにインストールすることが効果的です。こうすると、ユーザ情報が継続

的に投入される DC Agent ファイル用に十分な容量を持つことができます。DC Agent の配備に関する追加情報は、[Websense Enterprise と Web Security Suite のコンポーネント](#)、[15 ページ](#)を参照してください。

DC Agent を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Windows の手順](#)、[101 ページ](#)の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. [カスタム・インストール](#)を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[DC Agent]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
3. DC Agent の通信に使用するカードを選択し、**[次へ]**をクリックします。  
インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



#### ご注意

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

4. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、**[次へ]**をクリックします。  
インストーラは、ドメインで管理者権限を持つユーザ名およびパスワードを入力するよう求めます。ユーザを透過的に識別するために、DC Agent はディレクトリ情報へのアクセスを必要とします。

5. ドメインおよびユーザ名、次にドメイン管理者権限を有するアカウントのネットワーク・パスワードを入力して、[次へ]をクリックして続行します。



#### ご注意

インストールの後で、DC Agent にドメイン管理者権限を与えることもできます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#)を参照してください。

インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。

6. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照]をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ]をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

7. [次へ]をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

8. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
9. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
10. Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』の中の「ユーザ識別」の章の説明に従い、User Service を DC Agent と通信するように設定してください。

## Real-Time Analyzer (RTA)

RTA はグラフで帯域幅使用状況の情報を表示し、カテゴリまたはプロトコルの要求を表示します。RTA は、Windows にのみインストールします。ネットワーク内で各 Policy Server に対し、RTA は 1 つのインスタンスしかもてません。

RTA を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Windows の手順](#)、[101 ページ](#)の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. カスタム・インストールを選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[Real-Time Analyzer]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
3. RTA の通信に使用するカードを選択し、**[次へ]** をクリックします。

インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



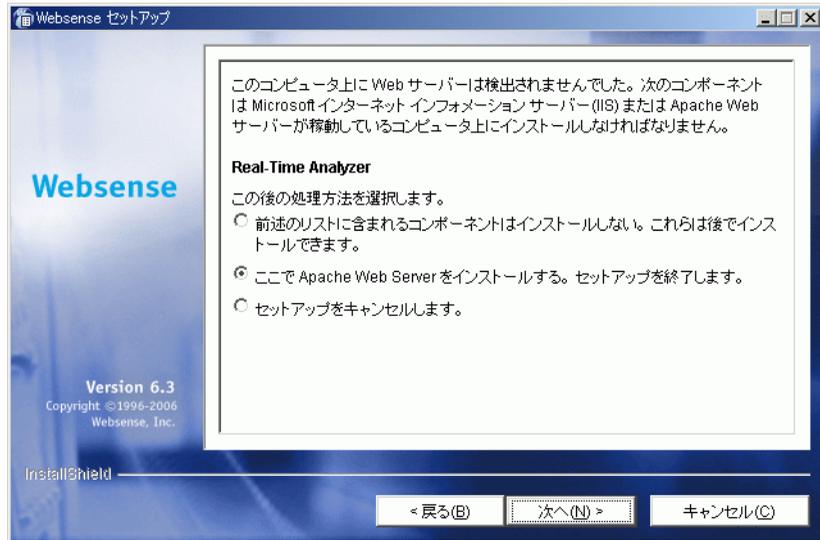
#### ご注意

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

4. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、[次へ] をクリックします。  
インストーラは、Real-Time Analyzer 用にサポートされるウェブ・サーバ (Apache HTTP Server または IIS) についてシステムをチェックし、以下の処理を行います：
  - サポートされるウェブ・サーバの両方が検出される場合、ダイアログボックスが表示され、RTA 用にサーバを 1 つ選択するよう求められます。
  - サポートされるサーバの 1 つが検出される場合、インストーラは続行します。通知はありません。

- サポートされるウェブ・サーバのいずれも検出されない場合、インストーラは Apache HTTP Server をインストールするか、RTA をインストールせずにインストールを続行するかを尋ねます。



#### Real-Time Analyzer 用の Web サーバー

Apache HTTP Server のインストール・オプションを選択した場合、Websense インストーラは Apache インストーラを開始し、Websense コンポーネントをインストールせずに終了します。Apache HTTP Server のインストール後、コンピュータを再起動し、Websense インストーラを再度実行しなければなりません。

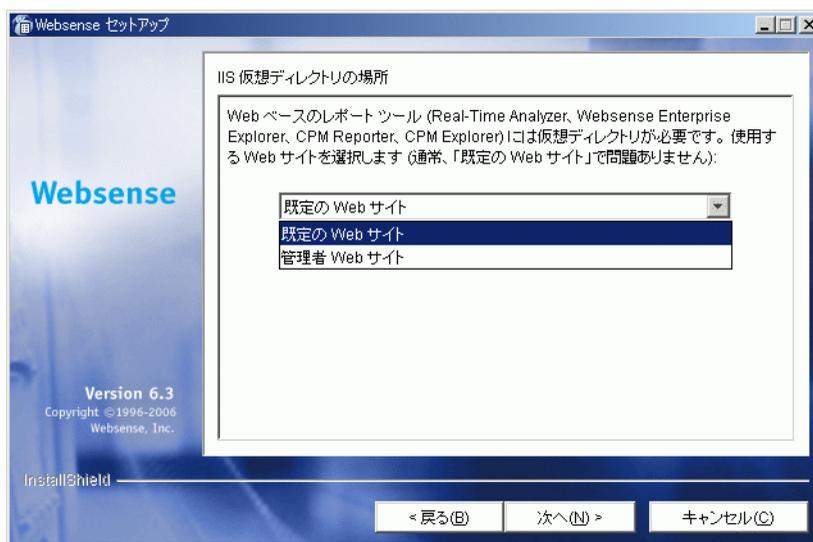


#### ご注意

Apache HTTP Server マニュアルは、docs/manual/ ディレクトリに HTML 形式でインストールされます。最新のバージョンは次にあります：<http://httpd.apache.org/docs/2.0/>

5. ウェブ・サーバのインストール・オプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

ウェブ・サーバとして IIS を使用する場合、IIS Manager 内のウェブサイト名を求められます。インストーラはその下に仮想ディレクトリを作成します。デフォルト値は [既定の Web サイト] で、ほとんどのインスタンスに使用可能です。



#### 仮想ディレクトリの選択

- IIS Manager 内でデフォルト・ウェブサイトの名前を変更した場合、または英語以外の言語の Windows を使用している場合は、ドロップダウンリストの名前から適切なウェブサイトを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。

- デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照] をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。

- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

8. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、インストールが完了したことを通知するメッセージが表示されます。

9. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。



#### ご注意

Real - Time Analyzer および他の Websense Reporting Tool にアクセスする前に、まず Websense Manager にログオンし、ユーザのパーミッションを設定しなくてはなりません。詳細情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

---

10. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。

## Usage Monitor

Usage Monitor はユーザのインターネット利用状況を追跡し、特定の URL カテゴリまたはプロトコルのインターネット利用で設定したしきい値

に達したときに警告を送信します。ネットワーク内で、各 Policy Server に対し Usage Monitor は 1 つのインスタンスしかもてません。

Usage Monitor を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. **Windows の手順、101 ページ**の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタムインストール**を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[Usage Monitor]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
3. Usage Monitor の通信に使用するカードの IP アドレスを選択し、**[次へ]**をクリックします。  
インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



#### ご注意

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

4. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、**[次へ]**をクリックします。  
インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。
5. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、**[参照]**をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、**[次へ]**をクリックして続行します。  
インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

6. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

7. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
9. Websense Manager で、[サーバ] > [設定] > [アラートと通知] を選択し、Usage Monitor が Usage Alert を送信するように設定します。詳細情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

## RADIUS Agent

Websense RADIUS Agent は、お使いの Websense フィルタリング・ポリシーと RADIUS サーバが提供する認証を統合します。RADIUS Agent は、ダイヤルアップ、仮想プライベート・ネットワーク (VPN)、デジタル電話加入者回線 (DSL) またはその他のリモート接続を使用して

ネットワークにアクセスするユーザを Websense ソフトウェアが透過的に識別することを可能にします。

RADIUS Agent を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. **Windows の手順、101 ページ**の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタム・インストール**を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[RADIUS Agent]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。

インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

3. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、**[次へ]**をクリックします。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
4. RADIUS Agent の通信に使用するカードを選択し、**[次へ]**をクリックします。  
インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。
5. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、**[参照]**をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、**[次へ]**をクリックして続行します。  
インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

6. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

7. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
9. RADIUS Agent を設定し、RADIUS Agent のための環境の構成を設定してください。手順については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。

## eDirectory Agent

Websense eDirectory Agent は、Novell eDirectory と共に動作し、ユーザまたはグループに割り当てられた特定のポリシーに応じて Websense ソフトウェアがそれらをフィルタリングできるようユーザを透過的に識別します。

eDirectory Agent を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. **Windows の手順、101 ページ**の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタム・インストール**を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[eDirectory Agent]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。

---

 **ご注意**

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

3. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、**[次へ]** をクリックします。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
4. eDirectory Agent の通信に使用するカードの IP アドレスを選択し、**[次へ]** をクリックします。  
インストーラは、Novell eDirectory の名前およびパスワードを求めます。
5. 完全識別名および有効なパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックして続行します。  
インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。
6. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、**[参照]** をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、**[次へ]** をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

7. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

8. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
9. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
10. Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章に従い、eDirectory Agent と Novell eDirectory を設定してください。

## Logon Agent

Logon Agent は、Websense の透過的識別エージェントで、ネットワークでユーザがクライアント・コンピュータを介して Windows ドメインにログオンする際に、それらのユーザを識別します。Logon Agent は、Windows クライアント・コンピュータ上のログオン・スクリプトによって実行される個別のアプリケーション、LogonApp.exe からログオン情報を受け取ります。ネットワーク内でこのスクリプトをセットアップするための情報は、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する](#)、[218 ページ](#) を参照してください。

ネットワークに適切に認証されていないユーザがいる場合は、Logon Agent は DC Agent と共に実行されます。これは、ネットワークで Windows 98 ワークステーションを使用する場合に発生します。ユーザがインターネット要求を行う際に、DC Agent はユーザをチェックして識別することができません。

Logon Agent を Windows コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Windows の手順](#)、[101 ページ](#) の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. [カスタムインストール](#) を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。[\[Logon Agent\]](#) を選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

このダイアログボックスに入力されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号をこのダイアログボックスに入力してください。

---

3. ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレスを入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、[\[次へ\]](#) をクリックします。インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。

4. Logon Agent の通信に使用するカードの IP アドレスを選択し、[次へ] をクリックします。

インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。

5. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照] をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

6. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

7. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。

8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
9. [Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページ](#)の手順に従って、必要なログオン・スクリプトをセットアップしてください。
10. Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章に従い、Logon Agent がクライアント・ワークステーションおよび Filtering Service と通信するように設定してください。

## Remote Filtering Server

Remote Filtering Server は、ネットワーク・ファイアウォールの外に位置しているユーザ・ワークステーションにウェブ・フィルタリングを提供します。Remote Filtering Server を通してフィルタされるためには、リモート・ワークステーションで Remote Filtering Client を実行している必要があります。(Remote Filtering Client のインストールの説明は、[Remote Filtering Client、138 ページ](#) を参照してください。)



### ご注意

Remote Filtering コンポーネントを有効にするためには、リモート・フィルタリング・サービスのライセンスが必要です。

Remote Filtering Server は、別の専用のコンピュータにインストールします。このコンピュータは、Websense Filtering Service とネットワーク・ファイアウォールの外側のリモート・ワークステーションと通信できる必要があります。Remote Filtering Server のコンピュータは、ドメイン内にある必要はありません。

Remote Filtering Server は、組織内の最も外側のファイアウォールの内側、ただし他の社内ネットワークを保護しているファイアウォールの外側の DMZ にインストールする必要があります。Remote Filtering Server をネットワークに配備するための詳細情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』で、「Remote Filtering」の章を参照してください。

第 1 の Remote Filtering Server にフェイルオーバー機能を提供するために第 2、第 3 の Remote Filtering Server をインストールすることが

できます。各 Remote Filtering Client は、第 1、第 2、第 3 の Remote Filtering Server と接続するように設定することができます。第 1 のサーバが利用できない場合、クライアントは第 2、第 3 に接続しようと試み、それから再び第 1 に接続しようと試みます。



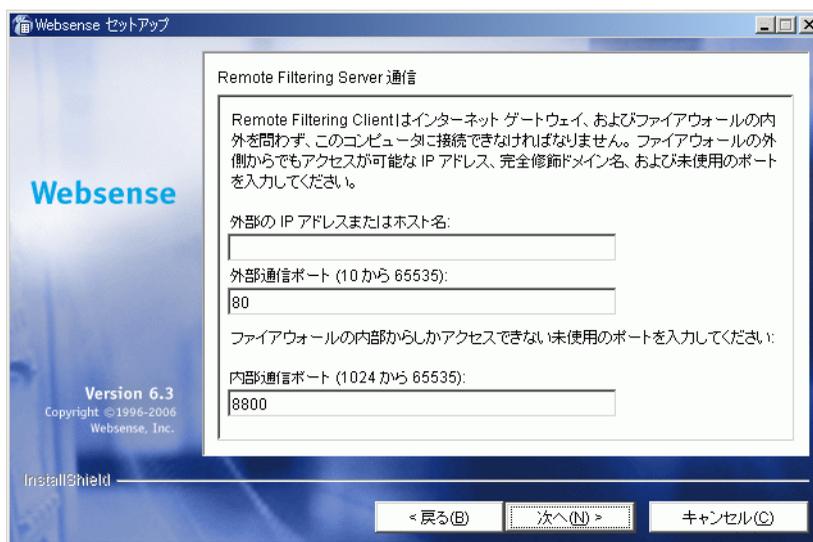
### 重要

- ◆ ネットワーク内のそれぞれの Filtering Service に対して、第 1 の Remote Filtering Server を 1 つだけインストールしてください。
- ◆ Filtering Service および Network Agent と同じコンピュータに Remote Filtering Server をインストールしないでください。
- ◆ サービスパック 1 がインストールされている場合にのみ、Windows Server 2003 上で Remote Filtering Server がサポートされます。
- ◆ Remote Filtering Server コンピュータで DHCP を有効にしないでください。

Windows コンピュータに Remote Filtering Server をインストールするには、次の手順に従います：

1. [Windows の手順、101 ページ](#)の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタム・インストール**を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[Remote Filtering Server]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
3. Remote Filtering Server がネットワーク・ファイアウォールの内側で他の Websense コンポーネントと通信するために使用するカードの IP アドレスを選択し、**[次へ]**をクリックします。

Remote Filtering Client はインターネット・ゲートウェイまたはファイアウォールの内側および外側から Remote Filtering Server に接続する必要があります。インストーラは、このコンピュータの接続情報を提供するように求めます。



#### Remote Filtering Server 通信

4. [外部の IP アドレスまたはホスト名] フィールドに、ネットワーク・ファイアウォールの外側から見える IP アドレスまたは (完全修飾ドメイン名形式で) コンピュータ名を入力します。
5. [外部通信ポート] フィールドに、使用中でないネットワーク・ファイアウォールの外側からアクセス可能な (10 から 65535 までの) ポート番号を入力します。デフォルト設定は 80 です。(コン

コンピュータにインストールされている Web サーバがある場合は、ポート 80 は使用中かもしれません。その場合はデフォルト値を変える必要があります。)



**重要**

[外部の IP アドレスまたはホスト名] として入力されたポートは、ファイアウォールの外側に位置するワークステーション上の Remote Filtering Client からの接続を受け入れるために、ネットワーク・ファイアウォール上でオープンされていなくてはなりません。詳細情報は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定](#)、[232 ページ](#)を参照してください。

- 
6. [内部通信ポート] フィールドに、使用中でないネットワーク・ファイアウォールの内側からのみアクセス可能なポート番号 (1024 から 65535 まで) を入力してください。デフォルト設定は 8800 です。

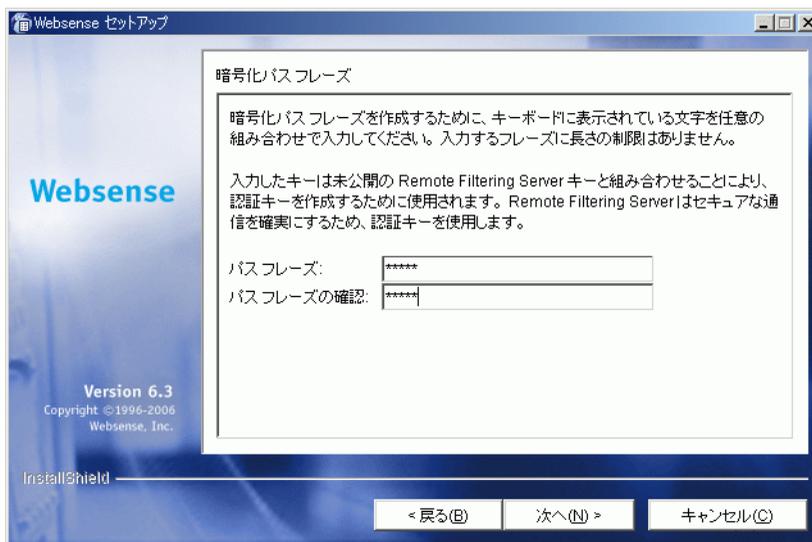


**重要**

ファイアウォールの外側に位置するワークステーションから [内部通信ポート] までの接続をブロックするようにネットワーク・ファイアウォールを設定してください。詳細情報は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定](#)、[232 ページ](#)を参照してください。

- 
7. [次へ] をクリックし続行します。

インストーラは、Remote Filtering Server の任意の長さのパスワードを入力するように求めます。安全なクライアント / サーバ通信のための暗号化認証キー（共有された秘密）を作成するために、このパスワードは非公開キーとともに組み合わせられます。



### 暗号化パスワード

8. [パスワード] を選択する前に、次の要件を考慮してください：
- すでに Client Policy Manager(CPM) をネットワークにインストールしている場合、CPM をインストールしたとき使用した同じパスワードを入力する必要があります。
  - 将来、ネットワークに Websense Client Policy Manager (CPM) をインストールする場合、この画面に入力した同じパスワードを使用する必要があります。
  - Remote Filtering Server のインストールを第 1Remote Filtering Server のためにバックアップの（第 2 または第 3 の）サーバとして機能させる場合、第 1Remote Filtering Server をインストールしたときに使用した同じパスワードを入力する必要があります。
  - パスワードは、ASCII 文字のみを含まなくてはなりません。

- このサーバに接続する Remote Filtering Client をインストールするとき、この画面で入力したパスフレーズを使用する必要があります。Remote Filtering Server の接続情報、140 ページを参照してください。



### 警告

後で Websense のシステムから取り出すことができないので、必ずパスフレーズを記録して安全な場所にそれを保存してください。

9. パスフレーズを入力し、確認します。
10. [次へ] をクリックし続行します。

Remote Filtering Server は、Websense Filtering Service と通信することができる必要があります。インストーラは、Filtering Service がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。

### Filtering Service の情報

11. 最初のフィールドに、Filtering Service コンピュータの実際の(内部) IP アドレスを入力します。

12. Filtering Service コンピュータとこのコンピュータ間に、ネットワークアドレス変換を行うファイアウォールまたは他のネットワーク装置がありますか？
  - ある場合は、Filtering Service コンピュータの変換された（外部）IP アドレスを入力します。
  - ない場合は、チェックボックスの選択を取り消すためにクリックして、**[Filtering Service の変換された（外部）IP アドレス]** フィールドをグレーアウトしてください。
13. 15868 のデフォルト値から変更されている場合、Filtering Service コンピュータのフィルタポート番号を入力します。



#### ご注意

フィルタポートは、インストーラによって Filtering Service をインストールするために使用されるデフォルト通信ポートです。異なった通信ポートを使用して Filtering Service をインストールした場合、そのポート番号を入力します。

14. 15871 のデフォルト値から変更されている場合、Filtering Service コンピュータのブロックページ用ポート番号を入力します。



#### 重要

Filtering Service コンピュータと Remote Filtering Server コンピュータ間にファイアウォールがある場合、そのファイアウォール上のフィルタポート (15868) およびブロックページ用ポート (15871) をオープンしてください。Filtering Service は Remote Filtering Server から接続を受け入れ、リモート・ユーザにブロック・ページを提供することができなければなりません。詳細情報は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定](#)、232 ページを参照してください。

15. **[次へ]** をクリックします。

インストーラは、Websense コンポーネントのインストール・フォルダを選択するよう求めます。

16. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照] をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

17. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされていないので、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

18. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。

19. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。



### 重要

Network Agent が Remote Filtering Server コンピュータに向かう (または来る) HTTP 要求をフィルタしていないことを確認してください。

Network Agent の配備に関する情報は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「Network Agent」の章を参照してください。

---

リモート・フィルタリングの機能については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「Filtering Remote Client」の章を参照してください。

## Remote Filtering Client Pack

Remote Filtering Client Pack は、Remote Filtering Client をインストールするインストーラ・パッケージです。このインストーラ・パッケージは、Windows ワークステーションに Remote Filtering Client を配備するために使用します。(Remote Filtering Client、138 ページを参照してください。) Remote Filtering Client Pack は、Windows コンピュータのみにインストールできます。



### ご注意

Remote Filtering コンポーネントを有効にするためには、リモート・フィルタリング・サービスのライセンスが必要です。

---

Windows コンピュータに Remote Filtering Client Pack をインストールするには、次の手順に従います：

1. [Windows の手順、101 ページ](#)の手順に従い、Windows インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。

2. カスタム・インストールを選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。[Remote Filtering Client Pack] を選択し、[次へ] をクリックします。

インストーラは、Remote Filtering Client Pack のインストール・フォルダを選択するよう求めます。

3. デフォルトパス (C:\Program Files\Websense) を使用するか、[参照] をクリックして、別のインストール・フォルダを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

4. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされていない場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。

インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。

5. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。

6. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
7. **手順 3** でデフォルト・インストール・パスを選択した場合、Remote Filtering Client Pack は次の場所にあります：  
C:\Program Files\Websense\bin\  
RemoteFilteringAgentPack\NO\_MSI\CPMClient.msi
8. ネットワーク・ファイアウォールの外側でフィルタしたいユーザ・ワークステーションに Remote Filtering Client をインストールするために、Remote Filtering Client Pack を使用します。詳細については、[Remote Filtering Client](#)、[138 ページ](#)を参照してください。

## Remote Filtering Client

Remote Filtering Client は、ネットワーク・ファイアウォールの外側で使用されるユーザ・ワークステーションにインストールします。リモート・ワークステーションでウェブ・フィルタリングを可能にするために、このコンポーネントは ネットワーク・ファイアウォールの内側に位置する Remote Filtering Server と接続します。Remote Filtering Client Pack は、Windows のみにインストールします。



### ご注意

Remote Filtering コンポーネントを有効にするためには、リモート・フィルタリング・サービスのライセンスが必要です。

Remote Filtering Client は 次の 2 つの方法でインストールすることができます：

- ◆ **手動インストール**：手動で個別のワークステーションに Remote Filtering Client をインストールするために、Remote Filtering Client Pack を使用します。情報は、[Remote Filtering Client の手動インストール](#)、[139 ページ](#)を参照してください。
- ◆ **サードパーティ・ツールでの自動配備**：自動的にユーザ・ワークステーションに Remote Filtering Client を配備するために、Remote Filtering Client Pack とサードパーティ配備ツールを使用します。情報は、[サードパーティ配備ツールによる Remote Filtering Client のインストール](#)、[143 ページ](#)を参照してください。

- ◆ **CPM Client Agent の一部としての配備 (Websense Client Policy Manager ユーザのみ)** : Websense Client Policy Manager (CPM) のライセンスを購入して頂いている場合、Remote Filtering Client をインストールする必要はありません。Remote Filtering Client アプリケーションは、CPM Client Agent の一部として含まれています。ユーザ・ワークステーションに CPM Client Agent を配備した時、それは自動的に配備されます。詳細は、Websense Client Policy Manager のマニュアルを参照してください。



### 警告

次のコンピュータに Remote Filtering Client をインストールしないでください :

- ◆ Windows 2000、サービスパック 2 以前が稼動してるコンピュータ。インストールは失敗します。システム要件の詳細情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『[配備ガイド](#)』を参照してください。
- ◆ Remote Filtering Server をインストールしたコンピュータ。Remote Filtering Server と同じコンピュータで Remote Filtering Client を実行すると、リモート・フィルタリングが失敗します。

---

## Remote Filtering Client の手動インストール

単独の Windows ワークステーションに Remote Filtering Client を手動インストールするには、次の手順に従います :

1. このクライアントが接続する Remote Filtering Server が別のコンピュータに正しくインストールされていることを確認してください。Windows でのインストールの説明は、[Remote Filtering Server、128 ページ](#) を参照してください。Solaris と Linux でのインストールの説明は、[Remote Filtering Server、169 ページ](#) を参照してください。
2. [Remote Filtering Client Pack、136 ページ](#) で記述されているように、ワークステーションに Remote Filtering Client Pack をインストールしてください。あるいは、既に他のコンピュータ上に Remote Filtering Client Pack をインストールしている場合、簡単にインストール・ワークステーション上のフォルダに CPMClient.msi

ファイルをコピーすることができます。C:\Program Files\Websense のデフォルト・インストール・パスを選択した場合、ファイルは次の位置にあります：

C:\Program Files\Websense\bin\  
RemoteFilteringAgentPack\NO\_MSI\CPMClient.msi

3. CPMClient.msi ファイルをダブルクリックします。

Remote Filtering Client のインストーラが開きます。

4. [次へ] をクリックし続行します。

Remote Filtering Client は、組織のインターネット・ゲートウェイまたはファイアウォールの外から Remote Filtering Server に接続する必要があります。このクライアントがウェブ・フィルタリングのために使用する Remote Filtering Server の接続情報を求められます。

Remote Filtering Client - InstallShield Wizard

**Remote Filtering Server Connection Information**

The following information is necessary to allow the Remote Filtering Client deployed on this machine to communicate with the Remote Filtering Server:

Primary Remote Filtering Server:

External IP or Domain Name: 0 Port: 80

Internal IP or Hostname: 0 Port: 8800

Secondary Remote Filtering Server (optional):

External IP or Domain Name: 0 Port: 80

Internal IP or Hostname: 0 Port: 8800

Tertiary Remote Filtering Server (optional):

External IP or Domain Name: 0 Port: 80

Internal IP or Hostname: 0 Port: 8800

Encryption and Authentication

Pass Phrase: \*

Encrypted Key: 0

InstallShield

< Back Next > Cancel

Remote Filtering Server の接続情報

Remote Filtering Client は、第 1 の Remote Filtering Server と接続するように設定する必要があります。

オプションの第 2、第 3 の Remote Filtering Server が第 1 のサーバのフェイルオーバー機能を提供するためにインストールされた場合、Remote Filtering Client は同様にこれらに接続するように設定する必要があります。Remote Filtering Client は、最初に第 1、次に第 2、次に第 3、それから再び第 1 の Remote Filtering Server に接続を試みます。

5. 画面の **[Primary Remote Filtering Server (第 1 リモート・フィルタリング・サーバ)]** の項に、このクライアントが最初に接続を試みる Remote Filtering Server のための接続情報を入力してください:
  - 第 1 Remote Filtering Server コンピュータの外部から見える IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を **[External IP or Domain Name (外部 IP またはドメイン名)]** フィールドに入力してください。



#### 重要

この Remote Filtering Server をインストールしたとき入力したものと**同じアドレスフォーマット** (IP アドレスまたは FQDN) で**同じ外部アドレス**を使用する必要があります。すなわち、Remote Filtering Server をインストールしたときに **[External IP Address or Hostname (外部 IP アドレスまたはドメイン名)]** フィールドに入力した IP アドレスと同じ IP アドレスをこのフィールドに入力する必要があります。完全修飾ドメイン名 (FQDN) の形式でコンピュータ名を入力した場合、ここでも同じく FQDN 形式で入力する必要があります。

- **[External IP or Domain Name (外部 IP またはドメイン名)]** フィールドの右側の **[Port (ポート)]** フィールドに、ネットワーク・ファイアウォールの外側から第 1 Remote Filtering Server と通信するために使用される外部から見えるポートのポート番号を入力してください。この Remote Filtering Server をインストールした時に **[External Communication Port]** フィールドに入力したポートと同じになります。

- 第 1Remote Filtering Server コンピュータの内部 IP アドレスまたはコンピュータ名を **[Internal IP or Hostname (内部 IP またはホスト名)]** フィールドに入力してください。
- **[Internal IP or Hostname]** の右側の **[Port (ポート)]** フィールドに、ネットワーク・ファイアウォールの内側からのみアクセスできる第 1Remote Filtering Server の内部通信ポートのポート番号を入力してください。この Remote Filtering Server をインストールした時に **[Internal Communication Port]** フィールドに入力したポートと同じになります。

---

 **ご注意**

Remote Filtering Client がネットワーク・ファイアウォールの内側・外側の両方で使用されるノートブック・コンピュータ上にある場合、このポートは Websense ソフトウェアがコンピュータの位置を決定し、そして適切にそれをフィルタすることを可能にします。組織のネットワーク・ファイアウォールの内側で使用される時はコンピュータは内部クライアントと同じようにフィルタされ、外部で使用される時は Remote Filtering Service によってフィルタされます。

---

6. 第 1Remote Filtering Server にフェイルオーバー保護を提供するために、オプションの第 2、第 3 の Remote Filtering Server をインストールした場合、これらのサーバのための接続情報を画面の **[Secondary Remote Filtering Server]** と **[Tertiary Remote Filtering Server]** の項に入力してください。
  7. **[Encryption and Authentication (暗号と認証)]** の項で、次の 1 つを行ってください：
    - **[Passphrase (パズフレーズ)]** を選択し、第 1Remote Filtering Server のインストール時に **[Pass Phrase]** フィールドに入力したものと同一パズフレーズを入力してください。(第 2、第 3 の Remote Filtering Server は、第 1Remote Filtering Server と同一パズフレーズである必要があります。)
- または –
- **[Encrypted Key (暗号化キー)]** を選択し、そしてパズフレーズから作成された暗号化キー (共有された秘密) と非公開の Remote Filtering Server のキーを入力してください。Remote

Filtering Server コンピュータの WSSEK.dat ファイルに暗号化キーがあります。デフォルト・インストール・パスを選択した場合、ファイルは次の位置にあります：

```
C:\Program Files\Websense\bin\WSSEK.dat
```

Windows コンピュータ

```
/opt/Websense/bin/WSSEK.dat
```

Solaris または Linux コンピュータ

8. [次へ] をクリックし続行します。
9. インストールを始めるために [インストール] をクリックします。インストーラが終了すると、手順が完了したことを通知するメッセージが表示されます。
10. [終了] をクリックし、インストーラを終了します。
11. コンピュータを再起動する必要があることを示すメッセージが表示された場合、今すぐ再起動するために [はい] をクリックします。コンピュータが再起動されるまで、リモート・フィルタリングは適切に機能しません。  
メッセージが表示されない場合、コンピュータを再起動する必要はありません。

## サードパーティ配備ツールによる Remote Filtering Client のインストール

ユーザ・ワークステーションに Remote Filtering Client を配備する前に、これらのクライアントが接続する Remote Filtering Server が別のコンピュータに正しくインストールされていることを確認してください。Windows でのインストールの説明は、[Remote Filtering Server、128 ページ](#) を参照してください。Solaris と Linux でのインストールの説明は、[Remote Filtering Server、169 ページ](#) を参照してください。

Remote Filtering Client のインストーラを入手するために、Windows コンピュータに Remote Filtering Client Pack をインストールしてください ([Remote Filtering Client Pack、136 ページ](#) の説明を参照してください)。C:\Program Files\Websense のデフォルト・インストール・パスを選択した場合、インストーラは次の場所にあります：

```
C:\Program Files\Websense\bin\  
RemoteFilteringAgentPack\NO_MSI\CPMClient.msi
```

Windows ワークステーションに Remote Filtering Client を配備するために、Microsoft Systems Management Server (SMS) または Novell

ZENworks のようなサードパーティ配備ツールとともにこのインストーラを使用してください。

### Remote Filtering Client インストールのコマンドライン・パラメータ

この項では、サードパーティ配備ツールを使って Remote Filtering Client をインストールするのに必要なコマンドライン・パラメータを提供します。

Remote Filtering Client は、組織のインターネット・ゲートウェイまたはファイアウォールの外側で使用されるユーザ・ワークステーションまたはノートブック・コンピュータにインストールされます。これらのコンピュータはインターネット・ゲートウェイまたはファイアウォールの内側に位置する Remote Filtering Server と接続できる必要があります。

各 Remote Filtering Client は、第 1 Remote Filtering Server と接続するように設定される必要があります。オプションの第 2、第 3 の Remote Filtering Server が第 1 のサーバのフェイルオーバー機能を提供するためにインストールされた場合、Remote Filtering Client は同様にこれらに接続するように設定する必要があります。Remote Filtering Client は、最初に第 1、次に第 2、次に第 3、それから再び第 1 の Remote Filtering Server に接続を試みます。

サードパーティ配備ツールで Remote Filtering Client をインストールするために必要なコマンドライン・パラメータを、下記に示します：



#### ご注意

これらのパラメータは大文字小文字を区別しません。

---

- ◆ Remote Filtering Client が第 1 Remote Filtering Server と通信できるように次のパラメータを設定する必要があります：
  - `PRIMARY_WISP_ADDRESS`=< 第 1 Remote Filtering Server の外部 IP アドレスまたは FQDN >

第 1Remote Filtering Server コンピュータの外部から見えるアドレスで、第 1Remote Filtering Server がインストールされた時に **[External IP Address or Hostname (外部 IP アドレスまたはドメイン名)]** フィールドに入力されたもの。



### 重要

この Remote Filtering Server をインストールしたとき入力したものと**同じアドレスフォーマット** (IP アドレスまたは FQDN) で同じ外部アドレスを使用する必要があります。すなわち、Remote Filtering Server をインストールしたときに **[External IP Address or Hostname (外部 IP アドレスまたはドメイン名)]** フィールドに入力した IP アドレスと同じ IP アドレスをここに入力する必要があります。完全修飾ドメイン名 (FQDN) の形式でコンピュータ名を入力した場合、ここでも同じく FQDN 形式で入力する必要があります。

- **PRIMARY\_WISP\_PORT**=<第 1Remote Filtering Server の外部ポート番号 >  
ネットワーク・ファイアウォールの外側から第 1Remote Filtering Server と通信するために使用される外部から見えるポートのポート番号。この Remote Filtering Server をインストールした時に **[External Communication Port]** フィールドに入力したポートと同じになります。
- **PRIMARY\_INTERNAL\_WISP\_ADDRESS**=< 第 1Remote Filtering Server の内部 IP アドレスまたは FQDN >  
ネットワーク・ファイアウォールの内側から見える第 1Remote Filtering Server がインストールされたコンピュータの内部アドレス。
- **PRIMARY\_INTERNAL\_WISP\_PORT**=<第 1Remote Filtering Server の内部ポート番号 >  
ネットワーク・ファイアウォールの内側からのみアクセスできる第 1Remote Filtering Server の内部通信ポートのポート番号。Remote Filtering Server をインストールした時に **[Internal Communication Port]** フィールドに入力したポートと同じになります。

- ◆ **第 2、第 3 の Remote Filtering Server がインストールされた場合、それらと通信するように設定するために次のパラメータを使用します：**
  - **SECONDARY\_WISP\_ADDRESS**=< 第 2Remote Filtering Server の外部 IP アドレスまたは FQDN >
  - **SECONDARY\_WISP\_PORT**=< 第 2Remote Filtering Server の外部ポート番号 >
  - **SECONDARY\_INTERNAL\_WISP\_ADDRESS**=< 第 2Remote Filtering Server の内部 IP アドレスまたは FQDN >
  - **SECONDARY\_INTERNAL\_WISP\_PORT**=< 第 2Remote Filtering Server の内部ポート番号 >
  - **TERTIARY\_WISP\_ADDRESS**=< 第 3Remote Filtering Server の外部 IP アドレスまたは FQDN >
  - **TERTIARY\_WISP\_PORT**=< 第 3Remote Filtering Server の外部ポート番号 >
  - **TERTIARY\_INTERNAL\_WISP\_ADDRESS**=< 第 3Remote Filtering Server の内部 IP アドレスまたは FQDN >
  - **TERTIARY\_INTERNAL\_WISP\_PORT**=< 第 3Remote Filtering Server の内部ポート番号 >

このアドレスとポート番号は、上の第 1Remote Filtering Server で説明されている Remote Filtering Server のインストール時に入力されたものと一致する必要があります。

- ◆ **PATH**=< インストール・パス >  
Remote Filtering Client がインストールされた各クライアント・ワークステーションのディレクトリ。このパラメータが指定されていない場合、デフォルト・インストール・パスは C:\PROGRAM FILES\Websense\WDC であり、WDC ディレクトリはデフォルトで“hidden”です。
- ◆ **PASSPHRASE**=< Remote Filtering Server のパスワード >  
パスワードは、第 1Remote Filtering Server がインストールされたときに入力されています。(第 1、第 2、第 3 の)同じファイルオーバー・グループのすべての Remote Filtering Server は、同じパスワードでなくてはなりません。
- ◆ **REBOOT**=YES | NO | PROMPT | IF\_NEEDED\_PROMPT

このパラメータは、Remote Filtering Client がインストールされた（またはアンインストールされた）後、クライアント・ワークステーションを自動的に再起動するかどうかを定義します。このパラメータの値は次のとおりです：

- **YES** : コンピュータは再起動されます。従業員は再起動するよう要求されません。
- **NO** : コンピュータは再起動されません。従業員は再起動するよう要求されません。
- **PROMPT** : 従業員がコンピュータを再起動するよう要求されます。
- **IF\_NEEDED\_PROMPT** : 再起動が必要な場合にのみ、従業員がコンピュータを再起動するよう要求されます。（デフォルト）



### 重要

次の場合、Remote Filtering Client をインストールした後で、ワークステーションを再起動する必要があります：

- ◆ ワークステーションのオペレーティングシステムが Windows 2000 の場合。
- ◆ ワークステーションで Check Point VPN-1 が実行している場合。

Remote Filtering Client をアンインストール、アップグレード、または修正した後は、必ずワークステーションを再起動する必要があります。

#### ◆ **REINSTALL=ALL**

Remote Filtering Client の既存のインストールを修正またはアップグレードするときだけ、このパラメータが使用されます。これは、削除し、再インストールするコンポーネントを表示します。値は、常に ALL にセットされるべきです。

#### ◆ **REINSTALLMODE=veums | voums**

Remote Filtering Client の既存のインストールを修正またはアップグレードするときだけ、このパラメータが使用されます。これは、修正またはアップグレードを定義します。利用可能な値は、次のとおりです：

- **veums** : 修正のみ

## ■ vovums : アップグレードのみ

## ◆ /qn

無表示インストール・モードに切り替えます。このオプションを使用すると、ワークステーションの従業員に情報を表示しないで Remote Filtering Client がインストールされます。/qn を使用しない場合、インストーラは対話型のモードで起動します。インストール中インストールダイアログボックスが従業員に表示されます。対話型の大量の配備はほとんど価値がないので、ほとんどの組織では無表示モードを選択します。

### インストールの書式

次のスクリプトは、サードパーティ配備ツールで Remote Filtering Client を従業員のワークステーションにインストールするための書式の例です。ネットワークに合わせて、山括弧の変数を適切な値に置き換えてください。改行がない単一行でコマンドをタイプしてください。

```
msiexec /i cpmclient.msi PASSPHRASE=<Remote Filtering  
Server のパスワード> PRIMARY_WISP_ADDRESS=< 第 1Remote  
Filtering Server の外部 IP アドレスまたは FQDN>  
PRIMARY_WISP_PORT=< 第 1Remote Filtering Server の外部ポート番  
号> PRIMARY_INTERNAL_WISP_ADDRESS=< 第 1Remote Filtering  
Server の内部 IP アドレスまたはホスト名>  
PRIMARY_INTERNAL_WISP_PORT=< 第 1Remote Filtering Server の内  
部ポート番号> REBOOT=< 再起動パラメータ> /qn
```

例えば、インストール・コマンドは次のようになるかもしれません：

```
msiexec /i cpmclient.msi PASSPHRASE=2gbatfm  
PRIMARY_WISP_ADDRESS=63.16.200.232  
PRIMARY_WISP_PORT=80  
PRIMARY_INTERNAL_WISP_ADDRESS=10.218.5.60  
PRIMARY_INTERNAL_WISP_PORT=9000  
REBOOT=IF_NEEDED_PROMPT /qn
```

第 2 または第 3 の Remote Filtering Server を使用している場合、同様にそれらのコンピュータのパラメータを入力する必要があります。

### 修正の書式

次のスクリプトは、サードパーティ配備ツールで Remote Filtering Client の既存のインストールを修正するための書式の例です。このコマンドは、改行のない単一行でタイプする必要があります。

```
msiexec /i cpmclient.msi REINSTALL=ALL  
REINSTALLMODE=veums /qn
```

インストーラが Remote Filtering Client のインストールを修正する場合、現在の設定が使用されます。リモート・フィルタリング設定を変更していない場合、追加パラメータは必要ありません。しかし、設定を変更した場合、コマンドに適切なパラメータと新しい値を含める必要があります。



#### ご注意

Remote Filtering Client を新しいバージョンにアップグレードするために必要な書式は、[サードパーティ配備ツールによる Remote Filtering Client のアップグレード](#)、58 ページを参照してください。

#### アンインストール・コマンド

次は、サードパーティ配備ツールで Remote Filtering Client をアンインストールするために使用できる実際のコマンドです。このコマンドは、改行のない単一行でタイプする必要があります。

```
msiexec.exe /x - {14D74337-01C2-4F8F-B44B-  
67FC613E5B1F} /qn
```

## Solaris および Linux の手順

本項の手順は、Solaris または Linux 上の Websense Enterprise と Web Security Suite コンポーネントのすべての個別インストールに共通です。Websense インストーラのダウンロードおよび実行はここから開始し、コンポーネント特有の手順については適切な項を参照してください。

コンポーネントを Solaris または Linux コンピュータに個別にインストールするには、以下の手順に従います：

1. ルート・ユーザとしてインストール先のコンピュータにログオンします。
2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. インストーラ・ファイル用のセットアップ・ディレクトリを作成します。

例： /root/Websense\_setup

4. Websense Enterprise または Web Security Suite のためのインストーラ・パッケージを取得してください:
  - **Web ダウンロード**: インストーラ・パッケージをダウンロードするには、[www.websense.com](http://www.websense.com) を開いて、「ダウンロード」のページへ進んでください。
    - a. お客様のご希望に合わせて、製品、ダイナミック（オンライン）・インストーラ・パッケージかフル（オフライン）・インストーラ・パッケージ、オペレーティングシステム、言語を選択してください。



#### ご注意

ダイナミック・インストーラは、インストール間にウェブ・アクセスを必要とするオンライン・インストーラです。これは、製品選択を行った後、必要な製品ファイルを必要に応じてウェブサイトからダウンロードします。

フル・インストーラは、完全なオフライン・インストーラです。これは、ダイナミック・インストーラ・パッケージよりも大きく、Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。オンライン・インストーラで問題がある場合は、このパッケージを使用してください。

- b. インストール先のコンピュータのセットアップ・ディレクトリに、選択したインストーラ・パッケージを保存してください。
  - **製品 CD**: Websense Enterprise と Web Security Suite のための、個別の製品 CD が使用可能です。製品 CD には、製品コンポーネントのインストールに必要なすべてのファイルが含まれます。お使いのオペレーティングシステムと言語に適したインストーラ・パッケージをコピーし、インストール先のコンピュータのセットアップ・ディレクトリに、保存してください。
5. セットアップ・ディレクトリで次のコマンドを使用して、ファイルを展開します:

```
gunzip <download file name>
```

```
例: gunzip Websense63Setup_Slr.tar.gz
```

6. 次のコマンドを使用して、ファイルをコンポーネントに展開します :

```
tar xvf <unzipped file name>
```

例 : `tar xvf Websense63Setup_Slr.tar`

これで、次のファイルがセットアップ・ディレクトリに置かれます :

ファイル	説明
install.sh	インストール・プログラム
Setup	インストール関連ファイルおよびドキュメントを含むアーカイブ・ファイル
マニュアル	リリースノート : リリースノートと Websense ソフトウェアに関する最新の情報を含む HTML ファイルです。このファイルは、サポートされるブラウザでご覧ください。

7. 以下のコマンドで、セットアップ・ディレクトリからインストール・プログラムを実行します :

```
./install.sh
```

GUI 版のインストーラを実行するには、次のコマンドを使用します :

```
./install.sh -g
```

英語以外のベースのシステムを使用している場合、インストーラはエラー・メッセージを表示し、GUI 版がサポートされていないことを知らせます。

8. ライセンス契約へ進み、画面上の指示に従います。
9. (Web Security Suite のみ) 製品選択を求められたときは、使用する予定の Web Security Suite のエディションを選択してください :  
インストーラは、お客様のオペレーティングシステム上で該当製品のコンポーネントをインストールする際の、インストール順序に関する情報を表示します。
10. インストールのタイプをたずねられたら[カスタム]を選択します。
11. 次の適切なコンポーネントの項へ進み、続行します。

## Websense Manager

Websense Manager は Websense ソフトウェアのための管理インターフェースで、便利なアクセスのためにネットワーク内の複数の位置に

インストールできます。Websense Manager のコンピュータは、ネットワーク上で Policy Server のコンピュータにアクセスできる必要があります。

Websense Manager を Solaris または Linux コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います。

1. [Solaris および Linux の手順、149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. カスタム・インストールを選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[Websense Manager]** を選択してください。  
インストーラがウェブ・ブラウザの位置を尋ねます。
3. オンライン・ヘルプを閲覧する際に使用するウェブ・ブラウザのフルパスを指定します。  
インストーラは、`/Manager` サブディレクトリを作成し、Websense Manager をインストールするインストール・ディレクトリのパスを提供するように求めます。
4. インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (`/opt/Websense`) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

---

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよび選択されたコンポーネント (Websense Manager) を示すサマリ・リストが表示されます。

5. [次へ] を押し、Websense Manager のインストールを開始します。
6. オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。  
Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックし続行します。
7. インストールが成功したことを知らせるメッセージが表示された場合：
  - Websense Manager をコマンドラインモードでインストールしている場合、[終了] を選択し、インストーラを終了します。
  - Websense Manager を GUI モードでインストールしている場合、[次へ] を選択して続行します。  
インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねます。選択を行い、[終了] を選択し、インストーラを終了します。
8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。



#### ご注意

Websense Manager を Solaris または Linux machine で起動するには、Websense インストール・ディレクトリの /Manager サブディレクトリに行き (デフォルトで

opt/Websense/Manager) [Enter] を押します。

```
./start_manager
```

---

## Network Agent

Network Agent は、Filtering Service とは別の Solaris または Linux コンピュータにインストールすることができます。Network Agent は、内部ネットワークから両方向のインターネット・トラフィックをモニターできなければなりません。Network Agent は、要求するワークステーションへのインターネット応答と同様、内部ネットワークからのインターネット要求を確認することができるコンピュータへインストールしてください。



### 重要

対象となるターゲットのトラフィックをモニターできないコンピュータに Network Agent をインストールすると、Protocol Management、Bandwidth Optimizer および IM Attachment Manager のような Network Agent の機能は正常に動作しません。

---

このインストールが、Network Agent の複数の配備の一部である場合（負荷分散のために）は、Network Agent の各インスタンスの IP アドレス範囲が重複しないよう注意してください。二重ロギングを引き起こす原因になります。ネットワーク全体をフィルタリングできるよう、Network Agent を配備してください。一部しか配備されていない場合、Network Agent によって監視されていないネットワーク・セグメントからのログデータが損失し、プロトコルおよび帯域幅、および基本的な HTTP フィルタリングによるフィルタリングが不完全になります。一部しか配備されていない場合、Network Agent によって監視されていないネットワーク・セグメントからのログデータが損失し、プロトコルおよび帯域幅によるフィルタリングが不完全な結果に終わります。複数の Network Agent のための IP アドレス範囲については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。Network Agent 配備の詳細情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『配備ガイド』を参照してください。

Network Agent を、ファイアウォールを実行しているコンピュータにインストールしないでください。Network Agent は、パケット・キャプチャ・ユーティリティを使用しており、ファイアウォール・コンピュータにインストールされると適切に動作しないことがあります。

Network Agent を、Filtering Service および Policy Server がすでにインストールされているコンピュータへインストールする場合は、[コンポーネントの追加](#)、[176 ページ](#)の手順を参照してください。



### 重要

Network Agent をインストールする前に、Websense Filtering Service および Policy Server がインストールされ、実行されている必要があります。または、Network Agent と同時にインストールされなければなりません。インストーラは、これらのコンポーネントの IP アドレスおよびポート番号を求め、Policy Server および Filtering Service が見つからない場合は、Network Agent をインストールしません。

1. [Solaris および Linux の手順](#)、[149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. [カスタム・インストール](#)を選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[Network Agent]**を選択します。インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

表示されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号を入力してください。

3. [ポリシー・サーバ・コンピュータの IP アドレス](#)を入力し、デフォルトと異なる場合ポート番号を入力し、**[次へ]**をクリックします。

インストーラはこのコンピュータがファイアウォールを実行しているかどうか尋ねます。続行する前に、インストール先のコンピュータがファイアウォールとして使用されていないことを確認します。



### 重要

Network Agent はファイアウォールを実行しているコンピュータでは正常に動作しません。

唯一の例外は、Network Agent とファイアウォールソフトウェアの両方を配備できるように、別々のプロセッサまたは仮想プロセッサを持つブレードサーバーまたはアプライアンスです。

4. [はい] または [いいえ] を選択し、[次へ] をクリックし続行します。

- インストール先コンピュータがファイアウォールとして使用されていない場合は、[はい] を選択します。インストールが続行します。
- [いいえ] を選択し、ファイアウォール・コンピュータに Network Agent をインストールしようとする、Setup は終了します。ファイアウォールを実行していないコンピュータに Network Agent をインストールしてください。

コンピュータ内で有効にされたすべてのネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。

5. コンピュータに複数の NIC がある場合、Network Agent がフィルタすることを希望するインターネット・トラフィックのビジビリティを持つものを選択してください。



### ご注意

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。[Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト](#)、[227 ページ](#) を参照してください。

インストーラは、Filtering Service がインストールされたコンピュータの IP アドレスおよびフィルタポート番号を尋ねます。



**ご注意**

表示されているフィルタポート (15868) は、Filtering Service をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なったポート番号を使用して Filtering Service をインストールした場合、そのポート番号を入力します。

6. Filtering Service コンピュータの IP アドレスおよびポート番号 (デフォルトと異なる場合) を入力し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラは、Websense 定義プロトコルの使用についての情報を Websense が収集することを許可するかを尋ねます。情報は、プロトコル・フィルタリングの開発に使用されます。



**ご注意**

Network Agent フィードバック・オプションが選択されているかどうかに関わらず、Network Agent は Websense に特定のユーザを識別するどんな情報も送信しません。

7. Network Agent フィードバック・オプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。

インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。

8. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (/opt/Websense) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



**重要**

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

9. **[次へ]** をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

10. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。
11. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
12. ネットワークで使用するために Network Agent を設定します。[第 5 章 : 初期設定](#) の Network Agent の初期設定の手順、および Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』の「Network Agent」の章を参照してください。

## DC Agent

DC Agent は Websense 透過的識別エージェントで、Windows ディレクトリ・サービス (NTLM ベースまたは Active Directory) を使用してユーザを認証するネットワークで使用されます。Windows または Linux の通常インストールで、DC Agent のインストールを選択できます。その際にインストールしなかった場合、または Windows ベース・ディレクトリ・サービスを介して認証する必要がある場合は、以下の手順で

Linux コンピュータに DC Agent をインストールすることができます。DC Agent は Solaris ではサポートされません。

ネットワークが大規模な場合は、DC Agent を複数のコンピュータにインストールすることが効果的です。こうすると、ユーザ情報が継続的に投入される DC Agent ファイル用に十分な容量を持つことができます。DC Agent の配備に関する追加情報は、[Websense Enterprise と Web Security Suite のコンポーネント](#)、[15 ページ](#)を参照してください。

DC Agent を Linux へインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Solaris および Linux の手順](#)、[149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. [カスタム・インストール](#)を選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[DC Agent]**を選択します。インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) が表示されます。
3. DC Agent の通信に使用するカードの IP アドレスを選択します。インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



#### ご注意

表示されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号を入力してください。

---

4. Policy Server コンピュータの IP アドレスおよびポート番号 (デフォルトと異なる場合) を入力し、**[次へ]** をクリックして続行します。インストーラは、ドメインで管理者権限を持つユーザ名およびパスワードを入力するよう求めます。ディレクトリ情報へのアクセスを提供せずに DC Agent のインストールを試みると、DC Agent はユーザを透過的に識別できません。
5. ドメインおよびユーザ名、次にドメイン管理者権限を有するアカウントのネットワーク・パスワードを入力して、**[次へ]** をクリックして続行します。

インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。

6. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (/opt/Websense) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

---

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

7. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。

8. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。

9. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
10. Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』の中の「ユーザ識別」の章の説明に従い、User Service を DC Agent と通信するように設定してください。

## Usage Monitor

Usage Monitor はユーザのインターネット利用状況を追跡し、特定の URL カテゴリまたはプロトコルのインターネット利用で設定したしきい値に達したときに警告を送信します。ネットワーク内で、各 Policy Server に対し Usage Monitor は 1 つのインスタンスしかありません。

Usage Monitor を Solaris または Linux コンピュータにインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Solaris および Linux の手順、149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタム・インストール**を選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[Usage Monitor]**を選択します。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) が表示されます。
3. Usage Monitor の通信に使用するカードの IP アドレスを選択します。  
インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

表示されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号を入力してください。

---

4. Policy Server コンピュータの IP アドレスおよびポート番号 (デフォルトと異なる場合) を入力し、**[次へ]** をクリックして続行します。

インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。

5. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (/opt/Websense) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

---

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

6. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。

7. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。

8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
9. Websense Manager で、[サーバ] > [設定] > [アラートと通知] を選択し、Usage Monitor が Usage Alert を送信するように設定します。詳細情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

## RADIUS Agent

Websense RADIUS Agent は、お使いの Websense フィルタリング・ポリシーと RADIUS サーバが提供する認証を統合します。RADIUS Agent は、ダイヤルアップ、仮想プライベート・ネットワーク (VPN)、デジタル電話加入者回線 (DSL) またはその他のリモート接続を使用してネットワークにアクセスするユーザを Websense ソフトウェアが透過的に識別することを可能にします。

RADIUS Agent を Solaris または Linux コンピュータへインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Solaris および Linux の手順](#)、[149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. カスタム・インストールを選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[RADIUS Agent]**を選択します。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) が表示されます。
3. RADIUS Agent の通信に使用するカードの IP アドレスを選択します。  
インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

表示されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号を入力してください。

---

4. Policy Server コンピュータの IP アドレスおよびポート番号(デフォルトと異なる場合)を入力し、[次へ]をクリックして続行します。  
インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。
5. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ(/opt/Websense)を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

---

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

6. [次へ]をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。

7. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。
8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
9. RADIUS Agent を設定し、RADIUS Agent のための環境の構成を設定してください。手順については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。

## eDirectory Agent

Websense eDirectory Agent は、Novell eDirectory と共に動作し、ユーザまたはグループに割り当てられた特定のポリシーに応じて Websense ソフトウェアが要求をフィルタリングできるようユーザを透過的に識別します。

eDirectory Agent を Solaris または Linux コンピュータへインストールするには、以下の手順に従います：

1. [Solaris および Linux の手順](#)、[149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタム・インストール**を選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[eDirectory Agent]**を選択します。インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



### ご注意

表示されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号を入力してください。

---

3. Policy Server コンピュータの IP アドレスおよびポート番号 (デフォルトと異なる場合) を入力し、**[次へ]**をクリックして続行します。インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) が表示されます。

4. eDirectory Agent の通信に使用するカードの IP アドレスを選択し、**[次へ]** をクリックします。  
インストーラは、Novell eDirectory の名前およびパスワードを求めます。
5. 完全識別名および有効なパスワードを入力し、**[次へ]** をクリックして続行します。  
インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。
6. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (/opt/Websense) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

---

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

7. **[次へ]** をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。

8. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。
9. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
10. Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章に従い、eDirectory Agent と Novell eDirectory を設定してください。

## Logon Agent

Logon Agent は、Websense の透過的識別エージェントで、ネットワークでユーザがクライアント・コンピュータを介して Windows ドメインにログオンする際に、それらのユーザを識別します。Logon Agent は、Windows クライアント・コンピュータ上のログオン・スクリプトによって実行される個別のアプリケーション、LogonApp.exe からログオン情報を受け取ります。ネットワーク内でこのスクリプトをセットアップするための情報は、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページ](#) を参照してください。

ネットワークに適切に認証されていないユーザがいる場合は、Logon Agent は DC Agent と共に実行されます。これは、ネットワークで Windows 98 ワークステーションを使用する場合に発生します。ユーザがインターネット要求を行う際に、DC Agent がユーザをチェックして識別することができません。

Logon Agent を Solaris または Linux コンピュータへインストールするには、以下の手順に従います：



### ご注意

LogonApp.exe は、Logon Agent にユーザ・ログオン情報を渡すクライアント・アプリケーションで、Windows クライアント・コンピュータ上でのみ動作します。

---

1. **Solaris および Linux の手順、149 ページ**の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. **カスタム・インストール**を選択すると、コンポーネント選択画面が表示されます。**[Logon Agent]**を選択します。

インストーラは、Policy Server がインストールされたコンピュータを指定するよう求めます。



#### ご注意

表示されている設定ポート (55806) は、Policy Server をインストールするためにインストーラが使用するデフォルトのポート番号です。異なるポート番号で Policy Server をインストールした場合は、そのポート番号を入力してください。

---

3. Policy Server コンピュータの IP アドレスおよびポート番号 (デフォルトと異なる場合) を入力し、**[次へ]** をクリックして続行します。  
インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されます。
4. Logon Agent の通信に使用するカードの IP アドレスを選択します。  
インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。
5. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (`/opt/Websense`) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



#### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

---

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

6. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

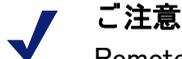
Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。

7. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。
8. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。
9. [Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページの手順に従って](#)、必要なログオン・スクリプトをセットアップしてください。
10. Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章に従い、Logon Agent がクライアント・ワークステーションおよび Filtering Service と通信するように設定してください。

## Remote Filtering Server

Remote Filtering Server は、ネットワーク・ファイアウォールの外に位置しているユーザ・ワークステーションにウェブ・フィルタリング

を提供します。Remote Filtering Server を通してフィルタされるためには、リモート・ワークステーションで Remote Filtering Client を実行している必要があります。(Remote Filtering Client のインストールの説明は、[Remote Filtering Client](#)、138 ページ を参照してください。)



#### ご注意

Remote Filtering コンポーネントを有効にするためには、リモート・フィルタリング・サービスのライセンスが必要です。

---

Remote Filtering Server は、別の専用のコンピュータにインストールします。このコンピュータは、Websense Filtering Service とネットワーク・ファイアウォールの外側のリモート・ワークステーションと通信できる必要があります。Remote Filtering Server のコンピュータは、ドメイン内にある必要はありません。

Remote Filtering Server は、組織内の最も外側のファイアウォールの内側、ただし他の社内ネットワークを保護しているファイアウォールの外側の DMZ にインストールする必要があります。Remote Filtering Server をネットワークに配備するための詳細情報は、Websense Enterprise と Web Security Suite の『[配備ガイド](#)』で、「Remote Filtering」の章を参照してください。

第 1 の Remote Filtering Server にフェイルオーバー機能を提供するために第 2、第 3 の Remote Filtering Server をインストールすることができます。各 Remote Filtering Client は、第 1、第 2、第 3 の Remote Filtering Server と接続するように設定することができます。第 1 のサーバが利用できない場合、クライアントは第 2、第 3 に接続しようと試み、それから再び第 1 に接続しようと試みます。



#### 重要

- ◆ ネットワーク内のそれぞれの Filtering Service に対して、第 1 の Remote Filtering Server を 1 つだけインストールしてください。
  - ◆ Filtering Service および Network Agent と同じコンピュータに Remote Filtering Server をインストールしないでください。
  - ◆ Remote Filtering Server コンピュータで DHCP を有効にしないでください。
-

Solaris または Linux コンピュータに Remote Filtering Server をインストールするには、次の手順に従います：

1. [Solaris および Linux の手順](#)、[149 ページ](#)の手順に従い、インストーラをダウンロードし、インストールを開始します。
2. カスタム・インストールを選択すると、インストールするコンポーネントのリストが表示されます。**[Remote Filtering Server]** を選択します。

インストール先のコンピュータがマルチホームの場合、IP アドレスを持つすべての有効なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) が表示されます。

3. Remote Filtering Server がネットワーク・ファイアウォールの内側で他の Websense コンポーネントと通信するために使用するカードの IP アドレスを選択し、**[次へ]** をクリックします。

Remote Filtering Client はインターネット・ゲートウェイまたはファイアウォールの内側および外側から Remote Filtering Server に接続できる必要があります。インストーラは、このコンピュータの接続情報を提供するように求めます。

4. **[External IP Address or Hostname (外部IPアドレスまたはホスト名)]** フィールドに、ファイアウォールの外側から見える IP アドレスまたは (完全修飾ドメイン名形式で) コンピュータ名を入力します。
5. **[External Communication Port (外部通信ポート)]** フィールドに、使用中でないネットワーク・ファイアウォールの外側からアクセス可能な (10 から 65535 までの) ポート番号を入力します。デフォルト設定は 80 です。(コンピュータにインストールされている Web サーバーがある場合は、ポート 80 は使用中かもしれません。その場合はデフォルト値を変える必要があります。)



### 重要

**[外部通信ポート]** として入力されたポートは、ファイアウォールの外側に位置するワークステーション上の Remote Filtering Client からの接続を受け入れるために、ネットワーク・ファイアウォール上でオープンされていなくてはなりません。詳細情報は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定](#)、[232 ページ](#)を参照してください。

---

6. **[内部通信ポート]** フィールドに、使用中でないネットワーク・ファイアウォールの内側からのみアクセス可能なポート番号 (1024 から 65535 まで) を入力してください。デフォルト設定は 8800 です。



### 重要

ファイアウォールの外側に位置するワークステーションから **内部通信ポート** までの接続をブロックするようにネットワーク・ファイアウォールを設定してください。詳細情報は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定](#)、[232 ページ](#)を参照してください。

---

インストーラは、Remote Filtering Server の任意の長さのパスフレーズを入力するように求めます。安全なクライアント / サーバ通信のための暗号化認証キー (共有された秘密) を作成するために、このパスフレーズは非公開キーとともに組み合わせられます。

7. **[パスフレーズ]** を選択する前に、次の要件を考慮してください:
  - すでに Client Policy Manager (CPM) をネットワークにインストールしている場合、CPM をインストールしたとき使用した同じパスフレーズを入力する必要があります。
  - 将来、ネットワークに Websense Client Policy Manager (CPM) をインストールする場合、この画面に入力した同じパスフレーズを使用する必要があります。
  - Remote Filtering Server のインストールを 第 1Remote Filtering Server のためにバックアップの (第 2 または第 3 の) サーバとして機能させる場合、第 1Remote Filtering Server をインストールしたときに使用した同じパスフレーズを入力する必要があります。
  - パスフレーズは、ASCII 文字のみを含まなくてはなりません。

- このサーバに接続する Remote Filtering Client をインストールするとき、この画面で入力したパスフレーズを使用する必要があります。Remote Filtering Server の接続情報、140 ページを参照してください。



#### 警告

後で Websense のシステムから取り出すことができないので、必ずパスフレーズを記録して安全な場所にそれを保存してください。

---

8. パスフレーズを入力し、確認してください。  
インストーラは、Websense Filtering Service がインストールされたコンピュータの情報を提供するように求めます。
9. Filtering Service コンピュータの実際の (内部) IP アドレスを入力します。  
インストーラは、Filtering Service コンピュータとこの Remote Filtering Server コンピュータ間に、ネットワークアドレス変換を行うファイアウォールまたは他のネットワーク装置があるか尋ねます。
10. [はい] または [いいえ] を入力します。
  - ▶ [はい] と入力した場合、インストーラは、このコンピュータに見える Filtering Service コンピュータの変換された (外部の) IP アドレスを尋ねます。変換された IP アドレスを入力します。
11. 15868 のデフォルト値から変更されている場合、Filtering Service コンピュータのフィルタポート番号を入力します。



#### ご注意

フィルタポートは、インストーラによって Filtering Service をインストールするために使用されるデフォルト通信ポートです。異なった通信ポートを使用して Filtering Service をインストールした場合、そのポート番号を入力します。

---

12. 15871 のデフォルト値から変更されている場合、Filtering Service コンピュータのブロック・ページのポート番号を入力します。



### 重要

Filtering Service コンピュータと Remote Filtering Server コンピュータ間にファイアウォールがある場合、そのファイアウォール上のフィルタポート (15868) およびブロック・ページ・ポート (15871) をオープンしてください。Filtering Service は Remote Filtering Server から接続を受け入れ、リモート・ユーザにブロック・ページを提供することができなければなりません。詳細情報は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定](#)、232 ページを参照してください。

インストーラがインストール・ディレクトリの位置を尋ねます。

13. Websense インストール・ディレクトリへのパスまたはデフォルト・インストール・ディレクトリ (/opt/Websense) を入力します。このディレクトリが存在していない場合は、インストーラが作成します。



### 重要

フル・インストール・パスに使用できるのは ASCII 文字のみです。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストールされるすべてのコンポーネントのサマリが表示されます。

14. [次へ] をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされていないので、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。

15. 完了を知らせるメッセージが表示されたら、インストーラを終了します。
16. ウィルス対策ソフトを停止した場合、Websense コンポーネントがインストールされた後、再度それを起動することを忘れないでください。



### 重要

Network Agent が Remote Filtering Server コンピュータに向かう(または来る)HTTP 要求をフィルタしていないことを確認してください。

Network Agent の配備に関する情報は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「Network Agent」の章を参照してください。

---

リモートフィルタリングの機能については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「Filtering Remote Client」の章を参照してください。

## インストールの修復

---

Websense コンポーネントの位置を変更する場合、または Websense のインストールを修復する場合は、修復したいコンピュータで再度インストーラを実行し、適切なオプションを選択してください。インス

トローラは Websense コンポーネントの有無を検出し、以下のインストール・オプションを提示します：

- ◆ ファイアウォール、プロキシ・サーバ、またはネットワーク・アプライアンスと統合する。

---

 **ご注意**

Stand - Alone インストールを統合システムに変換するための情報は、統合製品用の Websense インストールガイドの「アップグレード」の章を参照してください。

---

- ◆ Websense コンポーネントの追加
- ◆ Websense コンポーネントの削除
- ◆ 既存の Websense コンポーネントの修正

## コンポーネントの追加

Websense Enterprise または Web Security Suite をインストールした後に、そのコンポーネントを追加して、ネットワーク上の Websense ソフトウェアの設定を変更することができます。以下の手順では、Filtering Service、Policy Server、User Service、Usage Monitor、および Websense Manager がすでにインストールされており、追加コンポーネントが追加されるものと仮定します。リモートコンポーネントを追加する場合は、インストーラは Policy Server の位置を尋ねます。

### Windows の場合

Windows 環境で Websense コンポーネントを追加するには、以下の手順に従います：

---

 **ご注意**

新しいコンポーネントを追加する前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。そうすれば、最小限の停止時間で現在のシステムを復元することができます。

---

1. **ドメインおよびローカル管理者権限でインストール先のコンピュータへログオンします。**

これは、User Service または DC Agent を追加する場合に、それらがそのドメインで管理者権限をもつことを保証します。

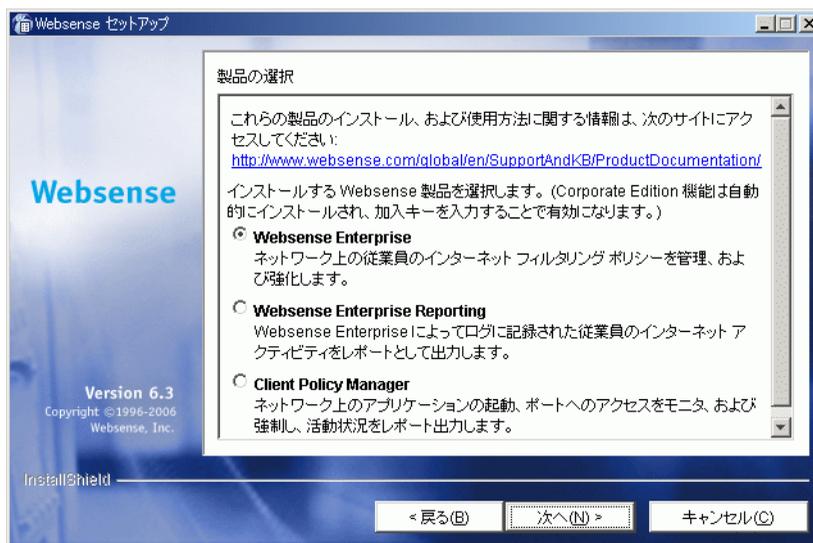


### 重要

ドメイン・コントローラからユーザログイン情報を取得するには、User Service および DC Agent は管理者権限をもつ必要があります。この情報がなければ、Websense ソフトウェアはユーザおよびグループによるフィルタリングを実行できません。これらのコンポーネントを管理者権限でインストールできない場合、インストール後に、これらのサービスにドメイン管理者権限を設定することができます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#)を参照してください。

2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. Windows Websense インストーラ・ファイルを展開したフォルダへ行き、`Setup.exe` をダブルクリックしてインストーラを起動します。
4. ウェルカム画面で **[次へ]** をクリックします。  
ダイアログボックスが表示され、インストーラがコンピュータ上で検出した Websense コンポーネントで何を実行するかをたずねてきます。
5. **[Websense コンポーネントを追加する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

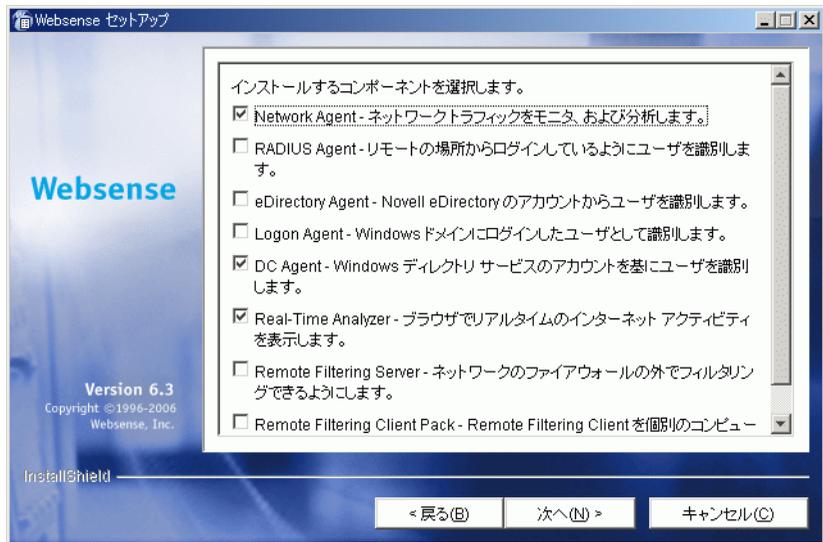
インストーラは、製品選択画面を表示します。以下の画面は Websense Enterprise インストーラです。Web Security Suite のインストーラは画面が異なります。



#### WebsenseEnterprise 製品選択

6. Websense Enterprise インストーラを実行している場合、[Websense Enterprise] を選択します。Websense Web Security Suite インストーラを実行している場合は、[Web Security Suite コンポーネント] を選択してください。
7. [次へ] をクリックし続行します。

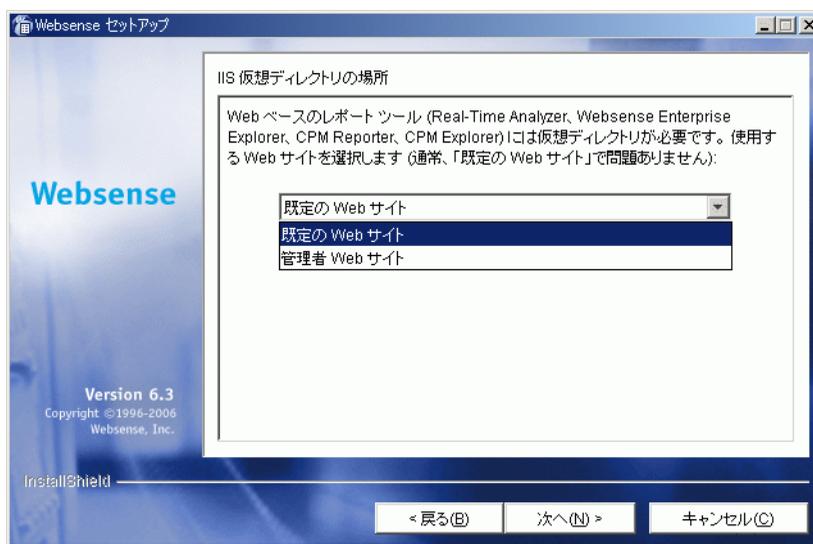
インストーラはインストール先のコンピュータに現在インストールされていないコンポーネントのリストを表示します。



#### Websense コンポーネントの選択

8. インストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。

Real-Time Analyzer をインストールし、ウェブ・サーバとして IIS を使用する場合は、IIS Manager 内のウェブサイト名を求められます。インストーラはその下に仮想ディレクトリを作成します。デフォルト値は [既定の Web サイト] で、ほとんどのインスタンスに使用可能です。



#### 仮想ディレクトリの選択

9. IIS Manager 内で既定の Web サイトの名前を変更した場合、または英語以外の言語の Windows を使用している場合は、ドロップダウンリストの名前から適切なウェブサイトを選択し、[次へ]をクリックして続行します。

Network Agent をインストールしている場合、インストーラはこのコンピュータがファイアウォールを実行しているか尋ねます。Network Agent は、ファイアウォールとして使用されているコンピュータ上では適切に機能しません。(唯一の例外は、Websense ソフトウェアとファイアウォールソフトウェアの両方を配備できるよう、別々のプロセッサまたは仮想プロセッサを持つブレードサーバーまたはアプライアンスです。)

10. [はい]または[いいえ]を選択し、[次へ]をクリックし続行します。
  - インストール先コンピュータがファイアウォールとして使用されていない場合は、[はい]を選択します。インストールが続行します。

- [いいえ] を選択し、ファイアウォール・コンピュータに Network Agent をインストールしようとする、Setup は終了します。ファイアウォールを実行していないコンピュータに Network Agent をインストールしてください。



### 重要

Network Agent がインストールされるコンピュータは、適切に機能するよう両方向の従業員インターネット・トラフィックをモニタできなければなりません。対象となるターゲットのトラフィックをモニタできないコンピュータに Network Agent をインストールすると、Protocol Management、Bandwidth Optimizer および IM Attachment Manager のような Network Agent の機能は正常に動作しません。

---

Network Agent をインストールしようとしている場合、トラフィックを取り込むために使用したいネットワーク・インタフェース・カード (NIC) を選択するよう求める画面が現われます。コンピュータ内で有効なすべてのネットワーク・インタフェース・カードがリストに表示されます。

11. コンピュータに複数の NIC がある場合、Network Agent がフィルタすることを希望するインターネット・トラフィックのビジビリティを持つものを選択してください。



### ご注意

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。[Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト](#)、[227 ページ](#) を参照してください。

---

12. [次へ] をクリックし続行します。

Network Agent をインストールしている場合、Websense 定義プロトコルの使用についての情報を Websense が収集することを許可するかを尋ねる画面が現われます。情報は、プロトコル・フィルタリングの開発に使用されます。

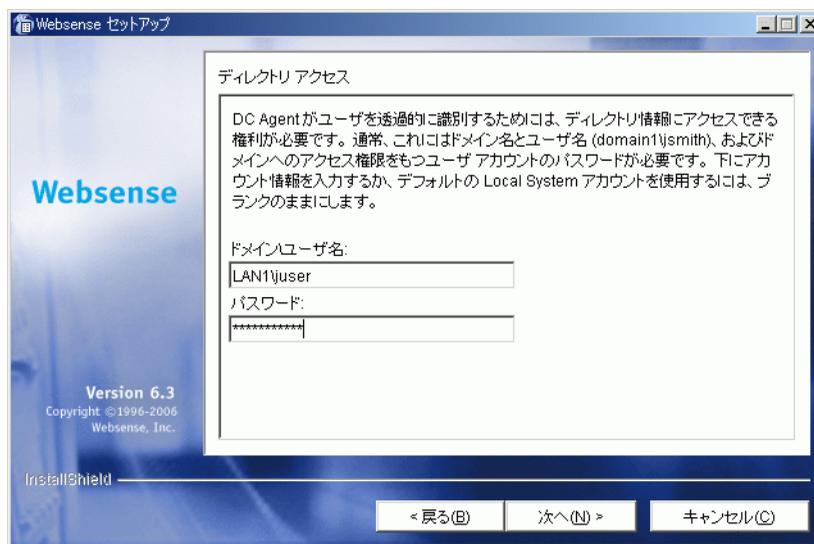


### ご注意

Network Agent フィードバック・オプションが選択されているかどうかに関わらず、Network Agent は Websense に特定のユーザを識別するどんな情報も送信しません。

13. Network Agent フィードバック・オプションを選択し、[次へ]をクリックして続行します。

DC Agent のインストールを選択した場合、ドメインで管理者権限を持つユーザ名およびパスワードを求められます。ユーザを透過的に識別するために、DC Agent はディレクトリ情報へのアクセスを必要とします。



DC Agent のディレクトリ・アクセス

14. ドメインおよびユーザ名、次にドメイン管理者権限を有するアカウントのネットワーク・パスワードを入力して、[次へ]をクリックして続行します。



#### ご注意

DC Agent を管理者権限でインストールできない場合、インストール後に、ドメイン管理者権限を設定することができます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#) を参照してください。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントをリストするサマリ画面が表示されます。

15. [次へ]をクリックして、インストールを開始します。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ]をクリックし続行します。

16. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示された場合：

- 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、Websense Language Pack インストーラが起動します。  
ウェルカム画面で[次へ]をクリックして、画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
- 英語のインストーラを選択した場合：
  - ・ Websense Manager がインストールされていない場合、[終了]をクリックし、インストーラを終了します。
  - ・ Websense Manager がインストールされた場合は、[次へ]をクリックしてください。  
インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねる画面を表示します。Manager を開始したくない場合は、チェックボックスをオフにしてください。[終了]をクリックし、インストーラを終了します。



#### ご注意

Real - Time Analyzer および他の Websense Reporting Tool にアクセスする前に、まず Websense Manager にログオンし、ユーザのパーミッションを設定しなくてはなりません。詳細情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

---

17. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

## Solaris または Linux

Solaris または Linux 環境で Websense Enterprise または Web Security Suite を追加するためには、次の手順に従います：



#### ご注意

新しいコンポーネントを追加する前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。そうすれば、最小限の停止時間で現在のシステムを復元することができます。

---

1. ルート・ユーザとしてインストール先のコンピュータにログオンします。
2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. 次のコマンドを使用して、プログラムがあるディレクトリからインストール・プログラムを実行します：

```
./install.sh
```

GUI 版のインストーラを実行するには、次のコマンドを使用します：

```
./install.sh -g
```

英語以外のベースのシステムを使用している場合、インストーラはエラー・メッセージを表示し、GUI 版がサポートされていないことを知らせます。

インストーラは現在インストールされている Websense コンポーネントを検出し、何を実行するのかを尋ねます。

4. **[Websense コンポーネントを追加する]** を選択します。  
インストーラはインストール先のコンピュータに現在インストールされていないコンポーネントのリストを表示します。
5. インストールするコンポーネントを選択し、**[次へ]** をクリックします。
6. インストールの間、以下の選択を行ってください：

- **ファイアウォールのインストールの警告** : Network Agent をインストールする場合、インストーラは Network Agent が、ファイアウォールを実行しているコンピュータ上では適切に機能しないという警告を出します。(唯一の例外は、Websense ソフトウェアとファイアウォールソフトウェアの両方を配備できるよう、別々のプロセッサまたは仮想プロセッサを持つブレードサーバまたはアプライアンスです。)

Network Agent をインストールするかどうか尋ねられたら、**[はい]** または **[いいえ]** を選択します：

- ・ インストール先コンピュータがファイアウォールとして使用されていない場合は、**[はい]** を選択します。インストールが続行します。

- ・ [いいえ] を選択し、ファイアウォール・コンピュータに Network Agent をインストールしようとする、Setup は終了します。ファイアウォールを実行していないコンピュータに、後で Network Agent をインストールしてください。



### 重要

Network Agent がインストールされるコンピュータは、適切に機能するよう両方向の従業員インターネット・トラフィックをモニタできなければなりません。対象となるターゲットのトラフィックをモニタできないコンピュータに Network Agent をインストールすると、Protocol Management、Bandwidth Optimizer および IM Attachment Manager のような Network Agent の機能は正常に動作しません。

- **ネットワーク・インタフェース・カード (NIC) の選択** : Network Agent をインストールする場合、すべての利用可能なネットワーク・インタフェース・カード (NIC) がリストに表示されません。コンピュータに複数の NIC がある場合、Network Agent のために使用するカードを選択してください。Network Agent がフィルタすることを希望するインターネット・トラフィックにこのカードがビジビリティを持っていることを確認してください。



### ご注意

インストールの後に、選択された NIC が適切なユーザ・インターネット・トラフィックを参照することができるかどうかテストする「トラフィック検証ツール」を実行することができます。[Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト](#)、[227 ページ](#) を参照してください。

- **Network Agent フィードバック** : Network Agent をインストールしている場合、インストーラが Websense 定義プロトコルの使用についての情報を Websense が収集することを許可するかを

尋ねます。情報は、プロトコル・フィルタリングの開発に使用されます。Network Agent フィードバック・オプションを選択し、続行します。



#### ご注意

Network Agent フィードバック・オプションが選択されているかどうかに関わらず、Network Agent は Websense に特定のユーザを識別するどんな情報も送信しません。

- **ディレクトリアクセス** : (Linux のみ) DC Agent をインストールする場合、インストーラはドメイン管理者権限を持つユーザ名およびパスワードを求めます。ユーザを透過的に識別するために、DC Agent は Windows ディレクトリ情報へのアクセスを必要とします。
- **システム要件チェック** : インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。
  - ・ インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
  - ・ インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。
- **インストール・サマリ** : インストール・パス、インストール・サイズおよびインストールされるコンポーネントを表示するサマリ・リストが表示されます。

7. [次へ] を押し、表示された Websense コンポーネントのインストールを開始します。

オンライン・インストーラを使用している場合、Download Manager は Websense ホームページから適切なインストーラ・ファイルをダウンロードします。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

Network Agent がインストールされなかった場合、Network Agent がインターネット・トラフィックに直接アクセスできるコンピュータにインストールされていないと、Protocol Management および Bandwidth Optimizer の機能は使用できないことを注意するメッセージが表示されます。[次へ]をクリックし続行します。

8. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示された場合：
  - 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、[次へ]をクリックして続行します。Websense Language Pack インストーラが起動します。画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
  - 英語のインストーラを選択した場合：
    - ・ Websense Manager をインストールしておらず、GUI モードでインストールしている場合、またはコマンドライン・モードでインストールしている場合、[終了]を選択し、インストーラを終了します。
    - ・ GUI モードでインストールしていて、Websense Manager をインストールしていた場合、[次へ]を選択して続行します。インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねます。選択を行い、[終了]を選択し、インストーラを終了します。
9. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

## コンポーネントの削除

Websense Enterprise または Web Security Suite またはそのコンポーネントをインストールした後に、コンポーネントを削除して、ネットワーク上の Websense ソフトウェアの設定を変更することができます。



### 重要

Websense コンポーネントをアンインストールするには、Policy Server サービスが実行されている必要があります。Policy Server を削除するには、コンピュータにインストールされたすべてのコンポーネントを削除しなければなりません。

---

## Windows の場合

Windows 環境でインストールされた Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントを削除するには、以下の手順に従います：

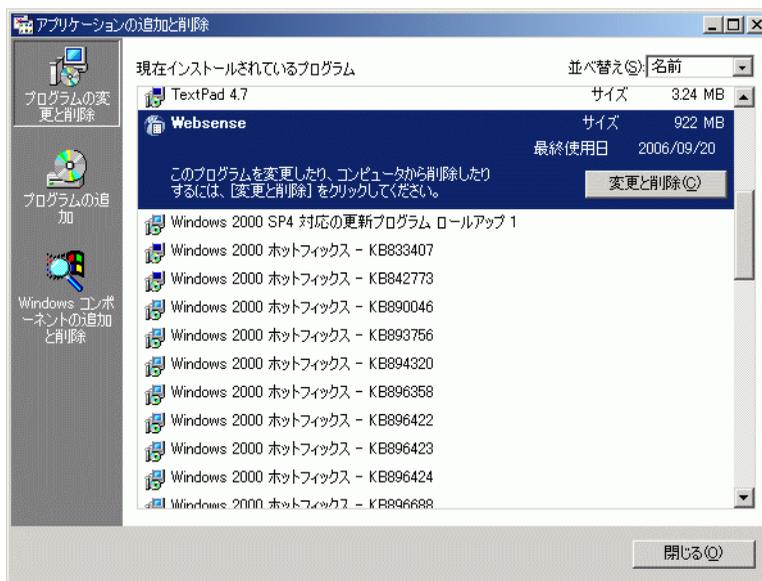


### ご注意

コンポーネントを削除する前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。

1. ローカル管理者権限でインストール先のコンピュータへログオンします。
2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. Windows の [プログラムの追加と削除] ダイアログボックスに移動します：
  - Windows Server 2003 : [スタート] > [コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] の順に選択します。
  - Windows 2000 : [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順に選択し、[プログラムの追加 / 削除] をダブルクリックします。

4. インストールされたアプリケーションのリストから [Websense] を選択します。

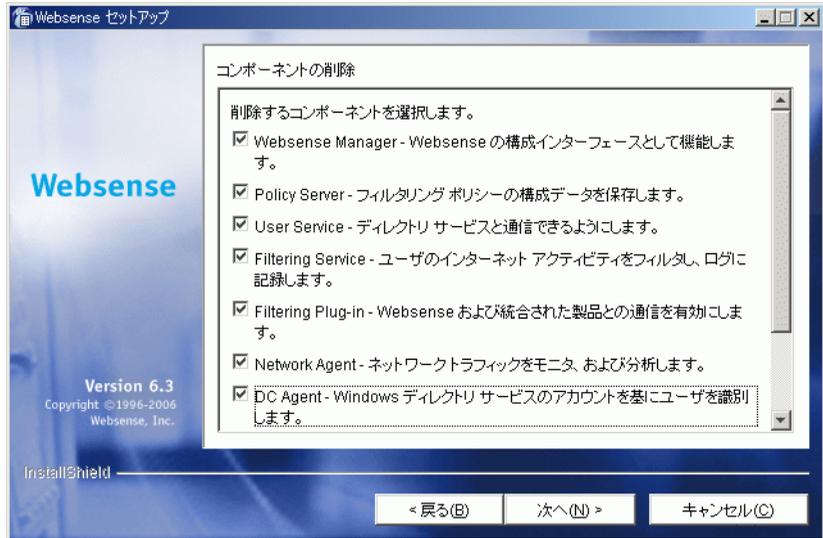


[プログラムの追加 / 削除] コントロールパネル、Windows 2000

5. [変更と削除] をクリックして、Websense アンインストーラ・プログラムを開始します。

Websense アンインストーラ・プログラムが起動するまでに数秒の遅れがあるかもしれません。

インストールされたコンポーネントのリストが表示されます。



### コンポーネントの削除

デフォルトでは、すべてのコンポーネントの削除がチェックされています。



#### 警告

Policy Server をアンインストールするには、まず、すべての Websense コンポーネントをアンインストールしてください。Policy Server の削除には、残っている Websense コンポーネントとの通信を切断し、それらのコンポーネントの再インストールが必要になります。

- コンポーネントをそのままにする場合は、その横のボックスのチェックマークを外してください。アンインストールしたいコンポーネントのすべてをチェックしたら、[次へ]をクリックし続行します。



#### ご注意

Filtering Service をアンインストールしている場合、Network Agent に関連するすべてがアンインストールされたことを確認してください。Filtering Service が削除された後、関連する Network Agent をアンインストールしようとする、インストーラは Network Agent を停止することができず、エラー・メッセージを表示します。

Policy Server を実行していない場合、Websense コンポーネントを削除するためには Policy Server との通信が必要であることを示すダイアログボックスが表示されます。インストーラを終了し、Policy Server を再起動するか、選択されたコンポーネントのアンインストールを続行することができます。



#### 警告

Policy Server が実行されていない場合、選択されたコンポーネントのファイルは削除されますが、`config.xml` ファイルに記録されたコンポーネントの情報は削除されません。この情報は、後日、これらのコンポーネントを再度追加する際に問題を引き起こす場合があります。

削除するために選択されたコンポーネントのサマリ・リストが表示されます。

- [次へ]をクリックして、コンポーネントのアンインストールを開始します。

Policy Server の削除後、リモートコンピュータ上の Network Agent をアンインストールする場合、処理に数分かかることが予測されます。進行状況の通知はありませんが、Network Agent は正常にアンインストールされます。

手順が終了すると、完了メッセージが表示されます。

- [次へ]をクリックし続行します。

アンインストール・プロセスを完了するためにコンピュータを再起動するよう指示するダイアログボックスが表示されます。

9. 再起動のオプションを選択し、[終了]をクリックし、インストーラを終了します。
10. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

## Solaris または Linux

Solaris または Linux 環境でインストールされたコンポーネントを削除するには、以下の手順に従います：



### ご注意

コンポーネントを削除する前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。

---

1. ルート・ユーザとしてインストール先のコンピュータにログオンします。
2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. Websense インストール・ディレクトリ(デフォルトは、/opt/Websense) から、次のプログラムを実行します：

```
./uninstall.sh
```

GUI 版のインストーラを実行するには、次のコマンドを使用します：

```
./uninstall.sh -g
```

英語以外のベースのシステムを使用している場合、インストーラはエラー・メッセージを表示し、GUI 版がサポートされていないことを知らせます。

インストーラは現在インストールされている Websense コンポーネントを検出し、インストールされたコンポーネントのリストを表示します。デフォルトでは、すべてのコンポーネントの削除がチェックされています。



#### 警告

Policy Server をアンインストールするには、まず、すべての Websense コンポーネントをアンインストールしてください。Policy Server の削除には、残っている Websense コンポーネントとの通信を切断し、それらのコンポーネントの再インストールが必要になります。

---

4. 削除したいコンポーネントのみが選択されていることを確認して[次へ]をクリックしてください。

- **Policy Server の状態** : Policy Server を実行していない場合、Websense コンポーネントを削除するためには Policy Server との通信が必要であることを示すダイアログボックスが表示されます。インストーラを終了し、Policy Server を再起動するか、選択されたコンポーネントのアンインストールを続行することができます。



#### 警告

Policy Server が実行されていない場合、選択されたコンポーネントのファイルは削除されますが、`config.xml` ファイルに記録されたコンポーネントの情報は削除されません。この情報は、後日、これらのコンポーネントを再度追加する際に問題を引き起こす場合があります。

---

- **サマリ・リスト** : 削除するコンポーネントのサマリ・リストが表示されます。[次へ]をクリックしてこれらのコンポーネントを削除します。
- **Network Agent** : Policy Server の削除後、リモートコンピュータ上の Network Agent をアンインストールする場合、処理に数分かかることが予測されます。進行状況の通知はありませんが、Network Agent は正常にアンインストールされます。
- **完了** : 手順が終了すると、完了メッセージが表示されます。

5. インストーラを終了します。
6. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

## インストールの修正

コンポーネントのインストールが失敗した場合、または正常に動作しない場合は、Websense インストーラを再度実行して、インストールを修正することができます。この手順は、コンポーネントの問題を解決するものではなく、欠けているファイルを差し替えるだけです。



### ご注意

分散環境の Policy Server を修正する場合、[Policy Server を修正する](#)、[201 ページ](#) の説明を参照してください。

---

## Windows の場合

Windows 環境で Websense Enterprise または Web Security Suite インストールを修正するには、次の手順に従います：



### ご注意

コンポーネントを再インストールする前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。

---

1. ドメインおよびローカル管理者権限でインストール先のコンピュータへログオンします。

これは、User Service または DC Agent を追加する場合に、それらがそのドメインで管理者権限をもつことを保証します。



### 重要

ドメイン・コントローラからユーザログイン情報を取得するには、User Service および DC Agent は管理者権限をもつ必要があります。この情報がなければ、Websense ソフトウェアはユーザおよびグループによるフィルタリングを実行できません。これらのコンポーネントを管理者権限でインストールできない場合、インストール後に、これらのサービスにドメイン管理者権限を設定することができます。手順は、[ドメイン管理者権限を設定する](#)、[230 ページ](#)を参照してください。

2. 以下のファイルを安全な場所にバックアップします：
  - config.xml
  - websense.ini
  - eimserver.ini
3. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。



### 警告

必ず Windows イベントビューア を閉じてください。そうでないと修正が失敗する場合があります。

4. Websense Enterprise または Web Security Suite のインストーラを実行します。
5. ウェルカム画面で [次へ] をクリックします。

インストーラは Websense の現在のインストールを検出し、ファイアウォール、プロキシ・サーバ、あるいはネットワーク・アプライアンスと Stand-Alone インストールを統合するか、コンポーネントを追加、削除または再インストールするかどうかを尋ねます。

インストーラは Websense の現在のインストールを検出し、コンポーネントを追加、削除または再インストールするかどうかを尋ねます。

6. **[既存の Websense コンポーネントを修正する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

インストーラは、既存の Websense コンポーネントを再インストールして、現在のインストールを修正することを知らせ、続行するかどうかを尋ねます。

7. **[はい]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。

現在実行中の Websense Service のリストが表示されます。メッセージが、インストールの前に、インストーラはこれらのサービスを停止することを説明します。

8. **[次へ]** をクリックして、インストールを開始します。

インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。

- インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
- インストール先のコンピュータに推奨されるメモリ容量以下のメモリしかない場合は、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。

インストーラが Websense Service を停止する間、進行状況メッセージが表示されます。

オンライン・インストーラでは、Websense から適切なインストーラ・ファイルがダウンロードされる際に、Download Manager のプログレスバーが表示されます。必要なファイルがダウンロードされると、インストールが自動的に開始されます。

9. Filtering Service を修正している場合、インストーラは Websense Manager を使用してすぐに Websense Master Database をダウンロードするか、後でダウンロードするかを尋ねます。データベース・ダウンロード・オプションを選択し、[次へ]をクリックします。



#### 警告

Filtering Service の修正の間に、インストーラは既存の Master Database を削除します。新しい Master Database が正常にダウンロードされ、展開され、ロードされるまで、Websense フィルタリングを再開することができません。データベースの展開とロードには数分から 30 分以上かかることがあります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバーの稼働率などによります。

今すぐ Master Database をダウンロードすることを選択した場合、プログレスバーが表示されます。データベースは、最初にインターネットを通してダウンロードされ、展開された後にローカルメモリへロードされなければなりません。データベースのダウンロードには数分から 30 分以上かかることがあります。インターネット接続性、帯域幅、時間帯、ダウンロードサーバとの位置関係などによります。データベースの展開とロードには数分から 30 分以上かかることがあります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバーの稼働率などによります。

データベースのダウンロードが完了すると、ダウンロードのステータスが表示されます。[次へ]をクリックし続行します。

10. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示された場合：
  - 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、[次へ]をクリックして続行します。Websense Language Pack インストーラが起動します。画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
  - 英語のインストーラを選択した場合：
    - ・ Websense Manager が再インストールされなかった場合、これ以上の処理は必要ありません。[終了]をクリックして、インストーラを終了します。

- ・ Websense Manager が再インストールされた場合は、[次へ]をクリックしてください。インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねる画面を表示します。Manager を開始したくない場合は、チェックボックスをオフにしてください。[終了]をクリックし、インストーラを終了します。
11. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

## Solaris または Linux

Solaris または Linux コンピュータの Websense Enterprise または Web Security Suite コンポーネントを修正するためには、次の手順に従います：



### ご注意

コンポーネントを再インストールする前に、万が一の場合に備えて完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。

1. ルート・ユーザとしてインストール先のコンピュータにログオンします。
2. すべての開いているアプリケーションを閉じ、すべてのウィルス対策ソフトを停止してください。
3. 次のコマンドを入力して、プログラムがあるディレクトリからインストール・プログラムを実行します：  

```
./install.sh
```

GUI 版のインストーラを実行するには、次のコマンドを使用します：  

```
./install.sh -g
```

英語以外のベースのシステムを使用している場合、インストーラはエラー・メッセージを表示し、GUI 版がサポートされていないことを知らせます。  
インストーラは現在インストールされている Websense コンポーネントを検出し、何を実行するのかを尋ねます。
4. [既存の Websense コンポーネントを修正する] を選択し、[次へ] をクリックします。

- **コンポーネントの修正** : インストーラが、既存の Websense コンポーネントを再インストールして、現在のインストールを修正することを知らせます。
- **Websense Service** : 現在実行中の Websense Service のリストが表示されます。メッセージが、インストールを続行する前に、インストーラはこれらのサービスを停止することを説明します。
- **ウェブ・ブラウザ** : Websense Manager を再インストールする場合、インストーラがブラウザの位置を尋ねます。
- **システム要件チェック** : インストーラは、選択したインストールのシステム要件とインストール先コンピュータのリソースを比較します。コンピュータのディスク容量やメモリが不十分な場合は、個別の警告が表示されます。
  - ・ インストール先のコンピュータに十分なディスク容量がない場合は、選択されたコンポーネントをインストールできず、インストーラは終了します。
  - ・ インストール先のコンピュータが推奨されるメモリ容量より少ない場合、インストールは続行されます。インストールするコンポーネントの最適パフォーマンスを確保するには、コンピュータのメモリを推奨されるメモリ容量にアップグレードしてください。
- **サービスの再起動** : ファイルが再インストールされた後、Websense サービスが再起動します。
- **Master Database のダウンロード** : Filtering Service を修正している場合、インストーラは Websense Manager を使用してすぐに Websense Master Database をダウンロードするか、後でダウンロードするかを尋ねます。データベース・ダウンロード・オプションを選択し、[次へ] を押し、続行します。



### 警告

Filtering Service の修正の間に、インストーラは既存の Master Database を削除します。新しい Master Database が正常にダウンロードされ、展開され、ロードされるまで、Websense フィルタリングを再開することができません。インターネット接続性、帯域幅、使用可能なメモリ、空き容量などによって、これには数分から 60 分以上かかることがあります。

---

今すぐ Master Database をダウンロードすることを選択した場合、ダウンロードが開始されます。データベースは、最初にインターネットを通してダウンロードされ、展開された後にローカルメモリへロードされなければなりません。データベースのダウンロードには数分から 30 分以上かかることがあります。インターネット接続性、帯域幅、時間帯、ダウンロードサーバーとの位置関係などによります。データベースの展開とロードには数分から 30 分以上かかることがあります。使用可能なメモリ、空き容量、サーバーの稼働率などによります。

データベースのダウンロードが完了すると、ダウンロードのステータスが表示されます。[次へ]をクリックし続行します。

5. インストールが成功し、完了したことを知らせるメッセージが表示された場合：
  - 非英語バージョンのインストーラを選択した場合は、[次へ]をクリックして続行します。Websense Language Pack インストーラが起動します。画面上の指示に従って Websense コンポーネントを更新してください。テキストは選択した言語で表示されます。
  - 英語のインストーラを選択した場合：
    - ・ GUI モードでインストールしていて、Websense Manager を修正していた場合、[次へ]を選択して続行します。インストーラは、Websense Manager を開始するかどうかをたずねます。選択を行い、[終了]を選択し、インストーラを終了します。
    - ・ [終了]をクリックし、インストーラを終了します。
6. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。

## Policy Server を修正する

---

分散環境では、Policy Server の修正（再インストール）が必要な場合があります。再インストールが正常に行われな限り、別のコンピュータにインストールされたコンポーネントとの通信は切断されます。

Policy Server を再インストールし、分散コンポーネント間の接続を保持するには、以下の手順に従います :



#### ご注意

コンポーネントを再インストールする前に、万が一の場合に備えて 完全なシステム・バックアップを実行することを推奨します。

1. Policy Server を停止します。手順は、[Websense Service の停止と起動、203 ページ](#) を参照してください。
2. config.xml ファイルのバックアップを作成し、安全な場所に保存します。



#### ご注意

システム障害やハードウェアの問題により、現在の設定ファイルのバックアップ・コピーを作成できない場合、共有ネットワークドライブに保存されたファイルの最新のバックアップを使用し、システムを復旧できます。

3. Policy Server を再起動します。
4. 個々のコンピュータの分散された Websense コンポーネントのサービスを停止します。手順は、[Websense Service の停止と起動、203 ページ](#) を参照してください。
5. Policy Server コンピュータ上ですべてのアプリケーションを閉じ、すべてのウイルス対策ソフトを停止してください。
6. Policy Server コンピュータ上で、Websense インストーラを実行します。  
インストーラはインストールされている Websense コンポーネントを検出し、何を実行するのかを尋ねます。
7. 指示されたら、**[既存の Websense コンポーネントを修正する]** を選択します。  
詳細な手順は、[インストールの修正、195 ページ](#) を参照してください。

8. インストーラによるシステムの再インストールが終了したら、インストーラを終了し新たにインストールされた Policy Server を停止します。
9. 修正処理によって作成された `config.xml` ファイルを、バックアップ・コピーに置き換えます。
10. Policy Server を再起動します。
11. ウィルス対策ソフトを停止した場合、必ず再度それを起動してください。
12. 他のコンピュータ上にある Websense コンポーネントのサービスを再起動します。
13. Websense Manager を使用して Websense Master Database を再ロードします。

## Websense Service の停止と起動

---

デフォルトでは、Websense Service はコンピュータの起動時に自動的に起動するよう設定されています。

Websense Service を停止または起動する必要がある場合があります。例えば、`websense.ini` ファイルを編集する場合、およびデフォルトのブロック・メッセージをカスタマイズした後は、Filtering Service を停止しなければなりません。



### ご注意

Filtering Service が起動される際に、Websense Master Database がローカル・メモリにロードされる数分間、CPU 使用率が 90% 以上になることがあります。

## サービスの手動停止

特定の Websense コンポーネントは、定められた順序で停止および起動してください。オプションのコンポーネントは、任意の順序で停止および起動することができます。

## オプションのコンポーネント

以下の Websense Service は任意の順序で、手動で起動および停止することができます。

- ◆ eDirectory
- ◆ RADIUS Agent
- ◆ DC Agent
- ◆ Real-Time Analyzer
- ◆ Logon Agent
- ◆ Usage Monitor
- ◆ Remote Filtering Server

## 主要コンポーネント

以下のコンポーネントは、指定された順序で停止してください。このリストにあるコンポーネントを停止する前に、必ず、オプションのコンポーネントを起動または停止してください。

1. Network Agent
2. Filtering Service
3. User Service
4. Policy Server

Websense Service を再起動する場合は、順序は逆になり、Policy Server を最初に起動します。

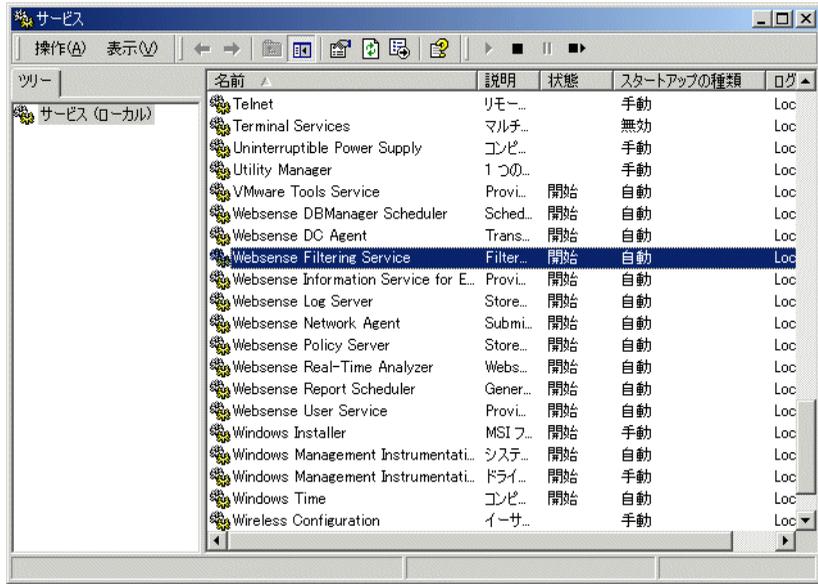
## Windows の場合

[サービス] ダイアログボックスを使用し、Websense Service を停止、起動または再起動します。再起動によってサービスは停止され、1 つのコマンドですぐにサービスが再起動されます。

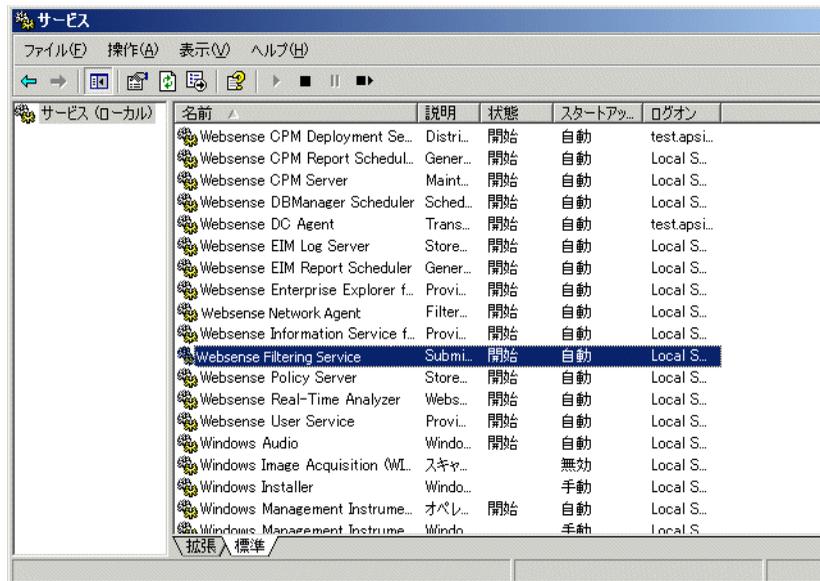
Windows コンピュータで Websense Service を停止または起動するには、以下の手順に従います：

1. [コントロールパネル]から、[管理ツール]>[サービス]を選択します。

2. 使用可能なサービスのリストを下にスクロールし、Websense Service を選択します。



Windows 2000 のサービスリスト



Windows サーバー 2003 のサービスリスト

3. [操作]メニューから、[開始]、[停止]または[再起動]を選択するか、ツールバーのコントロールボタンの1つをクリックします([停止]、[開始]または[再起動])。再起動によってサービスは停止され、1つのコマンドですぐにサービスが再起動されます。



### 警告

Websense サービスを停止するために、taskkill コマンドを使用しないでください。サーバに障害が発生する恐れがあります。

## Solaris および Linux

Solaris または Linux コンピュータ上でコマンドラインから Websense Service を停止、起動または再起動することができます。再起動によってサービスは停止され、1つのコマンドですぐにサービスが再起動されます。

1. /Websense ディレクトリへ移動します。

2. すべての Websense サービスを停止、起動、再起動するために次のコマンドを正しい順序で使用してください：
  - `./WebsenseAdmin stop`
  - `./WebsenseAdmin start`
  - `./WebsenseAdmin restart`
3. 以下のコマンドで、すべての Websense Service の実行ステータスを確認します：  
`./WebsenseAdmin status`



### 警告

Websense サービスを停止するために、`kill -9` コマンドを使用しないでください。サーバに障害が発生する恐れがあります。

---



# 初期設定

本章では、Stand-Alone 製品で Websense ソフトウェアのフィルタリングの準備のための初期設定および設定手順を提供します。

Websense ソフトウェアのインストール後、設定プロセスを完了するため以下の作業を実行してください。

- ◆ インストール中に Websense Master Database をダウンロードしなかった場合、Websense Manager と Websense ライセンスキーを使用してデータベースをダウンロードします。手順は、[ライセンスキーと Master Database のダウンロード、210 ページ](#) を参照してください。
- ◆ Filtering Service がマルチホーム・コンピュータにインストールされている場合は、ネットワーク内の IP アドレスで Filtering Service を指定してください。Websense ブロック・メッセージがユーザに送信されるようになります。手順は、[ブロック・ページ URL のために Filtering Service を指定する、215 ページ](#) を参照してください。
- ◆ フィルタリングされるすべての Windows ワークステーションで、プロトコル・ブロック・メッセージを受信できるように Messenger Service を有効にしてください。手順は、[プロトコル・ブロック・メッセージの表示、217 ページ](#) を参照してください。
- ◆ Logon Agent をインストールした場合、Windows ドメインにログオンする際に、ユーザを識別するユーザ用のログオン・スクリプトを作成しなければなりません。手順は、[Logon Agent のスクリプトを作成および実行する、218 ページ](#) を参照してください。
- ◆ Network Agent が複数のネットワーク・インタフェース・カード (NIC) をもつコンピュータにインストールされている場合、Network Agent を 1 つ以上の NIC を使うように設定することができます。[Network Agent を複数の NIC を使用するように設定する、226 ページ](#) を参照してください。
- ◆ モニタしたいユーザ・インターネット・トラフィックを Network Agent が参照することができるかテストするために、「トラフィック検証ツール」を使用します。[Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト、227 ページ](#) を参照してください。

- ◆ Windows コンピュータ上にインストール中に、User Service または DC Agent にドメイン管理者権限を与えることができなかった場合、それらが正確に動作するために今それを行ってください。[ドメイン管理者権限を設定する、230 ページ](#) を参照してください。
- ◆ ファイアウォールまたはインターネット・ルーターを適切に設定してください。手順は、[ファイアウォールまたはルータを設定する、231 ページ](#) を参照してください。
- ◆ Websense Web Security Suite をインストールした場合、Websense Web Protection Services™ (SiteWatcher™、BrandWatcher™、ThreatWatcher™) のライセンスを有効にしてください。手順は、[Websense Web Protection Services の有効化、231 ページ](#) を参照してください。
- ◆ オプションの Remote Filtering コンポーネントがインストールされている場合、リモート・ユーザが正確にフィルタされるように、ファイアウォールを設定する必要があります。手順は、[Remote Filtering のファイアウォールの設定、232 ページ](#) を参照してください。
- ◆ オプションのリモート・フィルタリング機能を使用している場合、Remote Filtering Service が利用できないとき、リモート・ユーザからのインターネットアクセス要求を処理する方法を設定することができます。手順は、[Remote Filtering が利用できないとき、リモート・ユーザのインターネット・アクセスをブロックする、234 ページ](#) を参照してください。
- ◆ オプションのリモート・フィルタリング機能を使用している場合、Remote Filtering Client のログ・ファイルのサイズを設定することができます。手順は、[Remote Filtering Client Log の設定、236 ページ](#) を参照してください。

追加の Websense 設定情報については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

## ライセンスキーと Master Database のダウンロード

---

Websense Master Database は、フィルタリングの基準であり、デフォルト設定で毎日更新されます。最新版を使用できるように、リモート・データベース・サーバからダウンロードされます。

データベースのダウンロードが発生するため、Websense Filtering Service を実行しているコンピュータは、次の URL のダウンロード・

サ Stand-Alone Edition サーバにインターネット接続できる必要があります。

- ◆ download.websense.com
- ◆ ddsdom.websense.com
- ◆ ddsint.websense.com
- ◆ portal.websense.com
- ◆ my.websense.com

これらのアドレスが、Filtering Service コンピュータがアクセスできる URL を管理するファイアウォール、プロキシ・サーバ、ルータまたはホスト・ファイルによって許可されていることを確認してください。

インストール中に Master Database をダウンロードするためのライセンスキーを入力しなかった場合、以下の手順に従いキーを入力し、ただちに Master Database をダウンロードしてください。



#### ご注意

Websense ソフトウェアをアップグレードした場合、ライセンスキーはインストーラに保持されているためこれらの手順は必要ありません。

Master Database をダウンロードするには、以下の手順に従います：

1. Websense Manager がインストールされているコンピュータで Websense Manager を実行します。
  - **Windows 2000** : [ スタート ] > [ プログラム ] > [ Websense ] > [ Websense Manager ] の順に選択します。または、デスクトップで Websense Manager アイコンをダブルクリックします。
  - **Windows 2003** : [ スタート ] > [ すべてのプログラム ] > [ Websense ] > [ Websense Manager ] の順に選択します。または、デスクトップで Websense Manager アイコンをダブルクリックします。
  - **Solaris または Linux** : Websense インストール・ディレクトリ (デフォルトで、opt/Websense/Manager) の /Manager サブ・ディレクトリに移動し、次を入力します：  

```
./start_manager
```

2. 初回のインストールで Policy Server が Websense Manager と一緒にインストールされなかった場合、Websense Manager を最初に開く時に **[Policy Server の追加]** ダイアログボックスが表示します。
  - a. Policy Server をインストールしたコンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名、およびインストール時に確立された設定ポート (デフォルトは 55806) を入力します。
  - b. **[OK]** をクリックします。Policy Server の IP アドレスまたはコンピュータ名が Manager のナビゲーションペインのサーバ・アイコンの横に表示されます。
3. ナビゲーションペインの Policy Server のアイコンをダブルクリックします。

最初のインストール時に、**[Websense パスワードの設定]** ダイアログボックスが表示されます。
4. Policy Server 用のパスワード (4 ~ 25 文字) を設定します。



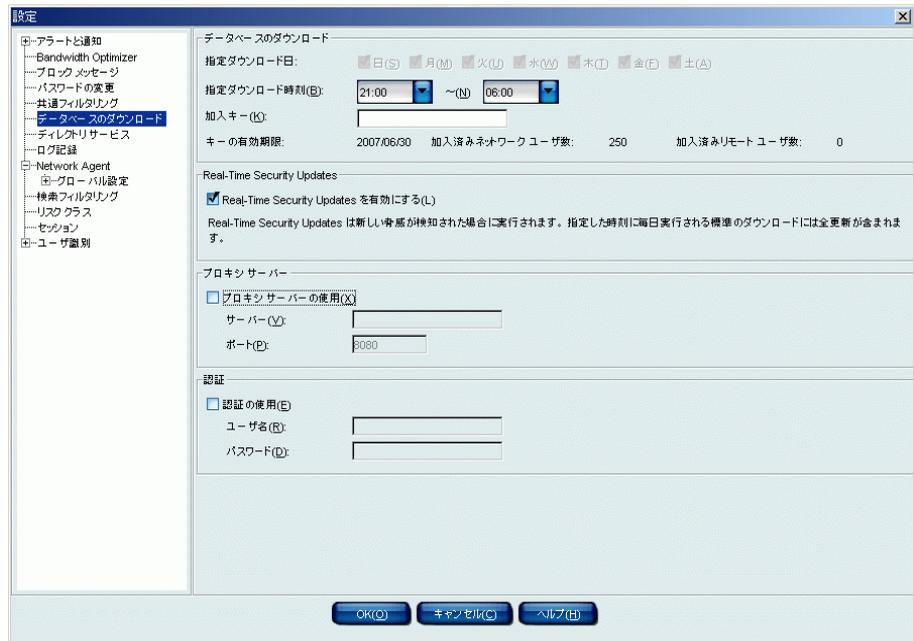
#### ご注意

このパスワードを覚えていてください。このパスワードは、任意の Websense Manager から Policy Server に接続する時とレポートング・ツールのウェブ・インタフェースにログオンする時に入力してください。

---

5. **[OK]** をクリックします。
  - まだ加入キーまたは評価キーを入力していない場合、**[設定]** ダイアログボックスは、**[データベースのダウンロード]** ペインを表示した状態で現われます。

- インストール中にキーを入力した場合、[サーバー]>[設定]>[データベースのダウンロード]を選択し、[データベースのダウンロード]設定ペインに移動します。



### データベース・ダウンロードの設定

6. [加入キー]フィールドに英数字のキーを入力します。

データベースが正常にダウンロードされるまで、[加入済みネットワークユーザ数]と[加入済みリモートユーザ数]フィールドは 0 の値を示します。



#### ご注意

Websense Manager を Linux 上で実行している場合、[加入キー]フィールドで加入キーを入力することができない場合があります。この場合、[設定]ダイアログボックスの外側のどこかをクリックし、次にキーを入力してください。

7. インターネットにアクセスするために、ブラウザがアップストリーム・プロキシ・サーバを使用する必要があるネットワークの場合、Websense Master Database をダウンロードするためにブラウザが使用するプロキシ設定と同じ設定を使用します。次のように、データベースをダウンロードするためのプロキシ設定を行います:
  - a. **[プロキシ サーバーの使用]** を選択します。
  - b. コンピュータの IP アドレスまたはコンピュータ名を **[サーバー]** フィールドに入力し、アップストリーム・プロキシ・サーバまたはファイアウォールを指定します。  
サポートされるコンピュータ名のフォーマットは以下のとおりです:
    - ・ **Windows** : 7 ビット ASCII および UTF-8 文字。DNS サーバは UTF-8 文字を認識でき、名前を IP アドレスへ変換できる必要があります。拡張 ASCII または 2 バイト文字を含むコンピュータ名は使用しないでください。
    - ・ **Solaris または Linux** : 7 ビット ASCII のみ



#### ご注意

Websense ソフトウェアをネットワークのプロキシ・サーバにインストールする場合は、プロキシ設定にその IP アドレスを入力しないでください。代わりに、localhost を使用してください。

---

- c. アップストリーム・プロキシ・サーバまたはファイアウォールの **[ポート]** を入力します (デフォルト : 8080)。
8. インターネットに接続し、Websense Master Database をダウンロードするために、プロキシ・サーバやアップストリーム・ファイアウォールへの認証を必要とするネットワークでは、以下の手順に従います:
    - a. **[認証の使用]** をチェックします。
    - b. アップストリームのプロキシ・サーバまたはファイアウォールがクリアテキストまたは基本認証を受け入れるよう設定します (Master Database をダウンロードできるように)。
    - c. Master Database をダウンロードするために、アップストリーム・プロキシ・サーバまたはファイアウォールが要求する **[ユーザ名]** を入力します。

- d. アップストリーム・プロキシ・サーバまたはファイアウォールが要求する [パスワード] を入力します。
9. [OK] をクリックし、変更を保存します。

Websense Filtering Service は、自動的に Websense データベース・サーバと通信し、Master Database のダウンロードを開始します。ダウンロードの状況が [データベースのダウンロード] ダイアログボックスに表示されます。

最初にライセンスキーを入力する際に、次のウェブサイトが表示されます：

[www.my.websense.com](http://www.my.websense.com)

MyWebsense ウェブサイトは、Websense ソフトウェアの特定のバージョン、オペレーティングシステム、および統合製品用にカスタマイズされた技術サポートへのアクセスを提供します。セットアップ・プロセスを完了するためには、このサイトは必要ではありません。

10. データベースのダウンロードが完了したら、[データベースのダウンロード] ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。



#### ご注意

Master Database のダウンロード後、または Master Database の更新、および Filtering Service が起動される際に、データベースがローカル・メモリにロードされる数分間、CPU 使用率が 90% 以上になることがあります。

手動で Websense Master Database をダウンロードする場合は、Websense Manager から [サーバー] > [データベースのダウンロード] と選択します。

## ブロック・ページ URL のために Filtering Service を指定する

Filtering Service がマルチホーム・コンピュータ（複数のネットワーク・インタフェース・カードがある）にインストールされる場合は、Websense ブロック・メッセージがユーザに送信されるよう、ネットワーク内で IP アドレスを使用して Filtering Service を指定してください。

Websense ソフトウェアがインターネット要求をブロックすると、デフォルト設定により、ユーザのブラウザには Filtering Service がホストするブロック・メッセージページが表示されます。ブロック・ページ URL の形式は、通常次のとおりです：

```
http://<WebsenseServerIPAddress>:<MessagePort>/cgi-bin/  
blockpage.cgi?ws-session=#####
```

IP アドレスではなく、Filtering Service のコンピュータ名がブロック・ページ URL に含まれる場合、サイトがブロックされた理由を示すブロック・メッセージの代わりに空白のページが表示されます。

ブロック・ページが正確にユーザ・ワークステーションに表示されるために、IP アドレスで Filtering Service を指定してください：

- ◆ 内部 DNS サーバがある場合は、DNS サーバのリソース・レコードとして IP アドレスを入力し、Filtering Service コンピュータの名前を適切な（通常、内部）IP アドレスと関連付けます。手順については、DNS サーバ・マニュアルを参照してください。
- ◆ 内部 DNS がない場合は、次の手順に従い、eimserver.ini ファイルにエントリを追加します：

1. Filtering Service コンピュータ上で、Websense インストール・ディレクトリの \bin フォルダに移動します（デフォルト Websense\bin）。
2. eimserver.ini ファイルをテキストエディタで開きます。
3. [WebsenseServer] エリアで、空白行に次のコマンドを入力します：

```
BlockMsgServerName=<IP address>
```

ここで、<IP address> は、Filtering Service を実行するコンピュータの正しい（通常、内部）IP アドレスです。



### 重要

ループバック・アドレス 127.0.0.1 は、使用しないでください。

---

4. ファイルを保存します。
5. Filtering Service を停止し、再起動します ([Websense Service の停止と起動](#)、203 ページを参照してください)。

## プロトコル・ブロック・メッセージの表示

Websense ソフトウェアは、プロトコル・ブロック・メッセージがユーザ・ワークステーションで表示されるよう設定されているか否かに関わらず、通常、プロトコル要求をフィルタリングします。

プロトコル・ブロック・メッセージは、次のワークステーション・オペレーティングシステムでは表示できません。

- ◆ Solaris
- ◆ Linux
- ◆ Macintosh



### ご注意

Windows XP Service Pack 2 は、次の条件下でのみプロトコル・ブロック・メッセージを表示します：

- ◆ ファイアウォール機能が無効にされている。
- ◆ Windows Messenger サービスが起動されている。

Windows NT、Windows 2000 および Windows Server 2003 でプロトコル・ブロック・メッセージをユーザに表示するには、次の手順に従います：

- ◆ User Service が管理者権限を有することを確認します。Windows Service の権限の変更手順については、お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
- ◆ フィルタリングされる各クライアント・ワークステーションで、Messenger Service が有効になっていることを確認します。Websense プロトコル・マネージメントを有効にしている場合、Messenger Service が実行しているかを確認するために Windows サービス・ダイアログボックスをチェックしてください。会社方針により、Messenger Service を無効にしなければならない場合、プロトコルの中には通知なしにブロックされるものがあることをユーザに伝えておく必要があります。

Windows 98 コンピュータでプロトコル・ブロック・メッセージを表示するには、ローカル・ドライブの Windows ディレクトリにある `winpopup.exe` を起動する必要があります。このアプリケーションは、コマンド・プロンプトから起動するか、Startup フォルダにコ

ピーして自動的に起動するよう設定することができます。手順については、お使いのオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

## Logon Agent のスクリプトを作成および実行する

---

Websense Logon Agent をインストールした場合、Windows ドメインにログオンする際に、ユーザを識別するユーザ用のログオン・スクリプトを作成しなければなりません。識別は、Windows クライアント・コンピュータが Active Directory または Windows NTLM ディレクトリ・サービスに接続する度に、Logon Agent にユーザ名と IP アドレスを提供する Websense の LogonApp.exe アプリケーションによって実行されます。

### ログオン・スクリプトを実行するための必要条件

Websense ログオン・スクリプトが Windows ユーザ・ワークステーションで適切に実行されるよう、次のネットワークの準備を行ってください：

- ◆ すべてのワークステーションが、ログオン・スクリプトおよび LogonApp.exe が置かれたドメイン・コントローラの共有ドライブに接続できることを確認してください。ワークステーションがドメイン・コントローラにアクセスできるかどうかを判断するには、Windows コマンド・プロンプトから次のコマンドを実行します：

```
net view /domain:<domain name>
```
- ◆ TCP/IP の NetBIOS が有効でなければなりません。Windows 98 では、TCP/IP NetBIOS はデフォルト設定で有効になっています。
- ◆ TCP/IP NetBIOS Helper サービスは、Logon Agent によって識別される各クライアント・コンピュータで実行されていなければなりません。このサービスは、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 および Windows NT® 上で実行されています。

### ファイルの位置

すべての関連ファイルは、Logon Agent コンピュータ上の Websense\bin フォルダにあります：

- ◆ LogonApp.exe : Logon Agent にユーザ情報を送信する Websense 実行可能ファイル。

- ◆ Logon.bat：サンプルのログオンおよびログアウト・スクリプトを含むバッチファイル。
- ◆ LogonApp\_ReadMe.txt：Websense ログオン・スクリプトおよびオプションのログアウト・スクリプトを作成・実行するための手順の概要。

## 配備作業

ログオン・スクリプトを使用して LogonApp.exe を配備するには、次の作業を実行してください：

**Task 1: ログオン・スクリプトの準備**：ニーズに応じて、サンプル・スクリプト・ファイル (Logon.bat) でパラメータを編集します。このファイルは 2 つのサンプル・スクリプトを含みます：ログオン・スクリプトとログアウト・スクリプト。Active Directory では、スクリプトの両方のタイプを使用できます。この 2 種類を使用する場合は、異なる名前の個別の .bat ファイルが必要です。

**Task 2: スクリプトの実行の設定**：グループ・ポリシーを使用する Active Directory または Windows NTLM ディレクトリ・サービスからログオン・スクリプトを実行することができます。その場合、Websense 実行ファイルおよびログオン・バッチファイルを、すべてのユーザ・ワークステーションが確認できるドメイン・コントローラ上の共有ドライブへ移動させてください。Active Directory を使用している場合、共有ドライブ上にオプションのログアウト・バッチファイルを作成・配備することができます。

## ログオン・スクリプトを準備する

Logon.bat と呼ばれるバッチファイルは、Logon Agent と共に Websense\bin フォルダへインストールされます。このファイルは、スクリプト・パラメータの使用法の説明と 2 つのサンプル・スクリプトを含みます。LogonApp.exe を実行するログオン・スクリプト、およびユーザのログアウト時に Websense のユーザマップからユーザ情報を削除する Active Directory のためのログアウト・スクリプトです。

## スクリプト・パラメータ

用意されたサンプルを使用し、次の表にあるパラメータを使用するユーザ用のスクリプトを作成してください。スクリプトの必要な部分は、以下のとおりです：

```
LogonApp.exe http://<server>:<port>
```

このコマンドは、永続モード（デフォルト）で LogonApp.exe を実行し、ユーザ情報をあらかじめ定義された間隔で Logon Agent に送ります。



### ご注意

サンプルを編集するか、単一コマンドを含む新規バッチファイルを作成することができます。

パラメータ	説明
<server>	Websense Logon Agent を実行するコンピュータの IP アドレスおよび名前。これは、Websense Manager で Logon Agent を設定した時に入力したコンピュータアドレスまたはコンピュータ名と一致する必要があります。
<port>	Logon Agent によって使用されるポート番号。Websense Manager で Logon Agent を設定したときにデフォルト・ポート番号を使用した場合、15880 と入力してください。
/NOPERSIST	<p>ログオン時のみ、LogonApp.exe がユーザ情報を Logon Agent に送信するようにします。ログオン時にユーザ名と IP アドレスがサーバに伝えられ、ユーザ・データが事前に定められた時間間隔で自動的にクリアされるまで Websense ユーザマップの中に残ります。デフォルトの間隔は 24 時間です。</p> <p>NOPERSIST パラメータがない場合、LogonApp.exe は永続モードで動作します。永続モードでは、LogonApp.exe はドメイン・サーバのメモリ上にあり、事前に定義された間隔でユーザ名と IP アドレスで Logon Agent を更新します。デフォルトの間隔は 15 分です。</p> <p>Websense Manager で Logon Agent を設定するための情報は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。</p>

パラメータ	説明
/COPY	LogonApp.exe アプリケーションをユーザ・コンピュータへコピーします。このアプリケーションは、ローカル・メモリ上からログオン・スクリプトによって実行されず、ログオン・スクリプトでハングする場合、このオプション・パラメータが役立ちます。アプリケーションは %USERPROFILE%\Local Settings\Temp フォルダにコピーされます。コピーは、永続モードでのみ使用できません。
/VERBOSE	テクニカル・サポートの指示でのみ使用されるデバッグ・パラメータ。
/LOGOUT	(オプションのログアウト・スクリプトでのみ使用されず。) ユーザがログオフする際に、Websense ユーザマップからログオン情報を削除します。Active Directory を使用している場合、Logon Agent で定義された間隔が経過する前にユーザマップからログオン情報をクリアするために、このパラメータを使用できます。ログオン・スクリプトを含むものと異なるバッチファイルのログアウト・スクリプトの中で、このオプションのパラメータを使用してください。下のスクリプトの例を参照してください。

## Websense ユーザマップおよび持続モード

LogonApp.exe によってログオン時に提供されるユーザ識別は、Websense ユーザマップに保存されます。LogonApp.exe が永続モードで実行される場合、この情報は定期的に更新されます。永続モードの更新間隔およびユーザマップからログオン情報が自動的にクリアされる間隔は、Websense Manager の [設定] ダイアログボックス、[Logon Agent] タブで設定されます。Manager で定義された間隔の前に Websense ユーザマップからログオン情報をクリアする場合、Active Directory では、それに付随するログアウト・スクリプトを作成することができます。Windows NTLM では、ログアウト・スクリプトは設定できません。

非永続モードでは、ユーザマップ内の情報はログオン時に作成され、更新されません。非永続モードを使用すると、Websense ソフトウェアとネットワーク内のワークステーション間のトラフィックが持続モードを使用する場合よりも小さくなります。

Websense Manager で Logon Agent を設定するための詳細情報は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章を参照してください。

## 例

次に、ログオン・スクリプトのコマンド例、および Active Directory で実行される付随するログアウト・スクリプト例を示します。2つのスクリプトは、個別のバッチファイルから実行されなければなりません。

- ◆ **ログオン・スクリプト** : この例では、編集された Logon.bat ファイルは この1つのコマンドを含みます :

```
LogonApp.exe http://10.2.2.95:15880 /NOPERSIST
```

上記のサンプル・スクリプトは、ログオン時のみにユーザ情報を Logon Agent に送ります。ユーザセッション間、情報は更新されません (NOPERSIST)。情報は、IP アドレス 10.2.2.95 のサーバ・コンピュータ上のポート 15880 に送られます。

Active Directory では、ユーザがログアウトするとすぐにユーザのログオン情報をクリアするオプションがあります。(この選択肢は Windows NTLM では利用できません。) このためには、異なったバッチファイルに付随するログアウト・スクリプトを作成します。

- ◆ **ログアウト・スクリプト** : 例に続けて、ログオン・バッチファイルをコピーして、それを Logout.bat とリネームしてください。その後、ここで示すように Logout.bat のスクリプトを編集してください :

```
LogonApp.exe http://10.2.2.95:15880 /NOPERSIST /LOGOUT
```

## ログオン・スクリプトの実行を設定する

Active Directory または Windows NTLM ディレクトリ・サービスでグループ・ポリシーを使用して、ログオン・スクリプトを実行するように設定することができます。



### ご注意

次の手順は、Microsoft オペレーティングシステム特有のものであり、特別にここに提供しています。Websense, Inc. は、これらの手順またはこれらを使用するオペレーティングシステムの変更に対して、一切の責任を負いません。詳細については、提供されているリンクを参照してください。

## Active Directory

ネットワークが Windows 98 クライアント・コンピュータを使用している場合、不明な点については Microsoft ウェブサイトを参照してください。

Active Directory を使用するログオン・スクリプト（およびオプションのログアウト・スクリプト）を設定するためには、次の手順に従います：

1. お使いの環境が、**ログオン・スクリプトを実行するための必要条件**、[218 ページ](#) で説明された条件を満たしていることを確認してください。
2. Active Directory コンピュータで、Windows の [コントロールパネル] に進み、[管理ツール] > [Active Directory ユーザーとコンピュータ] を選択します。
3. ドメインを右クリックし、[プロパティ] を選択します。  
ドメイン [プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [グループ ポリシー] タブを選択します。
5. [新規作成] をクリックし、**Websense Logon Script** と呼ばれるポリシーを作成してください。
6. 新しいポリシーをダブルクリックするか、[編集] をクリックしポリシーを編集してください。  
[グループ ポリシー オブジェクト エディタ] ダイアログボックスが表示されます。
7. 表示されたツリーで、[ユーザーの構成] を展開します。
8. [Windows の設定] を展開します。
9. [スクリプト (ログオン / ログオフ)] を選択します。
10. 右ペインで、[ログオン] をダブルクリックします。
11. 表示された [ログオン プロパティ] ダイアログボックスで、[ファイルの表示] をクリックし、このポリシーのログオン・スクリプト・フォルダを開きます。  
Windows Explorer のウィンドウで、フォルダが開きます。
12. 2 つのファイルをこのフォルダにコピーしてください：編集されたログオン・バッチファイル (Logon.bat) とアプリケーション (LogonApp.exe)。

13. Explorer ウィンドウを閉じ、[ログオン プロパティ] ダイアログボックスで、[追加] をクリックしてください。  
[スクリプトの追加] ダイアログボックスが表示されます。
14. [スクリプト名] フィールドにログオン・バッチファイル (Logon.bat) のファイル名を入力するか、ファイルを参照します。
15. [スクリプトのパラメータ] フィールドは空欄のままにしてください。
16. [OK] を 2 回クリックして、変更を適用します。
17. (オプション) ログアウト・スクリプトを準備している場合、手順 7 から 手順 16 を繰り返してください。手順 10 で [ログオフ] を選択し、バッチファイルをコピーするか名前を指定するよう要求された時には、お客様のログアウト・バッチファイルを使用してください。
18. [グループ ポリシー オブジェクト エディタ] ダイアログボックスを閉じます。
19. ドメインの [プロパティ] で [OK] をクリックして、スクリプトを適用します。
20. 必要に応じて、ネットワークの各ドメイン・コントローラでこの手順を繰り返します。



#### ご注意

Websense ソフトウェアを手動認証に設定することによって、スクリプトが目的どおりに実行されているかどうかを判断することができます。Logon Agent での透過的認証が何らかの理由で失敗する場合、ユーザはユーザ名およびパスワードを求められます。この問題が発生する場合、連絡するようユーザに通知してください。手動認証を有効にする方法は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』の中の「ユーザ識別」の章の説明を参照してください。

---

ログオン・スクリプトを、Active Directory のユーザおよびグループへ配備するための追加情報は、以下を参照してください：

<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/f/?en/library/84b5457b-1641-4707-a1f4-887b5f9471dd1033.mspx>

## Windows NTLM

Windows NTLM で Websense ログオン・スクリプトを設定するには、以下の手順に従います :

1. お使いの環境が、**ログオン・スクリプトを実行するための必要条件**、**218 ページ**で説明された条件を満たしていることを確認してください。
2. Logon Agent コンピュータの Websense\bin フォルダから、Logon.bat および LogonApp.exe ファイルを、ドメイン・コントローラ・コンピュータの netlogon 共有ディレクトリにコピーします。  
C:\WINNT\system32\Repl\Import\Scripts  
設定に応じて、すべてのユーザがスクリプトを実行するために、ネットワークのその他のドメイン・コントローラにそれらのファイルをコピーする必要がある場合があります。
3. ドメイン・コントローラの[コントロールパネル]で、[管理ツール] > [ドメイン ユーザー マネージャ] を選択します。
4. スクリプトを実行する必要があるユーザを選択し、ダブルクリックしてユーザプロパティを編集します。  
[ユーザー プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
5. [プロファイル] をクリックします。  
[ユーザー環境プロファイル] ダイアログボックスが表示されます。
6. [ユーザ プロファイル パス] フィールドに、ログオン・バッチファイルへのパスを入力します (**手順 2** から)。
7. [ログオン スクリプト名] フィールドに、ログオン・バッチファイル (Logon.bat) の名前を入力します。
8. [OK] をクリックします。

9. 必要に応じて、ネットワークの各ドメイン・コントローラでこの手順を繰り返します。



#### ご注意

Websense ソフトウェアを手動認証に設定することによって、スクリプトが目的どおりに実行されているかどうかを判断することができます。Logon Agent での透過的認証が何らかの理由で失敗する場合、ユーザはユーザ名およびパスワードを求められます。この問題が発生する場合、連絡するようユーザに通知してください。手動認証を有効にする方法は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「ユーザ識別」の章の説明を参照してください。

Windows NTLM のユーザへ、ログオン・スクリプトを作成・配備するための追加情報は、下記を参照してください：

<http://windows.about.com/library/weekly/aa031200a.htm>

## Network Agent を複数の NIC を使用するように設定する

---

それぞれの Network Agent のインスタンスは、少なくとも指定された NIC の 1 つを使用しなくてはなりません。しかし、Network Agent は複数の NIC を使用することもできます。複数の NIC を持つコンピュータに Network Agent をインストールした場合、異なった目的のために異なった NIC を使用するように設定することができます。例えば、1 つの NIC をトラフィックをモニタするために、もう 1 つを Filtering Service にブロック情報を送るために使用するように Network Agent を設定することができます。

追加の NIC を使用するように Network Agent を設定する方法は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「Network Agent」の章の説明を参照してください。

## Network Agent に対するインターネット・トラフィック検証テスト

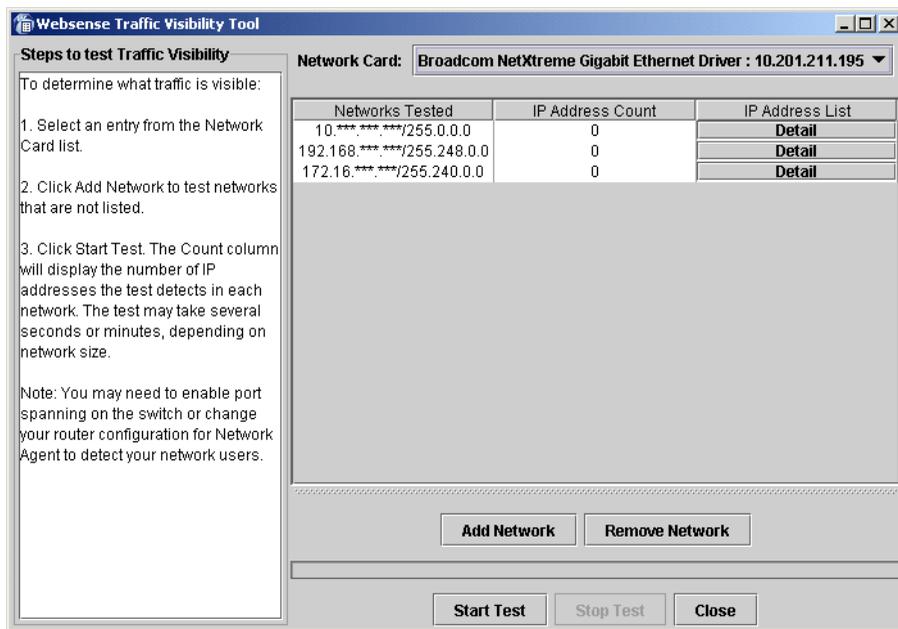
Network Agent が要求するネットワークからのインターネット要求をモニタし、応答を参照する能力について疑いがある場合は、「Websense トラフィック検証ツール」を使用して Network Agent コンピュータ上でトラフィック検証テストを行うことができます。

### Websense トラフィック検証ツールの実行

インターネット・トラフィック・ビジビリティのテストを行うためには、「Websense トラフィック検証ツール」を Network Agent コンピュータ上で実行します。Network Agent が使用するよう設定されている NIC は、Network Agent が適切にフィルタするよう両方向の従業員インターネット・トラフィックをモニタできなければなりません。

1. ツールを起動するには、以下の手順を行います。
  - **Windows** : [スタート]メニューから、[プログラム] (または、[すべてのプログラム]) > [Websense] > [Utilities (ユーティリティ)] > [Traffic Visibility Tool (トラフィック検証ツール)] を選択します。
  - **Linux または Solaris** : インストール・ディレクトリ (/opt/Websense) から `./TrafficVisibility.sh` を実行します。

Websense トラフィック検証ツールが表示されます。



トラフィック検証ツール

フィールド	説明
Network Card (ネットワークカード)	テストされるネットワーク・インターフェース・カード (NIC) の名称。インストール先のコンピュータの有効なカードがこのリストに表示されます。IP アドレスを持たないカードはリストに表示されません。
Networks Tested (テストされるネットワーク)	テストされるネットマスクを表示します。用意されたデフォルトを使用するか、新たに追加することができます。これらのネットマスクは、フィルタされる IP アドレス範囲に応じて異なるネットワーク・セグメントに属することができます。
IP Address Count (IP アドレスカウント)	ネットワークのテスト中に検出されたトラフィックの IP アドレスの数。

フィールド	説明
IP Address List Detail (IP アドレスリストの詳細)	インターネット・トラフィックが検出されているネットワーク内の IP アドレスをリストします。

2. **[Network Card (ネットワークカード)]** のドロップダウンリストから、Network Agent に設定したいネットワーク・インタフェース・カード (NIC) を選択します。

テストするネットワークのデフォルト・リスト (ネットマスク) が表示されます。用意されたデフォルトを使用するか、新たに追加することができます。これらのネットマスクは、フィルタされる IP アドレス範囲に応じて異なるネットワーク・セグメントに属することができます。

3. NIC を使用してテストしたいネットワークがデフォルト・リストに表示されない場合は、**[Add Network (ネットワークの追加)]** をクリックします。

**[Add Network (ネットワークの追加)]** ダイアログボックスが表示されます。

- a. **[Network ID (ネットワーク ID)]** フィールドに新しいネットマスク値を入力します。

サブネットマスクがデフォルトの 255.0.0.0 に設定され、ネットマスクが定義される度に合わせて変更されます。

- b. **[OK]** をクリックし、Websense Traffic Visibility Tool のダイアログボックスに戻ります。

新しいネットワークがリストに表示されます。

4. **[Remove Network (ネットワークの削除)]** を選択し、リストからネットワークを削除します。
5. **[Start Test (テストの開始)]** をクリックして、リスト内の全ネットワークのテストを開始します。

**[IP Address Count (IP アドレスカウント)]** 欄のカウンタは、リストされたネットワークから直ちにインターネット・トラフィックの記録を開始するはずで、通過するパケットで

NIC が対象となるネットワークから個々の IP アドレスを検出するごとに増加します。ダイアログボックス下部のアクティビティ・バーは、テストが実行中であることを示します。

ネットワークのカウンタがゼロのままになっている場合、または非常に低い場合は、選択された NIC はモニタされるべきトラフィックを検出できていません。

6. Network Agent の NIC が希望するトラフィックを参照することができない場合は、以下の作業のいずれか、または両方を実行します。
  - インストール先のコンピュータに複数の NIC がある場合は、異なるカードを選択しテストします。カードが希望するトラフィックを参照することができる場合、Network Agent がこのカードを使用するように設定します。手順については、Websense Enterprise と Web Security Suite の『管理者用ガイド』で「Network Agent」の章を参照してください。
  - NIC が希望するトラフィックを参照できるよう、ネットワーク構成の問題を解決します。これは、異なるルータへの接続またはスイッチ環境でのポートスパンニングの設定を伴う場合があります。配備に関する情報は、[第 2 章 : Network の設定](#) を参照してください。必要な変更を行い、NIC を再度テストしてください。
7. テストを完了する時は、[Stop Test (テストを中止する)] をクリックします。
8. Traffic Visibility Tool を終了するためには、[Close (閉じる)] をクリックします。

Network Agent の NIC は、すべてのターゲットのインターネット・トラフィックをモニタする必要があります。Network Agent が必要なトラフィックを確認できない場合は、ネットワーク内にコンピュータを再配置するか、Network Agent をインストールする別のコンピュータを選択します。

## ドメイン管理者権限を設定する

---

Windows コンピュータにインストール中に User Service または DC Agent にドメイン管理者権限を与えることができなかった場合、ディレクトリ・サービス情報にアクセスできるように、これらのサービスのプロパティを編集することができます。この手順は、お使いの Windows のバージョンに依存して、多少異なるかもしれません。

1. [コントロールパネル]から、[管理ツール]>[サービス]を選択します。
2. [サービス]ダイアログボックスで、[Websense DC Agent] をダブルクリックします。
3. [プロパティ]ダイアログボックスで、[ログオン]タブを選択します。
4. [アカウント]を選択し、ネットワークのドメイン管理者権限をもつアカウントの有効なドメイン/ユーザ名とパスワードを登録します。
5. [OK] をクリックします。
6. **Websense User Service** でも、この手順を繰り返します。

## ファイアウォールまたはルータを設定する

Websense Manager のインターネット接続がプロキシ・サーバまたはファイアウォールを通した HTTP トラフィックの認証を必要とする場合、プロキシまたはファイアウォールが Websense Master Database のダウンロードを可能にするためにクリアテキストまたは基本認証を許可するように設定する必要があります。

## Websense Web Protection Services™ の有効化

Websense® Web Protection Services™ — SiteWatcher™, BrandWatcher™, and ThreatWatcher™ — は、組織のウェブサイト、ブランドおよび Web サーバを保護します。Web Security Suite のライセンスを購入した場合、これらのサービスが含まれ、これらを有効にする必要があります。

ThreatWatcher、SiteWatcher および BrandWatcher を起動するには、次の手順に従います：

1. [www.my.websense.com](http://www.my.websense.com) に移動し、ログインし、Web Security Suite ライセンスキーを入力します。
2. My Websense のメインページ上で、Websense Security Labs ボックスに移動します。
3. 順番にサービスの横の各リンクをクリックし、スクリーン上の説明に従います。

次の項は、Web Protection Services のそれぞれの短い解説を提供しています。詳細は、[www.websense.com](http://www.websense.com) を参照してください。

## SiteWatcher™

組織のウェブサイトが悪意のあるモバイル・コードに感染したとき、SiteWatcher は警告を発します。SiteWatcher は、ウェブサイトを訪問する顧客、顧客候補、パートナーへの拡散を防御するための即時の行動を可能にします。

## BrandWatcher™

組織のウェブサイトまたはブランドがフィッシングまたは悪意のあるキーロギング・コード攻撃の標的にされたとき、BrandWatcher は警告します。BrandWatcher は、インターネット・セキュリティ情報、攻撃の詳細、および他のセキュリティ関連の情報を提供します。従って、顧客に通知し、すべての公報活動への影響を最小にする行動をとることができます。

## ThreatWatcher™

ThreatWatcher は、組織の Web サーバに “hacker 1 s-eye” ビューを提供し、定期的に既知の脆弱性および潜在的な脅威をスキャンし、Web ベース・ポータルを介してリスクレベルと推奨される行動をレポートします。ThreatWatcher は、Web サーバに対する悪意のある攻撃に対する事前防御を支援します。

## Remote Filtering のファイアウォールの設定

---

Remote Filtering は、組織のネットワーク・ファイアウォールの外側に位置しているユーザ・ワークステーションをフィルタすることを可能にするオプションの Websense サービスです。Remote Filtering コンポーネントをインストールした場合、リモート・ワークステーション上でウェブ・フィルタリングを可能にするためにいくつかのファイアウォールの設定が必要です。Remote Filtering Server がリモート・ワークステーションおよび Filtering Service と通信できるように、ファイアウォールを設定しなければなりません。

## Remote Filtering Server と Remote User Workstation 間の通信を有効にする

外部ネットワーク・ファイアウォールおよび Remote Filtering Server コンピュータとリモート・ワークステーションの間に位置するすべての追加されたファイアウォールを、次のように設定します：

- ◆ ネットワーク・ファイアウォールの外側に位置するワークステーション上の Remote Filtering Client からの接続を受け入れる Remote Filtering Server のファイアウォール上の**外部通信ポート**をオープンします。デフォルトで、ポート 80 です (Remote Filtering Server のインストールの間に変更されなかった場合)。
- ◆ ネットワーク・ファイアウォールの外側に位置するワークステーションからの Remote Filtering Server の**内部通信ポート**への接続をブロックしてください。デフォルトで、ポート 8800 です (Remote Filtering Server のインストールの間に変更されなかった場合)。

ファイアウォール設定作業を完了するための情報は、ファイアウォール製品のマニュアルを参照してください。

## Remote Filtering Server と Filtering Service 間の通信を有効にする

Remote Filtering Server コンピュータと Filtering Service 間にファイアウォールがある場合、次のように設定してください：

- ◆ Remote Filtering Server からの接続を受け入れるために、このファイアウォール上の Filtering Service の**フィルタポート** (デフォルトで、15868) をオープンします。
- ◆ Filtering Service がリモート・ユーザにブロック・ページを提供することを可能にするために、このファイアウォール上の Filtering Service の**ブロックページ用ポート** (デフォルトで、15871) をオープンします。

ファイアウォール設定作業を完了するための情報は、ファイアウォール製品のマニュアルを参照してください。

## Remote Filtering が利用できないとき、リモート・ユーザのインターネット・アクセスをブロックする

オプションの Websense リモート・フィルタリング機能を使用している場合、Remote Filtering Server と接続することができないときに、リモート・ユーザのインターネット・アクセスをブロックするように設定できます。また、リモート・ユーザのコンピュータ上の Remote Filtering Client がフェイル・クローズし、すべてのウェブサイトへのアクセスをブロックするまで、Remote Filtering Server に接続を試みる時間の長さを設定することができます。

この動作はリモート・フィルタリング・サーバ・コンピュータ上の `securewispproxy.ini` ファイルで、次の 2 つのパラメータによって制御されます：

- ◆ **FailClose** : Remote Filtering Server との接続が失われるとき、FailClose パラメータは Remote Filtering Client がフェイル・オープンするか、フェイル・クローズするかを指定します。false に設定すると、フェイル・オープンし、すべての HTTP トラフィックが許可されます。true に設定すると、フェイル・クローズし、すべての HTTP トラフィックがブロックされます。デフォルト値は false です (フェイル・オープン)。
- ◆ **FailCloseTimeout** : Remote Filtering Client がフェイル・クローズ (FailClose=true) に設定されているときだけ、FailCloseTimeout パラメータは適用されます。Remote Filtering Client がフェイル・クローズし、すべての HTTP トラフィックをブロックするまで、Remote Filtering Server と接続を試みる時間の長さ (分単位) を、FailCloseTimeout で指定します。この時間の間は、すべての HTTP トラフィックが許可されます。デフォルト値は 15 です。0 から 60 まで整数で設定できます。0 は、タイムアウトを無効にします。その他の値が入力されたら、15 分のデフォルト値になります。

Remote Filtering Server との接続を確立できない場合、リモート・ユーザのインターネット・アクセスをブロックするようパラメータを設定するには、次の手順に従います：

1. Remote Filtering Server コンピュータ上で、Websense インストール・ディレクトリの bin サブディレクトリで、`securewispproxy.ini` ファイルを探します。このファイルのデフォルト位置は、次の通りです：
  - Windows : `\Program Files\Websense\bin`
  - Linux および Solaris : `/opt/Websense/bin`
2. テキストエディタで、`securewispproxy.ini` ファイルを開きます。
3. `FailClose` パラメータの値を、`true` に変更します。
4. `FailCloseTimeout` をデフォルト値の 15 に設定したままなら、Remote Filtering Client はフェイル・クローズし、すべての HTTP トラフィックをブロックするまで 15 分間、Remote Filtering Server と接続を試みます。
  - 接続を試みる時間の長さを変更するには、`FailCloseTimeout` の値を 1 から 60 までの整数で変更します。
  - タイムアウトを無効にするには、`FailCloseTimeout` の値を 0 に変更します。Remote Filtering Client は 接続を確立しようとし続けます。
5. 変更を保存します。
6. Remote Filtering Server の再起動  
手順は、[Websense Service の停止と起動](#)、[203 ページ](#) を参照してください。

新しい設定は Remote Filtering Server と接続するすべての Remote Filtering Client に適用されます。



#### ご注意

ネットワークで Websense Client Policy Manager (CPM) を使用している場合、リモート・フィルタリング・パラメータは Websense Manager のデスクトップ・タブに配置されます。CPM Server がある場合、`securewispproxy.ini` ファイルの `FailClose` と `FailCloseTimeout` パラメータに設定した値は無視されます。

CPM を使用している場合にリモート・フィルタリング機能を設定するための情報は、Websense Client Policy Manager のマニュアルを参照してください。

## Remote Filtering Client Log の設定

オプションの Websense Remote Filtering 機能を使用している場合、ユーザ・ワークステーション上にインストールされた各 Remote Filtering Client はローカルなログファイルに次のイベントを記録します :

- ◆ Remote Filtering Client
  - ネットワーク上に存在していた状態で、アクティブになった時
  - ネットワークにアクセスした後で、非アクティブになった時
  - 再起動した時
  - フェイル・オープンした時
  - フェイル・クローズした時
  - ポリシー更新を受信した時

Remote Filtering Server コンピュータ上の `securewispproxy.ini` ファイルで `LocalLogSize` パラメータを編集することで、ローカルなログ・ファイルの最大サイズを変更できます。

`LocalLogSize` パラメータは、ログ・ファイルの最大サイズを MB 単位で定義しています。最大ファイル・サイズに達したら、ログ・ファイル名は現在の日時でタイムスタンプされ保存されます。最大 2 つのログ・ファイルが残されます。3 番目のログが起動したら、最も古いログは削除されます。`LocalLogSize` のデフォルト値は 1 です。0 から 10 までの整数で設定できます。0 は、ログを停止します。

Remote Filtering Client のローカルなログ・ファイルの最大サイズを変更するには、次の手順に従います :

1. Remote Filtering Server コンピュータ上で、Websense インストール・ディレクトリの `bin` サブディレクトリで、`securewispproxy.ini` ファイルを探します。このファイルのデフォルト位置は、次の通りです :
  - Windows : `\Program Files\Websense\bin`
  - Linux および Solaris : `/opt/Websense/bin`
2. テキストエディタで、`securewispproxy.ini` ファイルを開きます。
3. 0 から 10 までの整数で、`LocalLogSize` パラメータの値を変更します。この整数は、MB 単位でログの最大サイズを定義します。0 は、ログを停止します。

4. 変更を保存します。
5. Remote Filtering Server の再起動 手順は、[Websense Service の停止と起動](#)、[203 ページ](#) を参照してください。

ログの新しい最大サイズの設定は Remote Filtering Server と接続するすべての Remote Filtering Client に適用されます。



#### ご注意

ネットワークで Websense Client Policy Manager (CPM) を使用している場合、リモート・フィルタリング・パラメータは Websense Manager のデスクトップ・タブに配置されます。CPM Server がある場合、`securewispproxy.ini` ファイルの `LocalLogSize` パラメータに設定した値は無視されます。

CPM を使用している場合にリモート・フィルタリング機能を設定するための情報は、Websense Client Policy Manager マニュアルを参照してください。



# ステルスモード

場合によっては、Network Agent をステルスモード (stealth mode) に設定されたネットワーク・インタフェース・カード (NIC) でパケットを検査するよう設定することが好ましいことがあります。ステルスモードの NIC には IP アドレスがないため、通信には使用できません。このタイプの設定の利点は、安全性とネットワーク・パフォーマンスです。IP アドレスを削除すると、外部からのインタフェースへの接続が防げ、不要なブロードキャストを停止します。

## ステルスモードの設定

---

Network Agent をステルスモード NIC 用に設定する場合は、インストール先のコンピュータはマルチホームでなければなりません。Network Agent のリモート・インストールでは、TCP/IP 対応インタフェースはフィルタリングおよびロギングのために中央の Websense ソフトウェアと通信するよう設定されなければなりません。

ステルスモード NIC は、通常 Network Agent のインストール中に表示されます。ステルスモード NIC のトラフィック検証テストを実施し、インターネット・トラフィックのモニタに使用する Network Agent 用にその NIC を選択することができます。Windows にインストールする場合は、ステルスモードのインタフェースは Websense 通信の選択としては表示されません。



### 重要

Solaris および Linux では、ステルスモード NIC は TCP/IP 対応インタフェースと共に現れますが、通信用には選択しないでください。

インストールを試みる前に、コンピュータのすべてのインタフェースの設定を把握しておいてください。

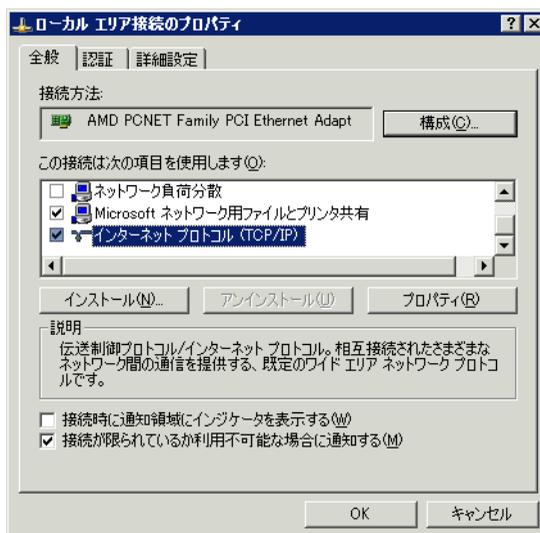
## Windows

Network Agent インタフェース用のステルスモードは、Windows でサポートされます。

ステルスモードの NIC を設定するには、以下の手順に従います：

1. [スタート]メニューから、[設定]>[ネットワーク接続]を選択します。  
コンピュータでアクティブなインタフェースのリストが表示されます。
2. 設定したいインタフェースを選択します。
3. [ファイル]>[プロパティ]を選択するか、右クリックでポップアップメニューから[プロパティ]を選択します。

ダイアログボックスが表示され、選択されたインタフェースの接続プロパティが表示されます。



### インタフェースの接続プロパティ

4. [インターネット プロトコル (TCP/IP)] のチェックボックスをオフにします。
5. [OK] をクリックします。

## Solaris または Linux

Solaris または Linux で NIC をステルスモードに設定するには、Address Resolution Protocol (ARP) を無効にしなければなりません。これは、インタフェースの IP アドレスおよび MAC アドレス間のリンクを切断します。

### Solaris

- ◆ NIC をステルスモードに設定する場合は、コマンド・プロンプトから以下を実行します：

```
ifconfig <interface> plumb -arp up
```

- ◆ NIC をノーマルモードに戻す場合は、コマンド・プロンプトから以下を実行します：

```
ifconfig <interface> plumb -arp up
```

### Linux

- ◆ NIC をステルスモードに設定する場合は、コマンド・プロンプトから以下を実行します：

```
ifconfig <interface> -arp up
```

- ◆ NIC をノーマルモードに戻す場合は、コマンド・プロンプトから以下を実行します：

```
ifconfig <interface> -arp up
```



#### 重要

インタフェースが Solaris または Linux システムの設定ファイルに古い IP アドレスを保持する場合にはのみ、Network Agent はステルスモードの NIC と共に動作することができます。

---



# トラブルシューティング

Websense Enterprise または Web Security Suite のインストール中、および設定中に各章で説明されていない問題に遭遇することがあります。この付録では、Websense テクニカル・サポートに報告されているインストール中および初期設定中のトラブルシューティング情報を提供しています。テクニカル・サポートに問い合わせる前に、この章にお客様の問題についての情報がないかどうか確認してください。Websense ソフトウェア・コンポーネント間のインストールまたは通信と関係がない問題は、Websense Enterprise および Web Security Suite の『管理者用ガイド』を参照してください。

必要であれば、テクニカル・サポートへお問い合わせください（お問い合わせ先は、[付録 C: テクニカル・サポート](#) をご覧ください）。この章では、以下の状況について説明します：

- ◆ インストール中に誤った操作を行った。
- ◆ 英語以外の Websense インストーラのバージョンを使用してインストールしたとき、Language Pack が自動的に起動しない。
- ◆ Websense Policy Server のパスワードを忘れた。
- ◆ ダウンロードおよびエラー・メッセージはどこにあるか？
- ◆ Master Database をダウンロードできない。
- ◆ Policy Server がインストールに失敗する。
- ◆ Websense ソフトウェアをアップグレードした後、Websense Manager のディレクトリ・オブジェクトに設定されていたユーザが表示されない。
- ◆ Linux 上でステルスモード NIC を使用した場合 Network Agent を開始できない。
- ◆ Windows 9x ワークステーションが期待どおりにフィルタリングされていない。
- ◆ Logon Agent を使用したとき、Websense グローバル・ポリシーを受け取るユーザがいる。

- ◆ Websense のスプラッシュ画面が表示されるが、Windows 2000 でインストーラが起動しない。
- ◆ Filtering Service を再インストールした後、Network Agent と Filtering Service が通信できない。
- ◆ リモート・フィルタリングによってフィルタされたユーザが、ブロックページを受け取らない。
- ◆ リモート・フィルタリングが動作しない。

## インストール中に誤った操作を行った

インストール・プログラムを再度実行します。インストーラが現在のインストールを検出し、Websense Enterprise コンポーネントの [追加]、[削除]、または [修正] を可能にします。[修正] オプションは、インストールの修復はせず、検出されるファイルを再インストールするだけです。



### ご注意

Windows では、再度インストーラを実行する前にコンピュータを再起動してください。

手順は、[インストールの修復](#)、[175 ページ](#) を参照してください。

## 英語以外の Websense インストーラを使用してインストールしたとき、Language Pack が起動しない

英語以外のインストーラ・パッケージの 1 つを使用して Websense ソフトウェアをインストールした場合、選択された Websense コンポーネントのインストールが完了した後、Language Pack インストーラが起動するはずですが、

Language Pack インストーラが自動的に起動しない場合、次の手順で手動起動することができます：

- ◆ **Windows** : Websense インストーラを展開したセットアップ・フォルダに移動し、SetupLanguagePack.exe をダブルクリックします。
- ◆ **Solaris or Linux** : Websense インストーラを展開したセットアップ・ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します：

```
./installLanguagePack.sh
```

英語ベースの UNIX システムを使用している場合、次のコマンドを入力して、GUI モードのインストーラを実行することができます：

```
./installLanguagePack.sh -g
```

画面上の指示に従って、Language Pack のインストールを完了します。コンピュータ上の Websense コンポーネントとファイルは、選択した言語のテキストに更新されます。

## Websense Policy Server のパスワードを忘れた

サポートが必要な場合、Websense テクニカルサポートにご連絡ください。連絡先は、[付録 C: テクニカル・サポート](#)に記載されています。

## ダウンロードおよびエラー・メッセージはどこにあるか？

### Windows の場合

データベースのダウンロードおよびその他のエラー・メッセージまたはステータス・メッセージに関する記録は、Windows アプリケーション・イベント・ログまたは `websense.log` (`websense\bin`) を確認します。Application Event ログにアクセスするには、[スタート]>[設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[イベントビューア]の順に選択します。[イベントビューア] ツリーを展開し、[アプリケーション・ログ] をクリックします。

## Master Database をダウンロードできない

Websense Master Database ダウンロードを受信できない場合、いくつか理由が考えられます。

### ライセンスキー

Websense Manager で ([サーバー]>[設定]>[データベースのダウンロード]) のデータベース・ダウンロード画面に移動し、ライセンスキーが正確に登録され、期限切れでないことを確認します。

- ◆ 電子メールで受信したキー、または Websense パッケージのキーと [加入キー] フィールドのキーを比べ (大文字小文字の区別なし)、エラーを訂正してください。キーが有効になり、データベースのダウンロードが可能になる前に、[OK] ボタンをクリックして [設定] ダイアログボックスを閉じます。

- ◆ **[キーの有効期限]** フィールドにある日付をチェックします。日付が過ぎていれば、Websense, Inc. に連絡してライセンスを更新してください。

## インターネット・アクセス

Filtering Service を実行しているコンピュータは、HTTP を経由してインターネットへアクセスできなければならず、また、送信されてくるデータを受信することができなければなりません。

Websense Filtering Service コンピュータでインターネット・アクセスを確認するには、次の手順に従います：

1. Websense Manager の **[設定]** ダイアログボックスの **[データベース・ダウンロード]** 画面で、Websense ソフトウェアがプロキシ・サーバ経由でインターネットにアクセスしているかどうかを判断します。
2. プロキシ・サーバが使用されている場合は、ウェブ・ブラウザを開きます。
3. このブラウザを、**[設定]** ダイアログボックスに示されるプロキシ設定と同様に設定し、インターネットにアクセスできるようにします。
4. 次のアドレスのうち 1 つを要求します：

<http://download.websense.com>

<http://asia.download.websense.com>

<http://europe.download.websense.com>

- このサイトにアクセスすると、「it will redirect you to the Websense home page (Websense ホームページにリダイレクトします)」というメッセージと共に、Websense のロゴが表示されます。これは、Filtering Service のプロキシ設定が正確で、Filtering Service はダウンロードに適した HTTP アクセスをしていることを意味します。
- ダウンロード・サイト、およびシステムが要求するプロキシ情報にアクセスできない場合、Filtering Service のプロキシ設定を訂正する必要があります。
- プロキシ情報が必要でない場合は、(コマンドプロンプトで) ダウンロード・サイトのアドレスと共に **nslookup** コマンドを使用して、Filtering Service コンピュータがダウンロードの場所を IP アドレスに変換できることを確認します。例：

### nslookup asia.download.websense.com

これで IP アドレスが返されない場合は、DNS サーバにアクセスするよう Filtering Service を実行しているコンピュータを設定する必要があります。

サポートが必要な場合は、Websense テクニカル・サポートへご連絡ください(情報は、[付録 C: テクニカル・サポート](#) を参照してください)。

5. Websense ソフトウェアが、認証を必要とするアップストリーム・ファイアウォールまたはプロキシ・サーバを介して、インターネットにアクセスしなければならない場合は、以下の事項を確認してください:
  - [設定]ダイアログボックスの[データベースのダウンロード]画面に正しいユーザ名とパスワードが入力されている。スペルと大文字/小文字を確認してください。
  - ファイアウォールまたはプロキシ・サーバはクリアテキストまたは基本認証を受け付けるよう設定されている。

## 制限アプリケーション

ウィルススキャナーやサイズ制限アプリケーションなどのいくつかの制限アプリケーションは、データベース・ダウンロードに干渉することがあります。Filtering Service コンピュータおよび Websense ダウンロード位置に関する制限を無効にします。

## Policy Server がインストールに失敗する

十分なリソース (RAM またはプロセッサ速度) を備えていないコンピュータに Websense ソフトウェアをインストールしようとする、Policy Server のインストールに失敗することがあります。特定のアプリケーション (プリントサービス等) は、Policy Server をインストールするためにインストーラに必要なリソースをバインドすることができます。Policy Server のインストールに失敗する場合は、Setup は中止してください。インストール中に、「Could not install current service : Policy Server (現在のサービス : Policy Server をインストールできませんでした)」というエラー・メッセージを受け取ったら、以下のいずれかを実行します :

- ◆ 異なるコンピュータに Websense ソフトウェアをインストールします。インストールの最小要件に関しては、[システム要件](#)、[32 ページ](#) を参照してください。

- ◆ 別の Websense のインストールを行う前に、コンピュータで実行中のメモリ集約サービスをすべて停止します。

## Websense ソフトウェアをアップグレードした後、Websense Manager のディレクトリ・オブジェクトに設定されていたユーザが表示されない

Directory Service として Active Directory を使用している場合、Websense ソフトウェアをアップグレードしたときに、ユーザ名が Websense Manager のディレクトリ・オブジェクトの一覧から消失することがあります。ユーザ名が UTF-8 文字セットでない文字を含む場合に、これは起きます。

LDAP3.0 をサポートするために、Websense インストーラはアップグレードの間に MBCS から UTF-8 に文字セットを変更します。もしユーザ名が非 UTF-8 文字を含む場合、それらの文字は適切に認識されません。この問題を解決するためには、文字セットを MBCS に変更してください。

1. Websense Manager で、[サーバー]>[設定]>[ディレクトリ サービス]と進みます。  
Active Directory を使用している場合、[ディレクトリ]パネルで **Active Directory (ネイティブ モード)** が選択されています。
2. [拡張設定] ボタンをクリックします。
3. UTF-8 から **MBCS** に文字セットを変更するために [キャラクターセット] の下の MBCS をクリックしてください。

## Network Agent をステルスモード NIC で開始できない

### Linux の設定ファイルから IP アドレスが削除された

インタフェースが Linux システムの設定ファイルに古い IP アドレスを保持する場合にのみ、Network Agent はステルスモードの NIC と共に動作することができます。Network Agent をステルスモードに設定されたネットワーク・インタフェース・カードにバインドした場合、およびその後 NIC の IP アドレスを Linux の設定ファイル (/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-*<adapter name>*) から削除した場合は、Network Agent は起動しません。

IP アドレスを持たないインタフェースは、インストーラまたは Websense Manager に表示されるアダプタのリストには現れず、使用できません。Network Agent と NIC を再接続するには、IP アドレスを設定ファイルに戻します。

## Solaris および Linux で Websense 通信にステルスモード NIC が選択された

Solaris および Linux でステルスモードに設定されたネットワーク・インタフェース・カードは、Websense 通信の選択肢として Websense インストーラに表示されます。不注意で通信にステルスモード NIC を選択した場合は、Network Agent は起動せず、Websense サービスは動作しません。

この問題を修正するには、`/websense/bin` にある `websense.ini` ファイルを開き、ノーマルモードの NIC の IP アドレスに変更してください。Websense Service を起動します。

## Windows 9x ワークステーションが期待どおりにフィルタリングされていない

DC Agent をユーザ識別のために実行している場合、Windows 9x のワークステーション・コンピュータ名にスペースを含めないでください。コンピュータ名にスペースが含まれていると、そのワークステーションからインターネット要求が出される際に、DC Agent がユーザ名を受け取れなくなります。フィルタリング時に問題のあった Windows 9x ワークステーションの名前を確認し、スペースを削除します。

## Logon Agent を使用したとき、Websense グローバル・ポリシーを受け取るユーザがいる

ユーザが予想どおりにフィルタリングされない理由はいくつかあります。しかし、ネットワークが Logon Agent を使用してユーザを識別する場合、および通常のユーザまたはグループ・ポリシーを受け取る代わりに、Websense グローバル・ポリシーを受け取るユーザがいる場合は、ネットワークに問題がある可能性があります。

Logon Agent のログオン・スクリプトがワークステーション上で適切に実行できない場合、Websense ソフトウェアはユーザを識別し、適切なポリシーを割り当てることができません。デフォルト設定で、Websense はグローバル・ポリシーを割り当てます。

まず、Windows Group Policy Objects (GPO) の設定が、それらのワークステーションに正しく割り当てられているかどうかを判断します。割り当てられていない場合、これは、ネットワーク接続性の問題であり、Websense の設定の問題ではありません。

次のネットワーク確認に進みます：

- ◆ ログオン・スクリプトが実行されているドメイン・コントローラから、ユーザ・コンピュータのレジストリを確認してください。
- ◆ NetBIOS が、コンピュータで有効になっていることを確認します。
- ◆ ユーザ・プロファイルがログオン・スクリプトの実行を阻止していないことを確認してください。

## ドメイン・コントローラのレジストリ

ワークステーションがドメイン・コントローラを確認できるかどうかを判断するには、以下を実行します：

- ◆ クライアント・ワークステーションで、ドメイン・コントローラのルート共有ドライブにドライブをマップしてください。これは、通常、ログオン・スクリプトが実行されているドライブ、および LogonApp.exe が属するドライブです。
- ◆ 識別されていないワークステーションで、Windows コマンド・プロンプトから次のコマンドを実行してください：

```
net view /domain:<domain name>
```

これらのテストのいずれも失敗する場合は、Windows オペレーティングシステムのマニュアルで解決策を調べてください。これは、ネットワーク接続性の問題であり、Websense の問題ではありません。

## NetBIOS

TCP/IP の NetBIOS が有効になっており、クライアント・コンピュータで TCP/IP NetBIOS Helper サービスが動作していることを確認してください。どちらも動作していない場合は、Websense ログオン・スクリプトはユーザ・コンピュータで実行しません。

TCP/IP NetBIOS Helper サービスは、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 および Windows NT 上で実行しています。Windows 98 では、TCP/IP NetBIOS はデフォルト設定で有効になっています。

ネットワークで Active Directory を使用し、Windows 98 クライアント・コンピュータがある場合、参考のために次の Microsoft ウェブサイトを参照してください：[www.microsoft.com/windows2000/server/evaluation/news/bulletins/adextension.asp](http://www.microsoft.com/windows2000/server/evaluation/news/bulletins/adextension.asp)

## ユーザ・プロファイルの問題

ローカルなワークステーション上のユーザ・プロファイルが正しくない場合、(Windows GPO 設定と同様) Websense ログオン・スクリプトの実行を妨げます。この原因を削除するためには、次の手順に従います：

1. ワークステーションにローカル管理者としてログオンします。
2. ユーザ・プロファイルを含む次のディレクトリを削除してください：  
C:\Documents & Settings\*<user name>*
3. コンピュータを再起動します。
4. ノーマルユーザとしてログオンします。  
ユーザ・プロファイルは自動的に作成されます。
5. 予定通りユーザがフィルタされていることを確認してください。

## Websense のスプラッシュ画面が表示されるが、Windows 2000 でインストーラが起動しない

Java ベースの Websense インストーラ インタフェースを表示することを妨げるインストール・コンピュータのソフトウェアの問題です。また、この問題は、Websense Manager がこのコンピュータで起動することも妨げます。

この問題のための 2 つの有効な解決策があります。

- ◆ **インストール・コンピュータに DirectX をインストールする。**  
DirectX は、開発者が Windows オペレーティングシステムのアプリケーションを作成するために使用するアプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) の Windows スイートです。Java ベースの Websense インストーラは、インタフェースを表示するためにこの API を使用します。Websense Manager でも使用します。DirectX が存在しない場合、Websense インストーラ・インタフェースと Websense Manager インタフェースのいずれも表示することができません。

- ◆ **コンソール・モードでインストーラを実行する。** Websense ソフトウェアをコンソール・モードでインストールすることができるようにするため、Windows コマンドプロンプトで起動するように `Setup.exe` を設定することができます。

Websense ソフトウェアをコンソール・モードでインストールするためには、次の手順に従います：

1. テキストエディタを使用して、`launch.ini` ファイルを開きます。  
このファイルは、`Setup.exe` と同じ Websense インストーラを圧縮展開したフォルダに位置しています。
2. 次の行をファイルに追加します。  
`ARGS=-console -is:javaconsole`
3. ファイルを保存して、終了します。
4. `Setup.exe` をダブルクリックするか、コマンドラインからアプリケーションを実行します。  
インストーラは、Windows コマンド・プロンプトで起動します。
5. Websense ソフトウェアをインストールするために、画面の指示に従います。



#### ご注意

コンソール・モードのインストールの手順は、GUI モードとまったく同じです。

---

6. Solaris コンピュータまたは Java インタフェースを表示することができる Windows コンピュータに Websense Manager をインストールします。

## Filtering Service を再インストールした後、Network Agent と Filtering Service が通信できない

Filtering Service がアンインストールされ、再インストールされた場合、Network Agent は Filtering Service の内部識別子 (UID) を自動的に更新しません。Filtering Service の新しいインストールが完了した後も、Websense Manager は存在しない古い UID を使用して Filtering Service のクエリを行おうとします。

Filtering Service への接続を再構築するには以下を実行します：

1. Websense Manager を開きます。  
「**Network Agent** <IP address> is unable to connect with Filtering Service (Network Agent <IP アドレス> は Filtering Service へ接続できません)」というエラー・メッセージが表示されます。
2. メッセージを消去して、[サーバー]>[設定]を選択します。  
同じエラー・メッセージが表示されます。
3. 再度メッセージを消去して、**設定の選択**リストから [Network Agent] を選択します。
4. [ローカル設定] をクリックします。
5. Network Agent の NIC の上にリストされた IP アドレスを選択します。
6. [Edit Selection (編集を選択する)] をクリックします。  
[Filtering Service の接続] ダイアログボックスが表示されます。
7. [サーバー IP アドレス] のドロップダウンリストから Filtering Service コンピュータの IP アドレスを選択します。
8. [終了] をクリックします。
9. [ローカル設定] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。
10. [設定] ダイアログボックスで [OK] をクリックし、変更を保存します。

## リモート・フィルタリングによってフィルタされたユーザが、ブロックページを受け取らない

ワークステーション上の Remote Filtering Client ユーザが適切にフィルタされていて、Websense ブロック・ページを受け取らない場合、次のことを試してください:

- ◆ Websense Filtering Service コンピュータと Remote Filtering Server コンピュータの間にファイアウォールがある場合、[Remote Filtering Server と Filtering Service 間の通信を有効にする](#)、233 ページで記述されているように、それが適切に設定されていることを調べてください:
  - **ブロックページ用ポート**が(デフォルト 15871)ファイアウォール上でオープンされていることを確認してください。これは Filtering Service がリモート・ユーザにブロックページを送ることができるようにします。

ファイアウォールの設定方法の情報は、ファイアウォール製品のマニュアルを参照してください。

- ◆ Remote Filtering ClientがRemote Filtering Serverコンピュータにインストールされていないことを確認してください。Remote Filtering Server コンピュータ上で実行中の Remote Filtering Client インスタンスが、サーバへの利用可能なすべての接続を使用するでしょう。リモート・ワークステーションは Remote Filtering Server と接続できませんし、フィルタリングされません。Remote Filtering Server コンピュータから Remote Filtering Client をアンインストールしてください。

## リモート・フィルタリングが動作しない

リモート・フィルタリング・コンポーネントをインストールし、Remote Filtering Client をインストールしたユーザ・ワークステーションが適切にフィルタされない場合、次の問題の1つ以上があるかもしれません：

- ◆ リモート・フィルタリング・サービスを有効にする正しいライセンスキーがありません。
- ◆ Remote Filtering Server が実行していません。
- ◆ Remote Filtering Server と Filtering Service が同じコンピュータ上にインストールされています。
- ◆ Remote Filtering Server と Filtering Service 間に位置するファイアウォールが正しく設定されていません。
- ◆ 外部ネットワーク・ファイアウォールおよび Remote Filtering Server コンピュータとリモート・ワークステーション間に位置するすべての追加されたファイアウォールが正しく設定されていません。
- ◆ Network Agent がリモート・フィルタリング要求に対する応答をフィルタしています。
- ◆ その他の接続問題。
- ◆ Remote Filtering Server コンピュータで DHCP が有効になっている。
- ◆ Remote Filtering Server コンピュータで Windows Server 2003 を実行していて、Service Pack 1 がインストールされていない。
- ◆ Remote Filtering Server と Remote Filtering Client 間の通信パラメータが適切に設定されていない：
  - 内部および外部通信の IP アドレスが適切に設定されていない。

- 内部および外部通信のポートが適切に設定されていない。
- ◆ Remote Filtering ServerとRemote Filtering Clientのために入力したパスフレーズが一致していない。
- ◆ 使用中のロード・バランサが、パケットを Remote Filtering Server に転送していない。

## Remote Filtering のトラブルシューティング手順

問題の原因を決定するために、次の手順に従ってください：

1. ライセンスキーが リモート・フィルタリングを含んでいることを確認します。

リモート・フィルタリング・サービスは オプションでアドオンとして利用可能です。Websense ライセンスキーが リモート・フィルタリング・サービスを含んでいることを確認します。
2. Remote Filtering Server が 実行していることを確認します。
  - Windows : **[Windows サービスコントロールパネル]** を Websense Remote Filtering Service が実行していることを確認するために使用します。
  - Linux および Solaris :
    - a. `/opt/Websense` ディレクトリへ移動します。
    - b. コマンドプロンプトから、次を実行します：`./WebsenseAdmin status`
    - c. The Remote Filtering サービスが実行しているはずですが、そうでない場合、`./WebsenseAdmin start` を実行します。
3. Remote Filtering Server が Filtering Server と同じコンピュータにインストールされていないことを確認してください。

同じコンピュータ上にこれらのコンポーネントをインストールすると、コンピュータのリソースの深刻な不足の原因になります。フィルタリングが非常に遅くなり、やがて失敗し、すべての要求を許可するかもしれません。

4. Websense Filtering Service と Remote Filtering Server の間に位置するすべてのファイアウォールが正しく設定されていることを確認します。

Filtering Service コンピュータと Remote Filtering Server コンピュータの間に 1 つ以上のファイアウォールがある場合、[Remote Filtering Server と Filtering Service 間の通信を有効にする、233 ページ](#)で記述されているように、それが適切に設定されていることを調べてください:

- Filtering Service のフィルタポート (デフォルト: 15868) が Filtering Service と Remote Filtering Server 間のすべてのファイアウォール上でオープンされていることを確認します。このポートがオープンしていない場合、Filtering Service は Remote Filtering Server からの接続を受け入れることができません。
- Filtering Service のブロックページ用ポート (デフォルト: 15871) が Filtering Service と Remote Filtering Server 間のすべてのファイアウォール上でオープンされていることを確認します。このポートがオープンされていない場合、Filtering Service はブロック・ページをリモート・ユーザに送信できません。

5. [Remote Filtering Server と Remote User Workstation 間の通信を有効にする、233 ページ](#)で記述されているように、外部ネットワーク・ファイアウォールおよび Remote Filtering Server コンピュータとリモート・ワークステーション間に位置するすべての追加されたファイアウォールが正しく設定されていることを確認してください。

- Remote Filtering Server のファイアウォール上の**外部通信**ポートは、ネットワーク・ファイアウォールの外側に位置するワークステーション上の Remote Filtering Client からの接続を受け入れる必要があります。デフォルトで、ポート 80 です (Remote Filtering Server のインストールの間に変更されなかった場合)。
- ネットワーク・ファイアウォールの外側に位置するワークステーションからの Remote Filtering Server の**内部通信**ポートへのアクセスは、ブロックされる必要があります。デフォルトで、ポート 8800 です (Remote Filtering Server のインストールの間に変更されなかった場合)。

6. Network Agent が リモート・フィルタリング要求に対する応答をフィルタしていないことを確認します。

Network Agent が、Remote Filtering Server がインストールされているコンピュータをモニタしていないことを確認するには、次の手順に従います：

- a. Websense Manager を開き、Policy Server に接続します。
- b. [サーバ]>[設定]を選択してください。
- c. [設定]ダイアログボックスが表示されます。
- d. [設定]ペインで、[Network Agent] の下の[グローバル設定]をクリックします。
- e. ウィンドウの[内部ネットワーク定義]の項で Remote Filtering Server を実行しているコンピュータの IP アドレスが含まれていないことを確認します。
  - ・ サーバの IP アドレスが個別にリストされる場合、一覧からアドレスを選択し、[削除]をクリックします。
  - ・ サーバの IP アドレスが範囲の場合、範囲を削除し、その IP アドレスの周りに 2 つの範囲を追加します。
- f. 完了したら、変更を保存するために画面の一番下で [OK] をクリックします。

Network Agent のグローバル設定に関する追加情報は、Web Security Suite と Websense Enterprise の『管理者用ガイド』で「Network Agent」の章を参照してください。

7. 接続が適切に機能していることを確認します。
  - Remote Filtering Client がインストールされたリモート・ワークステーションが Remote Filtering Server コンピュータと通信できることを確認します。ピングコマンドを接続を確認するために使用できます。
  - Remote Filtering Server コンピュータが適切にネットワークと通信していることを確認します。ローカル・ネットワーク内の Filtering Service コンピュータと他のコンピュータに、ピングコマンドを使用してみてください。

8. Remote Filtering Server コンピュータの `RFSErrors.log` を確認します。
  - a. テキストエディタを使用して、`RFSErrors.log` ファイルを開きます。`RFSErrors.log` ファイルのデフォルト位置は、次のとおりです：
    - ・ Windows : \Program Files\WebSense\bin
    - ・ Linux および Solaris : /opt/WebSense/bin
  - b. エラー 64 を確認します。このエラーは、Remote Filtering Server を実行しているコンピュータで、DHCP が有効になっていることを示しているかもしれません。
    - ・ 静的 IP アドレスを取得し、このコンピュータ上の DHCP を停止します。
  - c. エラー 121 を確認します。このエラーは、Windows Server 2003 の環境で発生し、Service Pack 1 がインストールされていないことを示しているかもしれません。Remote Filtering Server を実行するためには、このサービスパックが必要です。
    - ・ Microsoft ウェブサイトからサービスパックをダウンロードし、それをインストールします。
9. Remote Filtering Server と Remote Filtering Client の通信が適切に設定されていることを確認します。

Remote Filtering Client はインターネット・ゲートウェイまたはファイアウォールの内側および外側から Remote Filtering Server に接続できる必要があります。正しい通信情報 (IP アドレスと内部・外部通信ポート番号) がインストール中に入力されている必要があります。詳細は、[Remote Filtering Server、128 ページ](#) (Windows) または [Remote Filtering Server、169 ページ](#) (Solaris および Linux) を参照してください。

- a. Remote Filtering Server コンピュータ上で、テキストエディタで `securewispproxy.ini` ファイルを開きます。このファイルのデフォルト位置は、次の通りです：
  - ・ Windows : \Program Files\WebSense\bin
  - ・ Linux および Solaris : /opt/WebSense/bin

- b. [Proxy Server parameters] の下で、次の設定をメモします：
- ・ **ProxyIP**：内部通信に使用される Remote Filtering Server コンピュータ上のネットワーク・インタフェース・カード (NIC) の IP アドレスと一致する必要があります。
  - ・ **ProxyPort**：Remote Filtering Server コンピュータが外部通信に使用するポート。デフォルト設定は 80。
  - ・ **ProxyPublicAddress**：外部のネットワーク・ファイアウォールまたはインターネット・ゲートウェイの外側から Remote Filtering Server コンピュータへ外部アクセスするために使用する IP アドレスまたはホスト名。
- c. [HeartBeat Server Parameters] の下で、**HeartBeatPort** の設定をメモします。これは、外部ネットワーク・ファイアウォールの内側に移動された Remote Filtering Client コンピュータと通信するために使用される内部通信ポートです。デフォルト設定は 8800 です。
- d. Remote Filtering Server コンピュータ上でコマンドプロンプトを開き、そのコンピュータの各ネットワーク・インタフェース・カード (NIC) の IP アドレスを取得するために、IP 設定コマンドを実行します：
- ・ Windows : `ipconfig`
  - ・ Linux および Solaris : `ifconfig -a`
- e. これらの IP アドレスが `securewisproxy.ini` ファイルの Proxy Server パラメータと一致することを確認します。
- f. 値は Remote Filtering Client コンピュータ上で、チェックされる必要があります。サポートが必要な場合、Websense テクニカルサポートにご連絡ください。通信が適切に設定されていることを確認するためには、技術者は前の手順で収集された情報を必要とします。
10. パスフレーズが一致することを確認します。

Remote Filtering Server と Remote Filtering Client のパスフレーズは一致する必要があります。それらが一致するかどうか確認するためには、コンフィギュレーション・ファイルおよびレジストリ・ファイルへアクセスする必要があります。これらのファイルに対して間違った変更をすると、コンピュータの動作を妨げることがあります。サポートが必要な場合、Websense テクニカル・サポートにご連絡ください。

すべての Remote Filtering Client に使用されたパスワードが Remote Filtering Server で設定したパスワードと一致しない場合：

- a. Remote Filtering Server を再インストールし、要求されたとき、適切なパスワードを入力します。
- b. 同じパスワードを使用し、Remote Filtering Client を再インストールします。

Websense Client Policy Manager (CPM) がインストールされているか、または将来インストールする予定なら、次のことに注意してください：

- すでに Client Policy Manager (CPM) をネットワークにインストールしている場合、CPM をインストールしたとき使用した同じパスワードを入力する必要があります。
  - 将来 CPM をネットワークにインストールするときに、お客様が使用した同じパスワードをリモート・フィルタリング・コンポーネントをインストールするときに使用する必要があります。
11. ロード・バランサが パケットを Remote Filtering Server に転送していることを確認します。
- ロード・バランサを使用している場合、それがパケットを Remote Filtering Server に転送していることを確認します。設定情報は、お客様のロード・バランシング・アプライアンスまたはロード・バランシング・ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

# テクニカル・サポート

Websense, Inc. は、世界規模ですばらしいサービスを提供することをミッションとしています。私たちの目標は、お客様がどこにいても当社のソフトウェアのご利用に対して専門的なアドバイスを提供することです。

## Websense テクニカル・サービス・サポート・センター

Websense 製品に関する技術情報は、電子メールで 24 時間受け付けています。

[www.websense.com/global/en/SupportAndKB](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB)

最新のリリース情報、FAQ、ナレッジベース、製品マニュアル、その他の情報はこちらでご覧いただけます。

## プレミアム・サポート

Websense, Inc., は、2 つの有料プレミアム・サポート・オプションを提供しています：プライオリティ・ワン 24x7 サポート、およびプラチナ・サポートです。

プライオリティ・ワン 24x7 サポートは、米国のお客様へフリー・ダイヤルを含む、週 7 日、1 日 24 時間（年中無休）の拡張サービスを提供するものです。

プラチナ・サポートは、非常に総合的なサポートと指導を提供します。これには、プライオリティ・ワン 24x7 サポートの利点と、専任サポートチーム、最優先サービス、教育機会が含まれます。

プライオリティ・ワン 24x7 サポート、およびプラチナ・サポートの内容の詳細については、当社のウェブサイトをご覧ください：

[www.websense.com/global/en/ProductsServices/Services](http://www.websense.com/global/en/ProductsServices/Services)

その他の情報に関しては、当社米国販売部 (800.723.1166 または +1 858.320.8000) にお電話いただくか、[sales@websense.com](mailto:sales@websense.com) までメールでお問い合わせください。

米国以外のお客様のプレミアム・サポートプログラムの情報は、地域の Websense 代理店にご連絡ください：

[www.websense.com/global/en/AboutWebsense/ContactUs](http://www.websense.com/global/en/AboutWebsense/ContactUs)

## サポート・オプション

---

Websense テクニカル・サポートは、週 7 日、1 日 24 時間ご利用いただけます。

### ウェブ・ポータル

サポートチケットは、週 7 日、1 日 24 時間、ウェブ・ポータルを通して提出できます。営業時間中は約 4 時間ほどで回答いたします。営業時間外のお問い合わせについては、次の営業日に回答します。サポートチケットは下記に提出してください：

[www.websense.com/global/en/SupportAndKB/CreateRequest](http://www.websense.com/global/en/SupportAndKB/CreateRequest)

### 電話によるお問い合わせ

Websense テクニカル・サポートにご連絡いただく前に、以下の内容をご準備ください。

- ◆ Websense のライセンスキー
- ◆ Websense Manager にアクセスできること
- ◆ Filtering Service、Websense Reporting サーバ、およびデータベース・サーバ (MSDE または SQL Server) を実行しているコンピュータへアクセスできること
- ◆ Websense Log Database へのアクセス許可
- ◆ ネットワークの構造に熟知しているか、熟知している担当者にすぐに連絡がつくこと
- ◆ Filtering Service および Websense Manager が動作しているコンピュータの仕様
- ◆ Filtering Service コンピュータ上で動作しているアプリケーションの一覧

重大な問題には、追加情報が必要な場合があります。

標準の電話によるお問い合わせは月曜から金曜まで、次の番号で受け付けております：

- ◆ 米国カリフォルニア州、サンディエゴ テクニカル・サービス : +1 858. 458.2940
- ◆ 英国 ロンドン テクニカル・サービス : +44 (0) 1932 796244

## カスタマ・ケア

---

以下の事項については、カスタマ・ケアにお問い合わせください。

- ◆ 一般的な問題。
- ◆ ライセンスキーに関する質問や問題。
- ◆ 電話サポート問題に関するフォローアップ。
- ◆ 一般的サポート要求。

下記のカスタマ・ケアにご連絡ください：

- ◆ カスタマ・ケア（米国）カリフォルニア州、サンディエゴ：  
866.355.0690（米国専用）または +1 858.320.9777 または  
customer@websense.com
- ◆ カスタマ・ケア・インターナショナル（アイルランド、ダブリン）：  
+353 (0) 1 6319360 または intcustcare@websense.com

## マニュアルの改善

---

Websense, Inc. は、高品質で正確なマニュアルの価値を理解しています。マニュアルの改善に関するご意見、ご提案があれば、当社の [DocFeedback@websense.com](mailto:DocFeedback@websense.com) にお寄せください。皆様のアドバイスに感謝致します。



# 索引

## A

- Active Directory, 29
  - ログオンスクリプト, 223–224
- Address Resolution Protocol (ARP), 241
- Apache HTTP Server
  - インストール, 76, 116

## B

- Bandwidth Optimizer, 12, 108, 154
- BrandWatcher, 231

## C

- Citrix サーバユーザ, フィルタリング, 31
- config.xml
  - Policy Server の修復, 203
  - 以前のバージョンとの互換性なし, 38
- config.xml ファイル, 38

## D

- DC Agent
  - 定義, 9
  - 配備, 19
  - 必要な権限, 68, 101
- RADIUS Agent
  - 定義, 9
  - 配備, 22
- Default Web Site, 77, 118
- DirectX 要件, 251
- DNS server, 33, 216

## E

- eDirectory Agent
  - 個別インストール
    - Linux, 165–167
    - Solaris, 165–167

Windows, 123–125

- 定義, 9
- 配備, 20
- eimserver.ini ファイル, 38
- ブロックページ URL の Filtering Service, 216

## F

- filter port, 134, 173
- Filtering Service
  - コンピュータの識別, 111, 134, 157, 173
  - 定義, 8
  - 配備, 15
  - ブロックページ URL の識別, 215–216
  - ポート番号, 74, 91

## G

- Global Websense ポリシーアプリケーション, 249

## I

- IIS Web Server
  - 検出, 76, 116
- IM Attachment Manager, 12, 108, 154
- IP アドレス
  - DNS サーバレゾリューション, 33
  - Network Agent のための範囲の定義, 17, 108
  - User Service の要件, 16
  - Websense 通信の要件, 91
  - インストールされたコンポーネントの変更, 60
  - ステルスモード, 239
  - ステルスモードのために無効, 240
  - 透過的識別, 31

マルチネットワークインタフェース  
カード, 73

## L

Language Pack, 38, 62

手動起動, 244

languages

Language Pack, 38

launch.ini ファイル, 252

LDAP ディレクトリサービス, 29

Linux

Websense Enterprise のアップグレード  
, 48-53

Websense Web Security Suite のアップグ  
レード, 48-53

Websense Web Security Suite のインス  
トール, 87

Websense サービスの起動と停止, 206-  
207

コンポーネントの削除, 193-195

コンポーネントの修復, 199-201

コンポーネントの追加, 184-188

Logon Agent

個別インストール

Linux, 167-169

Solaris, 167-169

Windows, 126-128

定義, 9

配備, 21

ユーザ識別の失敗, 249-251

LogonApp.exe

実行のための設定

Active Directory, 223-224

Windows NTLM, 225-226

スクリプト, 219-222

場所, 218

## M

MAC アドレス, 241

Manager (Websense Manager を参照)

Master Database

Policy Server 修復時の再ロード, 203

説明, 10

Master Database のダウンロード

Websense Manager, 210-215

アップグレード中

Solaris および Linux, 52

Windows, 46-47

インストール中

Solaris および Linux, 92, 97

ウイルススキャナー, 247

エラーメッセージの場所, 245

失敗, 245-247

実行, 210-215

Messenger Service, 217

## N

NetBIOS, 19

ログオンスクリプトの許可, 250

Network Agent

bandwidth optimizer, 108, 154

インスタントメッセージアタッチメン  
トマネージャー, 108, 154

キャプチャインタフェース, 78, 92, 110,  
156, 181, 186

個別インストール

Linux, 154-158

Solaris, 154-158

Windows, 108-112

スイッチ環境, 17

ステルスモード NIC, 239-241

定義, 8

ネットワークインタフェースカード  
, 226

配備, 16

ファイアウォールコンピュータ上, 110,  
156

プロトコル使用に関するフィードバッ  
ク, 78, 93

プロトコルマネージメント, 108, 154

Novell Directory Service/eDirectory

Agent, 29

Novell Directory Services/eDirectory

Agent, 30

## P

Policy Server

インストールの失敗, 247

コンピュータの識別, 109, 116, 120  
修復, 201-203  
定義, 8  
配備, 15  
ポート番号, 74, 91  
Protocol Management, 12, 108, 154

## R

DC Agent  
個別インストール  
Linux, 158-161  
Windows, 112-115  
RADIUS Agent  
個別インストール  
Linux, 163-165  
Windows, 121-123  
Solaris, 163-165  
Real-Time Analyzer (RTA)  
個別インストール, 115-119  
サポートする Web サーバ, 76, 116  
定義, 9  
実行, 86, 119, 184  
Real-Time Analyzer(RTA)  
配備, 18  
Remote Filtering Client  
local log, 236  
アップグレード, 55  
サードパーティツール, 58  
手動, 56  
アンインストール, 149  
インストール  
手動, 139  
再インストール, 148  
定義, 10  
トラブルシューティング, 253, 254  
配備, 23  
フェイルクローズの設定, 234  
ブロックページ受信, 253  
Remote Filtering Client Pack  
アップグレード, 54  
インストール, 136-138  
定義, 100  
Remote Filtering Client インストール  
サードパーティツール, 143

Remote Filtering Client の配備  
サードパーティツール, 58  
Remote Filtering Server  
DCHP 非互換, 170  
DHCP 非互換, 129  
アップグレード, 54  
インストール  
Linux, 169-175  
Windows, 128-136  
外部通信ポート, 130, 141, 145, 171  
定義, 9  
トラブルシューティング, 253, 254  
内部通信ポート, 131, 142, 145, 172  
配備, 22  
パスフレーズ, 132, 172  
ファイアウォールの設定, 232-233  
インストール  
Solaris, 169-175  
Reporting Tools  
アップグレード, 39  
インストール, 64

## S

Samba クライアント, 94  
securewisproxy.ini file, 234, 236  
SiteWatcher, 231  
Solaris  
Websense Enterprise のアップグレード  
, 48-53  
Websense Enterprise のインストール  
, 87-98  
Websense Web Security Suite のアップグ  
レード, 48-53  
Websense Web Security Suite のインス  
トール, 87-98  
Websense サービスの起動と停止, 206  
コンポーネントの削除, 193-195  
コンポーネントの修復, 199-201  
コンポーネントの追加, 184-188  
コンポーネントの修復, 199-201  
Stand-Alone Edition  
統合システムへの変換, 60  
Sun Java System Directory Server, 29, 30

## T

TCP/IP protocol, 33  
ThreatWatcher, 231  
Traffic Visibility Tool, 227

## U

Usage Monitor  
個別インストール  
Linux, 161-163  
Solaris, 161-163  
Windows, 119-121  
定義, 9  
配備, 18  
User Service  
定義, 8  
配備, 16  
必要な権限, 68, 101

## W

Web Protection Services  
BrandWatcher, 231  
SiteWatcher, 231  
ThreatWatcher, 231  
Websense Enterprise  
Stand-Alone Edition から統合システムへ  
の変換, 60  
Web Security Suite へアップグレード  
, 59  
アップグレードのサポートされるバー  
ジョン, 36  
インストール  
Linux, 87-98  
Solaris, 87-98  
Windows, 67-86  
機能概要, 11-12  
コンポーネント  
削除, 188-194  
追加, 176-188  
コンポーネントの設定, 15-24  
初期設定, 209  
通信のための NIC の選択, 239  
Websense Enterprise – Corporate Edition, 61  
Websense Enterprise Explorer, 10

Websense Enterprise Explorer for Unix, 11  
Websense Enterprise Reporter, 10  
Linux

Websense Enterprise のインストール  
Linux  
, 87

Websense Manager  
個別インストール  
Linux, 151-153  
Solaris, 151-153  
Windows, 106-107  
実行しない, 251  
定義, 8  
配備, 16  
実行, 211

Websense Master Database (Master  
Database を参照)

Websense Web Security Suite  
Solaris, 87-98  
Stand-Alone Edition から統合システムへ  
の変換, 60  
Web Protection Services の初期設定, 231  
アップグレードのサポートされるバー  
ジョン, 36  
インストール  
Linux, 87-98  
Solaris, 87-98  
Windows, 67-86  
機能概要, 11-12  
コンポーネント  
削除, 188-194  
追加, 176-188  
コンポーネントの設定, 15-24  
初期設定, 209

Websense Web Security Suite – Corporate  
Edition, 61

websense.ini ファイル, 38

Websense サービス  
アップグレード前の停止, 39  
起動と停止  
Linux, 206-207  
Solaris, 206  
Windows, 204-206  
手動停止, 203-204

## Windows

- Active Directory, 29, 30
- NTLM ベースディレクトリ, 29, 30
- Websense Enterprise のインストール, 67-86
- Websense Web Security Suite のインストール, 67-86
- Websense コンポーネントのアップグレード, 40-48
- Websense サービスの起動と停止, 39, 204-206
- Websense のアップグレード, 40-48
- エラーメッセージ, 245
- コンポーネントの削除, 189-193
- コンポーネントの追加, 176-184

## Windows NTLM

- ログオンスクリプト, 225-226

## Windows XP SP2 とプロトコルブロック

- メッセージ, 217

## winpopup.exe, 217

## WSSEK.dat ファイル, 143

## あ

## アップグレード

- Linux, 48-53
- Remote Filtering Client, 55
- Remote Filtering Server, 54
- Solaris, 48-53
- Stand-Alone Edition から統合システムへ, 60
- Websense Enterprise から Web Security Suite へ, 59
- Windows, 40-48
- Windows の Websense コンポーネント, 40-48
- 一般情報, 38-40
- 英語以外の言語のバージョン, 38
- サービスの手動再起動, 40
- サポートするバージョン, 36
- フレッシュインストールへのデータの転送, 37-38
- 分散型 コンポーネント, 39

## い

## installation

- Websense Web Security Suite  
Linux, 87-98

## インストール

- Apache HTTP Server, 76, 116
- eDirectory Agent  
Linux, 165-167  
Solaris, 165-167  
Windows, 123-125
- Filtering Service ポート, 74, 91
- IIS Web Server の検出, 76, 116
- Logon Agent, 126-128  
Linux, 167-169  
Solaris, 167-169

## Manager

- Linux, 151-153
- Solaris, 151-153
- Windows, 106-107

## Network Agent

- Linux, 154-158
- Solaris, 154-158
- Windows, 108-112

## Policy Server ポート, 74, 91

## DC Agent

- Linux, 158-161
- Windows, 112-115

## RADIUS Agent

- Linux, 163-165
- Solaris, 163-165
- Windows, 121-123

## Real-Time Analyzer, 115-119

## Remote Filtering Client, 138-149

## Remote Filtering Client Pack, 136-138

## Remote Filtering Server, 128-136

- Linux, 169-175
- Solaris, 169-175
- Windows, 128-136

## Usage Monitor

- Linux, 161-163
- Solaris, 161-163
- Windows, 119-121

## Websense Enterprise

- Linux, 87-98

- Solaris, 87-98
- 個別の Windows コンピュータ, 67-86
- Websense Web Security Suite
  - 個別の Windows コンピュータ, 67-86
- Windows インストーラが実行しない, 251
- Windows でのコンソールモード, 252
- カスタムオプション, 64
- インストール中の Master Database のダウンロード
  - Windows, 84-85
- インストールディレクトリパス
  - Solaris および Linux, 96
  - Windows, 83
- インストールの修復, 175-201
- インターネットアクセス問題, 246-247

## う

- ウイルススキャナー, 247

## え

- 英語以外の言語のバージョン, 62
- エラーメッセージ
  - 場所, 245

## か

- カスタマサポート (テクニカルサポートを参照)

## き

- 基本認証, 231

## く

- クリアテキスト, 231

## け

- 言語, 62
  - ロケール, 16

## こ

- コンポーネント
  - 削除, 188-194
  - 修復, 195-201

- 追加, 176-188
- コンポーネントの削除
  - Linux, 193-194
  - Solaris, 193-195
  - Windows, 189-193
- コンポーネントの修復
  - Linux, 199-201
  - Solaris, 199-201
  - Windows, 195-199
- コンポーネントの追加
  - Linux, 184-188
  - Solaris, 184-188
  - Windows, 176-184

## し

- システム要件, 25, 32
  - ワークステーション, 33
- 手動認証, 30, 31

## す

- スイッチ環境, 17
- ステルスモード, 91
  - Network Agent, 239
- NIC の問題, 248-249
- 設定
  - Solaris または Linux, 241
  - Windows, 240
- 定義, 239

## せ

- セットアップ
  - Master Database のダウンロード, 210-215
  - ブロックページ URL, 215-216
  - ライセンスキー, 210-215

## て

- テクニカルサポート
  - Web ポータル, 262
  - サポートウェブサイト, 261
  - 電話によるサポート, 262
  - プレミアムサポート, 261

マニュアルに関するフィードバック  
 , 263  
転送バイト , 9  
ディレクトリサービス  
 一般要件 , 33  
 サポートされるタイプ , 29-31  
データベースのダウンロード (Master  
 Database のダウンロードを参照)

## と

透過的識別 , 30  
ドメイン管理者権限 , 68, 101  
ドメインコントローラ  
 ビジビリティテスト , 250

## に

認証  
 RADIUS Agent , 121, 163  
 User Service , 16  
 ディレクトリサービス , 29-31

## ね

ネットワークインタフェースカード (NIC)  
 Network Agent のための選択 , 78, 92, 110,  
 181, 186  
 インストールのヒント , 65  
 ステルスモードの設定  
 Solaris または Linux , 241  
 Windows , 240  
 ネットワーク効率 , 34

## は

配備  
 コンポーネントの要件 , 15-24  
 タスク , 12  
 ディレクトリサービス , 29-31  
 ネットワーク要件 , 25-31  
 パスワード  
 Policy Server の設定 , 212  
 プロキシサーバ / ファイアウォールの  
 設定 , 215  
 忘れた場合 , 245

## ひ

評価キー  
 ダウンロードのためのウェブサイト  
 , 75, 92

## ふ

ファイル  
 アップグレード時のバックアップ , 38  
 フェイルクローズパラメータ  
 リモートフィルタリング , 234  
 ブラウザ  
 パス , 152  
 ブロックページポート , 134, 174, 233  
 ブロックメッセージ  
 プロトコル , 217-218  
 ブロックページ URL , 215-216  
 プロキシサーバ  
 Master Database のダウンロードの設定  
 , 214  
 プロトコルブロックメッセージ , 217-218

## ほ

ポート番号  
 Filtering Service , 111, 134, 157, 173  
 Policy Server , 109, 116, 120

## ゆ

ユーザの識別 , 29-31

## ら

ライセンスキー  
 インストール中の Master Database のダ  
 ウンロード , 75, 92  
 確認とトラブルシューティング , 245  
 ダイアログボックス , 75  
 入力 , 210-215

## り

リモートフィルタリングの LocalLogSize  
 パラメータ , 236  
 リモートフィルタリングのためのパスフ  
 レーズ , 132, 172

リモートフィルタリングのフェイルク  
ローズタイムアウトパラメータ, 234

## れ

レポーターツール  
コンポーネントの配備, 24  
サポートするバージョン, 39

## ろ

ログ  
Remote Filtering Client, 236  
ログオンスクリプト

NetBIOS の許可, 250  
ドメインコントローラビジビリティ問  
題, 250

ログオンスクリプトのユーザプロファイ  
ル問題, 251

ログオンスクリプト  
ユーザプロファイル問題, 251

ロケール, 16

## わ

ワークステーション, 33  
割り当て, 12